

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 大石 敏広

講義内容・テーマ

70年代以降の現代科学の急速な発展とその応用ともなうて、我々を取り巻く医療や環境に関して深刻な倫理的問題が生じてきた。本講義では、具体的な問題を取り上げながら、倫理の存在意義、科学技術と倫理のかかわりについて考えていく。なお、本講義は、問題の一般的な解説を与えるものではない。具体的問題として医療の問題に焦点を絞り、ある程度深く問題に踏み込んでいくことによって、問題の重要性とその解決への展望について各自が自ら考える切っ掛けとなるような講義にしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

できるだけ前提となる知識を必要としないような分かり易い講義を心がけるつもりである。
受講生諸君が積極的に講義に参加できるように、時々講義中にミニ・レポートを書いてもらったり、討論をするつもりである。
教科書を使用せず、板書を中心に講義を進めていくので、しっかりとノートをとって、折に触れて見直すことが必要である。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
講義中に書くミニ・レポートも考慮する。
最終講義で試験を実施する。

講義スケジュール

講義内容の項目を以下に示す(多少変更の場合あり)。

- 1.はじめに:講義の目標、講義全体の概要等
- 2.胎児・胚の医療的利用は許されるのか?
- 3.医療技術の発展と人工妊娠中絶の問題:中絶をめぐる技術と中絶反対論の対立
- 4.医療技術の発展と安楽死・臓器移植の問題:命の医療的利用と命の尊厳性の対立
- 5.「倫理」そのものの問題:「なぜ人を殺してはいけないのか?」、「なぜ道徳に従わなければならないのか?」「倫理とは何か?」
- 6.全体のまとめ:倫理の存在意義の問題と、科学技術と倫理のかかわりの問題に対する解答
- 7.試験

テキスト

特になし。
必要な資料は講義中に配布する。

参考書

講義中に適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

同上

その他

疑問点がある場合は遠慮せずに質問すること。
たんに知識を受け取るといった受け身の態度ではなく、自分ならこう考えるという積極的な態度で講義を受けることが大切である。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 中村 義孝

講義内容・テーマ

人権の保障に関して、過去および現在の状況を直視し、近未来のあるべき姿を探る。
人権保障について考察するためには、法とはどのようなものか、裁判はどのようにして行われるのか、
人権保障が問題とされだした近代社会はどんな特徴をもっていたのか、日本国憲法の人権保障規定は
どうなっているのか、を正確に理解しておくことが前提となる。
人権問題に関する新聞記事は注意して見ておくように。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義を聴き、テキストを読み、それらを参考にして自分の頭で考えることが学問である。
受講に際しては、社会常識に反すること(私語・室内での着帽等)は厳禁する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
* 日常点評価
任意提出のレポートや予告なしの小テストを実施することがある。
良くできたレポートや小テストは最終評価に加味する。

講義スケジュール

テキスト第1章から第12章までを順を追って次の通り講義する。

- 1 法とは何か
- 2 法と裁判
- 3 近代社会と近代法
- 4 現代社会と人権
- 5 基本的人権とは
- 6 人権保障の効果
- 7 精神的自由権
- 8 身体的自由権
- 9 経済活動の自由
- 10 健康で文化的な生活
- 11 民法と財産状の権利
- 12 国際社会の人権
- 13 人権の創造

テキスト

中村・比嘉・徳川『テキストブック 法と人権』(法律文化社)

参考書

必要があれば別途指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 高橋 裕子

講義内容・テーマ

まず日常的なジェンダー感覚とはいかなるものなのかを様々な角度から取り上げ、後に、それらが相互行為場面でどのように作用し、その結果、行為者が好むと好まざると二項対立的に分類されることを社会学的な視点から明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

通念にとらわれないジェンダー理解を得るためには、講義に継続的に出席する学生の努力が不可欠である。思考の地道に積み重ねるつもりで講義に参加していただきたい。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー
- 第3回 生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー
- 第4回 性同一性障害 生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダーの関係性
- 第5回 身体技法に見る「男らしさ」「女らしさ」
- 第6回 身体技法に見る「男らしさ」「女らしさ」
- 第7回 身体技法を読み解く
- 第8回 自己提示とは？
- 第9回 社会的状況の秩序
- 第10回 「男らしさ」「女らしさ」が導き出すもの PAIR-FORMATION?
- 第11回 「男らしさ」「女らしさ」が導き出すもの PAIR-FORMATION?
- 第12回 アイデンティティの模索 「私らしさ」とは？
- 第13回 アイデンティティの模索 「私らしさ」とは？
- 第14回 まとめ

テキスト

『女らしさ』の社会学(高橋 裕子、学文社)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

15分以上遅れての入室禁止、途中退出禁止、私語・携帯電話の使用禁止。
登録者との関係から、基本的には講義形式で授業を進めていく。ただし、ビデオ鑑賞後の感想や日常的なジェンダー感覚を小レポートにまとめてもらう予定。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 深江 誠子

講義内容・テーマ

現在日本の若者の性感染症は68万人にも達している。性感染症の1つであるエイズも厚生労働省の発表では18000人の患者がいるし、エイズは若者に急速に広まっている。しかし、日本の小・中・高等学校での性教育は、まだまだ不十分なので、性教育をしっかりやりたい。また、中高年の男性たちの自殺は3万人に及び、若者の精神がどんどん壊れてきている。親たちから自立できないパラサイトシングルも1000万人の出現して来ている。その諸悪の根源は、家族だと思っている。また今後日本は能力社会になっていき弱肉強食の時代の到来である。そんな時代でも、男女を問わず、いい女、いい男になっていける。その方向を見定めて行きたい。戦争の仕組みも考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私は自分の考えをはっきり言うつもりだ。でもその意見に学生さんは従う必要はない。考える力を育てたいので、私の意見への異論は多いに結構。その反発で自分の意見を育ててもらいたい。

評価方法・基準

* 日常点評価

最終講義で試験をする。また、ビデオをかなりみてもらうので、数回ビデオの感想を書いてもらい、それらを総合的に採点する。

講義スケジュール

ジェンダーとは何か
性教育
エイズと映画『私を抱いてそしてキスして』

”
日本の男性の買春
セクシャルハラスメントについて
『従軍慰安婦』の問題
『従軍慰安婦』の現代的課題
日本の婚姻史
生活の中の環境問題
夫・恋人からのDV
病院出産のこわさ
ラマーズ法出産
子育て・これからの男女のあり方
筆記試験

テキスト

『家族ってなんだろう』深江 誠子 明石書店 生協で購入。

参考書

『女と男の経済学』深江 誠子著 社会評論社

『わたしの性ってなんだろう』深江 誠子著 松香堂 入手方法は講義の時に。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www/galstow.ne.jp/4/school/fukae>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 北島 義信

講義内容・テーマ

イランのイスラーム革命や南アフリカのアパルトヘイト撤廃運動、また日本においても、能登半島珠洲市の反原発運動に見られるように、社会体制変革においてイスラームやキリスト教や浄土真宗が重要な役割を果たしている。本講義では、地域をアフリカ、中東世界、日本に絞り、「状況化(Contextualization)」理論に基づいて宗教と社会の関係を具体的に明らかにしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特別な専門的知識は必要としない。講義は用意したプリントによって行う。受講生の疑問点・反論などについては、ミニ・レポート用紙に記入し提出する。次の講義時に、それにこたえたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験(筆記、100点満点)によって評価する。評価は大学の基準に基づいて行う。

講義スケジュール

- 第 1回 アフリカにおけるキリスト教と植民地支配
- 第 2回 70年代の南アフリカにおける解放闘争とキリスト教の関係
- 第 3回 80年代～90年代の南アフリカにおける解放闘争とキリスト教の関係
- 第 4回 イスラーム世界における宗教と解放闘争(1):イスラームとオリエンタリズム
- 第 5回 イスラーム世界における宗教と解放闘争(2):アリー・シャリーアティの思想
- 第 6回 イスラーム世界における宗教と解放闘争(3):イスラーム世界とアメリカの戦略
- 第 7回 顕密体制と鎌倉仏教
- 第 8回 親鸞の宗教思想の社会性
- 第 9回 浄土真宗と寺内町:浄土真宗と共同体形成
- 第11回 浄土真宗と一向一揆
- 第12回 浄土真宗と戦争責任
- 第13回 浄土真宗と反原発運動:能登半島珠洲市における反原発運動と浄土真宗
- 第14回 現代日本におけるカルト教の問題点
- 第15回 全体のまとめ

テキスト

テキストは使用しない。

参考書

『人類・開発・NGO』(新評論)、『地球村の行方』(新評論)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

心理学 S
心理学 SG

14718

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 滝野 功

講義内容・テーマ

心理学があつかう広大な分野や活動領域における様々な現象、出来事、事例などに接してそれらに対するさまざまな見方を味わいながら、こころの世界に向かったの窓をできるだけ多く開けたい。

また自分の集団との関わり方、物事やコミュニケーションに対するアプローチと関わり方をさまざまに試みながら、1)心理(学)的なセンスを育て、2)自分の内に宿る可能性を探り、3)(物事)や(事柄)そして(関わり)について吟味・検討する力を養う糸口を見つけない。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業 実は「授業」とは別な名前を募集中 では、自分が関与した限りににおいて学ぶところがあるもので、できるだけ楽をして単位取得のみを望む学生には、全く向いていない。基本的に毎回参加して、あったことやったことなどを振返る作業を通して、心理学の面白さを身につけてもらいたいと考えているので、就職活動や部活などで、しばしば欠席などがあり得る学生は原則的に履修できない。第1回目から出席のこと。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

授業に対する係わり方(質疑応答・グループ討議など)と毎回の自主的な振り返り反想記録、さらに個人や小集団での研究と発表などによって評価したい。

また同時に、できれば評価方法について学生とも話し合う予定。「評価」そのものについて考えることが、実は心理学の重要な課題にもなる。できれば学生の評価委員会なるものをつくり評価作業に参加させたい。

講義スケジュール

授業の内容や展開は、学生の興味・関心・希望そして質問や発言・働きかけなどによっても変動して行くので、あらかじめ細かくプログラムを作ることは不可能。しかし、非常に短い回数での「授業」のなかでも、次のテーマのなかのいくつかは取り上げたい。

- 1) 自由と不自由:自由とは何か? 自由になるためには何が必要か? 主体性と関わりの中かで考えてみよう。
- 2) 学びと心理的センス:どのような感じ方、関わり方、考え方が心を豊かに伸ばして行くか? あるいはダメにしていくか? 自分の学びのスタイルや癖についても考えてみよう。
- 3) 個性と性格:自分のパーソナリティはどのように気づくことができるか? それを育てたり、練り上げたり、磨いたりしていくことはいかに出来るか? どのようにしたら個性・性格を活かすことができるか?
- 4) 無気力と勉強嫌い:それらはどのように育ってしまうか? 知的好奇心を復活させるには? 無気力は伝染するか? アバシーから抜け出るためには何が必要か?
- 5) 自立と依存:「大人」となるということはどういうことか? 自分はどれだけ大人になっているか? そもそもどれくらい大人になりたいと思っているのか? 心理的「成熟」の条件は何か? どのように達成できるのか?
- 6) 自我と発達:自我の働きにはどういふことがあるか? それらはどのように発達するか? 発達の段階はどのように考えられているか?
- 7) 食べる・飲む・吸うこと:その生理と心理と病理について、各自自分の日々の生活の観察から考えてみよう。今の事態にいつからなったか? それはどうしてなのか?
- 8) 愛と憎しみ:親密さと愛情と性愛とはどのように関連しているか? それらはどのように変化したり、発達したり、つまづいたりするのか? それはなぜか?
- 9) ウソと騙し:人はなぜ騙されるのか? 偽物はどのように見抜くことができるか?
- 10) 宗教と神秘主義:日本人にとって宗教とは何か? 宗教を求める気持ちと軽蔑する気持ちはどこから来るのか? カルト集団はどのように心を操作するか?

11) 失うことと死ぬこと:人は喪失にどのような対応をするのか? 喪失体験が人を成長させるため条件は何か? 生死学が最も訴えることとは何か?

テキスト

「授業」と「自分」の内と外とで語られたり生じたりすることこそが、解読すべきものが織り込まれている原典(text)である。しかし、もちろん同じに解読のためには参考文献ばかりか、適宜、新聞や雑誌の記事、そしてできれば映画やドキュメンタリー・フィルム等を紹介する予定。とりあえずは、E・フロム『愛するということ』紀伊国屋書店と足立・塩見編『事例で学ぶ心理学』勁草書房を備えるのは悪くない。

参考書

「授業」と状況の展開に沿って必要な資料・書籍・ビデオなどがあれば、そのつど適宜挙げる予定。とりあえずは、松山幸雄『「勉縮」の勧め』朝日文庫とE・フロム『愛するということ』紀伊国屋書店を読んでみることに。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

適当なものがあれば「授業」のなかで示唆する予定であるが、学生からの面白いサイトなどの紹介も期待したい。

その他

この講義または授業は、多くの人にはこれまで受けてきた授業とは、かなり違ったもので、そうとう違った展開をされると思われる。自分のなかに生じる驚きや当惑、感動や違和感を心理学を学ぶ上の第一素材として大切に扱い、それらがどこからくるのかを含めた吟味検討ができる力を仲間と共に育てて欲しい。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 向井 俊彦

講義内容・テーマ

テーマ 青年と思想形成

未来の日本社会は、現在の青年が支えることになる。しかし現在、青年の成長が困難になっていると思われる。同時に、大人社会はそのことへの十分な配慮ができていないと思われる。近代文学で描かれた青年像を主な素材に、青年のアイデンティの形成の中での思想の問題を考えてみたい。新青年時代、新教養時代は展望しうるであろうか。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

第1回 哲学とは何か。世界観の認識論の学問である。今期なぜ、青年論をテーマとするか。

第2回 エリクソンの「人間の八つの発達段階」論と「アイデンティティ」論について

第3・4回 エリクソンの「青年ルター」について、

第5・6回 古屋健三『青春という亡霊－近代文学の中の青年』（NHKブックス）
第一章 青春の原点

第7・8・9回 第二章 自殺する青年

第10・11回 第三章 殺人を犯す青年

第12回 第四章 芸術に救われる青年

第13回 終章 『青年の誕生』と『青春の終焉』

第14回 まとめ

テキスト

古屋健三『青春という亡霊－近代文学の中の青年』（NHKブックス）

参考書

竹内洋『教養主義の没落－変わりゆくエリート学生文化』（中公新書）

E・H・エリクソン『青年ルター』1・2（西平直訳、みすず書房）

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

毎回短い感想文を書いてもらいます。評価に加味します。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 門屋 秀一

講義内容・テーマ

「どのようにすれば人間は善く生きることができるのか」という倫理学の根本問題に対しては、その根底にある概念「善」の哲学的考察が不可欠である。倫理学には現代的なテーマを含む応用倫理学もあるけれども、本講義ではむしろ「善」の考察のために、いわゆる伝統的古典的な倫理学を取り上げ、この価値概念が他のさまざまな価値概念とそれぞれいかなる関係を持っているかを考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席率50%以上を期末試験受験の最低条件とする。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
期末試験41%
出席状況59%
小レポート +

講義スケジュール

「善とは何か」
序論
本論
第1章 善と芸術
第2章 善と美
第3章 善と崇高
第4章 善と有用

この体系の骨格は主にイマヌエル・カントに依拠しているが、各詳述にあたっては古代から近代にいたるヨーロッパの哲学を幅広く扱う。

テキスト

有福孝岳編『エチカとは何か』(ナカニシヤ出版、一九九九年)

参考書

有福孝岳著『行為の哲学』(情況出版)、F.カウルパツハ著・有福孝岳監訳『行為の哲学』(勁草書房)、門屋秀一『カント第三批判と反省の主観性』(京都大学学術出版会)、その他

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

平素地道に努力している学生を落とさないため、出席は重視する。大学も実社会も根本的なルールはまったく同じでなければならぬと思うからである。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回数 1以上

担当教員 高木 敏美

講義内容・テーマ

講義内容・テーマ / Course Description, Focus and Goal

Course description

形式論理学は演繹についての科学であり、論証が妥当か否かを判定する体系的な手段を与えることを目標とする。
ここでは所謂FOL(第1階の論理)の基本的枠組を紹介する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生に関わる情報 / Special Requirements of Students

Introduction

できるだけ、当日の事項に関する解答を提出してもらおう。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

評価方法・基準 / Grading Criteria and Method of Evaluation

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ず御確認下さい。

* 筆記試験: 定期試験として実施

* 日常点: 加味する

各回での解答提出及び学期末のテストによる

本学の評価基準

評価 基準

A+ 初期の学習目標をほぼ完全に達成するか、
または傑出した水準に達している。

100点法では90点以上に対応。

A 問題はあがるが、所期の学習目標を十分に達している。

80～89点に対応。

B 誤りや不十分な点があるが、所期の学習目標を相当地に達成している。

70～79点に対応

C 所期の学習目標に最低限は満たしている。

60～69点に対応

F 単位を与えるためにはさらに勉強が必要である。

60点未満に対応。

講義スケジュール

講義スケジュール / Schedule

1. 日常言語での論証
 2. 真理関数的論理・・・命題論理
 3. 意味論と構文論
 4. 木の方法・・・その健全性、負全性及び決定可能性
 5. 一般性・・・述語論理
 6. 同一性及び関数
 7. 計算不可能性及び決定不可能性
- 以上の項目を2回ずつ順次おり上げる予定である。

テキスト

プリント使用

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 小川 丈治

講義内容・テーマ

古語辞典には「影像」だけで「映像」の文字はありません。「映像」という造語は1896年(明治29年)日本に映画技術が紹介されて以降に登場しました。今では写真、映画、テレビ、アニメ、CG等「他の物の表面に映った物の形・姿」を表す言葉として使われています。映像の知識とこれを駆使する能力を伝授します。

なお、講義内容は前期・後期、各クラス共基本は同じですが、受講生の反応をみて多少修正する事もあります。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

将来広告や放送業界を目指す人は是非。出席は不定期に数回とりレポート点に上積み。教室での雑談はお断り。

評価方法・基準

*試験に代わるレポートとして実施

レポートは、授業等で得た「映像」についての知識と諸君のこれまでの体験を元にして、君独自の「考え」を構築して書いてください。表現が下手でも君の頭脳のぬくもりが感じられるものを評価します。本やインターネットの引き写しは絶対アカン。

講義スケジュール

(序) 講師の自画像(VIDEO)	初めに、講師と映像との関わりをビデオ・ドキュメントで見てもらったうえ、4
第1講 「映像の時代」の意味	講までは主に「映像の歴史」を講じます。第1講で「映像の時代」の意味を、第2
第2講 歴史 絵画から写真へ	講から4講までは、人間がこれまで神話や空想世界や現実世界を壁や画布や紙やス
第3講 歴史 動く映像の発明	クリーンに「移す・写す・映す」ことに魅力を感じ、精力を費やしてきた歴史を振
第4講 歴史 初期の映画	り返ります。
第5講 映像認知の仕組み	5講～9講では「映像の表現特性」について講じます。映像と言語表現の類似点
第6講 脳の中の映像と言語	と相違点を、認知心理学や記号論の研究を援用して比較の上、映像表現の特質を究
第7講 映像と言語の比較	め、さらに映像表現の基礎作法を映像作品の一部を例に引きながら具体的に説明し
第8講 映像表現法1(撮影)	ます。
第9講 映像表現法2(編集)	10講～13講では「映像表現の陥穿と利点」について講じます。言語表現物よ
第10講 ナチスと映画	り映画・ビデオ・テレビなどの映像表現物の方が社会に強い影響力を持っているの
第11講 嘘つき映像の歴史	は、一つは伝達媒体(メディア)が異なること、それに映像表現が人の感性に直接
第12講 米国政治とTV	かつ素早く訴えかける特性を持っているからでしょう。これまで映像がどのように
第13講 映像との付き合い方	悪用されてきたか、それは何故か、どのようにすれば悪用が防げるかを考えます。
第14講 補遺(疑問に答える)	

テキスト

プリントを配付。関連ビデオ教材を沢山上映します。

参考書

興味がわきそうな書物を初回に紹介。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 今村 光章

講義内容・テーマ

本講義においては、教育学の見地から、現代教育が抱える問題点の紹介と検討を通して、今後の教育のあり方を考えたい。その際、教育の本質論(教育哲学)や、教育の歴史(教育史)、他の国の教育(比較教育学)を参考にしながら、とりわけ、教育におけるコミュニケーションのあり方をテーマに未来の教育のあり方を探ってみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業中の私語についてはきわめて厳しく対処する。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

最終講義日試験 70%。

テキストの感想文 20%。

自主レポート 10%(詳細は、授業時に説明する)

講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション 教育におけるコミュニケーションについて
- 第2回 教育とは何か
- 第3回 教育学とは何か
- 第4回 「学ぶということ」について学ぶ
- 第5回 教育の三角形
- 第6回 教育の目的とは何か
- 第7回 教育の歴史
- 第8回 現在の教育問題
- 第9回 教育とコミュニケーションについて考える(1)ディープコミュニケーション論
- 第10回 教育とコミュニケーションについて考える(2)ディープコミュニケーション論
- 第11回 教育とコミュニケーションについて考える(3)ディープコミュニケーション論
- 第12回 教育とコミュニケーションについて考える(4)ディープコミュニケーション論
- 第13回 教育とコミュニケーションについて考える(5)ディープコミュニケーション論
- 第14回 未来の教育と環境教育について
- 第15回 最終講義日試験

テキスト

今村光章『ディープ・コミュニケーション』(行路社 2003)
生協で購入すること。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

スポーツは世界的規模で展開され、変貌を遂げつつある。それは、グローバル化のなかで、アマチュア・スポーツの崩壊とともにスポーツビジネスの勃興である。そこで、これまでのアマチュアリズムとは何かを整理しつつ、現代スポーツの構造的特質とその問題点を明らかにしながら、国民スポーツのあるべき姿を展望する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

常識としてのスポーツ情報は、しばしば皮相的である。プロ・アマ問題を歴史的に把握するとともに、現実を総合的に養う眼をもってほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

アマチュアリズムの歴史的土壌を基本的に理解していること、その崩壊の要因をおさえた上で、現代スポーツの問題点を探る基本的枠組みを理解しているかどうか、評価のポイントである。

講義スケジュール

- (序) 習わなかった体育理論
- () 近代スポーツとアマチュアリズム
 - 前近代スポーツ
 - ギャンブリングスポーツ
 - スポーツクラブと参加資格
 - 近代スポーツ理念の根源的矛盾
- (2) 現代スポーツの構造的特質
 - アマチュアリズムの崩壊とロスアンゼルス・オリンピック大会
 - 構造的特質の連関
 - ノン・アマチュアの台頭
 - 自主的スポーツ運動の進展
 - スポーツビジネスの急展開
 - 「私的領域封じ込め」政策とナショナリズム
 - 国民のスポーツ権と地域スポーツの展望

テキスト

テキストは使わない。
レジュメを適宜教室でのみ配布する。

参考書

草深他編「新版。現代・スポーツ・健康」文理閣。同書第1部、第2部を参考。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

解ったふりをせずに、不明なことは直ちに質問すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 金井 淳二

講義内容・テーマ

冷戦体制が大きく変化してきている今日、政治・経済のあらゆる面で「市場原理」が強調されるような変化が生じている。そんな中で、スポーツを商品として捉え、その「消費的」価値を高めることにスポーツの社会的意味を見いだそうとする動きがある。その動向に視点をあて、スポーツの本質を探求しながら矛盾点を明らかにし、できあがった「商品」の単純な「消費者」にさせられないように、主体的「創造者」として現代のスポーツにどうかかわっていかを考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

スポーツの理解にとっては、各自のプレイ経験から得られるスポーツ実感が重要である。その意味で、「スポーツ方法論」の受講を奨励したい。また、課外活動でのスポーツ経験なども自覚的に関連づけて理解を深めていって欲しい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

基本的には、定期試験の記述内容で評価する。可能ならば、適宜授業中に小テストを行い、その内容も加味する。評価に際しては、基本的な専門的用語を理解しているか否かを重視する。

講義スケジュール

次の大きな二つの領域で、各小項目それぞれ約1～3回の授業時間を充てる。

- () 戦後社会の変化とスポーツの展開
 - 現代におけるスポーツを考える視点
 - 体育・スポーツの戦後改革
 - オリンピック主義スポーツの台頭
 - 高度成長期の政治・経済と国民スポーツ
 - 余暇社会論の中のスポーツ展開
 - 戦後スポーツの基本矛盾
- () 近代から現代へのスポーツの発展と課題
 - スポーツはどのように文化になったか
 - 近代スポーツ成立の基礎条件
 - 優勝劣敗主義とフェアプレイ
 - 近代スポーツはなぜ「近代」か
 - オリンピックとアマチュアリズム
 - プロスポーツの現状と未来
 - 国民のスポーツ権をめざして

テキスト

特別なテキストは使用しないが、芝田徳造他編『(新版)現代・スポーツ・健康』(文理閣)をテキストに準じて利用する。

参考書

参考書は授業の中で随時紹介していく。とりあえず、伊藤高弘他編『スポーツの自由と現代(上・下)』(青木書店)、および大修館書店刊の「スポーツ文化シリーズ」を紹介しておきたい。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業時に適宜配布するレジメをもとにして、講義形式で展開する。レジメは当該授業時以外には配布しないので注意のこと。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 有賀 郁敏

講義内容・テーマ

講義のテーマ: オリンピック運動から社会を読み取る

今年は8月に夏季オリンピックがギリシアのアテネを中心に開催される。本講義では、オリンピック運動の歴史を素材に、身体への眼差し、運動文化の盛衰、スポーツと国家、国際政治そして国際資本との関係などを考察していく。こうした学問的営為は、単にスポーツを政治などの表層において関係づけるといった「評論」から脱し、スポーツを通じて社会の深部を読み取っていくための試みでもある。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業は講義形式が基本となる。しかし、受講生が内容をよりよく理解するために講義に関するレジュメはもとより、ビデオ、デジタル写真、CD - Romなどを多く活用する。また講義の内容に関する意見交換の場を設け、受講生の貴重な見解については、それを共有するように努めたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

1. オリンピック運動において何が問われているのか
2. 近代オリンピック前史<その1> - 古代オリンピックの生成、展開、終焉
3. 近代オリンピック前史<その2> - 古代オリンピックの生成、展開、終焉
4. 古代オリンピックのスライド、ミニレポート
5. 近代オリンピック前史<その3> - 万博博覧会と民族オリンピック
6. 近代オリンピック前史<その4> - 英国のアスレティズムと帝国主義
7. 映画「炎のランナー」、ミニレポート
8. ケーベルタンのオリンピック理念と実際
9. ナチズムとオリンピック - 民族の祭典
10. ナチズムとオリンピック - 反ナチズムオリンピック運動
11. 映画「オリンピア」、ミニレポート
12. 日本のオリンピック参加と展開、オリンピック返上
13. 日本の植民地政策とオリンピック - 孫基禎の悲劇、ミニレポート
14. 現代のオリンピック運動とオリンピック運動の将来
15. まとめ

テキスト

特に指定しない。参考文献などを講義毎に受講生に紹介する。

参考書

- ・弓削達『ローマはなぜ滅んだか』講談社現代新書
- ・有賀郁敏他『近代ヨーロッパの探求8 スポーツ』ミネルヴァ書房
- ・川成洋『幻のオリンピック』筑摩書房
- ・橋本一夫『幻の東京オリンピック』NHKブックス
- ・山下高行他編『スポーツ・レジャー 社会学』道話書院

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 有賀 郁敏

講義内容・テーマ

講義のテーマ: オリンピック運動から社会を読み取る

今年は8月に夏季オリンピックがギリシアのアテネを中心に開催される。本講義では、オリンピック運動の歴史を素材に、身体への眼差し、運動文化の盛衰、スポーツと国家、国際政治そして国際資本との関係などを考察していく。こうした学問的営為は、単にスポーツを政治などの表層において関係づけるといった「評論」から脱し、スポーツを通じて社会の深部を読み取っていくための試みでもある。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業は講義形式が基本となる。しかし、受講生が内容をよりよく理解するために講義に関するレジュメはもとより、ビデオ、デジタル写真、CD - Romなどを多く活用する。また講義の内容に関する意見交換の場を設け、受講生の貴重な見解については、それを共有するように努めたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

特に指定しない。講義毎に受講生に紹介する。

講義スケジュール

1. オリンピック運動において何が問われているのか
2. 近代オリンピック前史<その1> - 古代オリンピックの生成、展開、終焉
3. 近代オリンピック前史<その2> - 古代オリンピックの生成、展開、終焉
4. 古代オリンピックのスライド、ミニレポート
5. 近代オリンピック前史<その3> - 万博博覧会と民族オリンピック
6. 近代オリンピック前史<その4> - 英国のアスレティズムと帝国主義
7. 映画「炎のランナー」、ミニレポート
8. ケーベルタンのオリンピック理念と実際
9. ナチズムとオリンピック - 民族の祭典
10. ナチズムとオリンピック - 反ナチズムオリンピック運動
11. 映画「オリンピア」、ミニレポート
12. 日本のオリンピック参加と展開、オリンピック返上
13. 日本の植民地政策とオリンピック - 孫基禎の悲劇、ミニレポート
14. 現代のオリンピック運動とオリンピック運動の将来
15. まとめ

テキスト

参考書

- ・弓削達『ローマはなぜ滅んだか』講談社現代新書
- ・有賀郁敏他『近代ヨーロッパの探求8 スポーツ』ミネルヴァ書房
- ・川成洋『幻のオリンピック』筑摩書房
- ・橋本一夫『幻の東京オリンピック』NHKブックス
- ・山下高行他編『スポーツ・レジャー社会学』道話書院

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 長崎 孝、MALTE JASPERSEN、久津内 一雄、永井 英美、仲井 邦佳、梁 貞模

講義内容・テーマ

この授業ではドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの言語を話す国の文化について、それぞれ3回ずつ講義する。外国語特に初修外国語を学習する意義や目的、各言語の現状や特徴、それらの言語を話す国の、歴史、文化、社会問題、日本とのかかわりなどを学習する。この講義は国際化の観点から、異文化理解、多言語・多文化の共生、平和と共存などといったことの重要性を学生諸君に学ばせる。と同時にコース選択の参考にもなる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語を3回ずつインパクト的に講義するから、自分の選択する言語が決まっても、是非欠席せずに、他の言語をも聞いていただきたい。国際化の社会では多数の外国語を知るのは武器だよ。教室での私語は厳禁。他の人に迷惑をかける。ひいては他人の学習権を侵害することになる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

筆記試験による評価。配点は、講義内容の基礎知識の確認が六割、講義内容と関連した論述が四割。

講義スケジュール

およそ次のような内容で授業を進めていく。(担当者の考えにより一部変更する場合がある。)

テーマ1 初修外国語を学習する意義や目的

外国語を学習する意義や目的

各初修外国語を学習する重要性や目的

異文化理解を深めると同時に、自国の文化への理解をも深める視点

外国語、とくに初修外国語を勉強する勉強法など

立命館大学における初修外国語履修システムや環境について

テーマ2 各初修外国語の言語的な特徴

それぞれの初修外国語の文字、発音、語彙、文法などの基本的な特徴。

発音の試しや挨拶言葉の発音練習。

それぞれの言語が使われている国や地域の人口、地理、自然環境などの特徴。

テーマ3 各初修外国語を話す国や地域の文化と社会

それぞれの言語を話す国や地域の歴史的・文化的・経済的・社会的な事情など。

話題となっている現代社会の現象。

歴史的、文化的、経済的、日本とのかかわりなど。

後期から始まる各初修外国語の授業運営。

試験について

テキスト

授業時プリント配布。

参考書

『外国語をどう学んだか』(講談社現代新書)。

『外国語上達法』(千野栄一、岩波書店)

『外国語学習の視点 多言語・多文化の学習をめざして』(横田勉、リーベル出版)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 長崎 孝、MALTE JASPERSEN、久津内 一雄、永井 英美、仲井 邦佳、梁 貞模

講義内容・テーマ

この授業ではドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの言語を話す国の文化について、それぞれ3回ずつ講義する。外国語特に初修外国語を学習する意義や目的、各言語の現状や特徴、それらの言語を話す国の、歴史、文化、社会問題、日本とのかかわりなどを学習する。この講義は国際化の観点から、異文化理解、多言語・多文化の共生、平和と共存などといったことの重要性を学生諸君に学ばせる。と同時にコース選択の参考にもなる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語を3回ずつインパクト的に講義するから、自分の選択する言語が決まっても、是非欠席せずに、他の言語をも聞いていただきたい。国際化の社会では多数の外国語を知るのは武器だよ。教室での私語は厳禁。他の人に迷惑をかける。ひいては他人の学習権を侵害することになる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

筆記試験による評価。配点は、講義内容の基礎知識の確認が六割、講義内容と関連した論述が四割。

講義スケジュール

およそ次のような内容で授業を進めていく。(担当者の考えにより一部変更する場合がある。)

テーマ1 初修外国語を学習する意義や目的

外国語を学習する意義や目的

各初修外国語を学習する重要性や目的

異文化理解を深めると同時に、自国の文化への理解をも深める視点

外国語、とくに初修外国語を勉強する勉強法など

立命館大学における初修外国語履修システムや環境について

テーマ2 各初修外国語の言語的な特徴

それぞれの初修外国語の文字、発音、語彙、文法などの基本的な特徴。

発音の試しや挨拶言葉の発音練習。

それぞれの言語が使われている国や地域の人口、地理、自然環境などの特徴。

テーマ3 各初修外国語を話す国や地域の文化と社会

それぞれの言語を話す国や地域の歴史的・文化的・経済的・社会的な事情など。

話題となっている現代社会の現象。

歴史的、文化的、経済的、日本とのかかわりなど。

後期から始まる各初修外国語の授業運営。

試験について

テキスト

授業時プリント配布。

参考書

『外国語をどう学んだか』(講談社現代新書)。

『外国語上達法』(千野栄一、岩波書店)

『外国語学習の視点 多言語・多文化の学習をめざして』(横田勉、リーベル出版)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 長崎 孝、MALTE JASPERSEN、久津内 一雄、永井 英美、仲井 邦佳、梁 貞模

講義内容・テーマ

この授業ではドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの言語を話す国の文化について、それぞれ3回ずつ講義する。外国語特に初修外国語を学習する意義や目的、各言語の現状や特徴、それらの言語を話す国の、歴史、文化、社会問題、日本とのかかわりなどを学習する。この講義は国際化の観点から、異文化理解、多言語・多文化の共生、平和と共存などといったことの重要性を学生諸君に学ばせる。と同時にコース選択の参考にもなる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語を3回ずつインパクト的に講義するから、自分の選択する言語が決まっても、是非欠席せずに、他の言語をも聞いていただきたい。国際化の社会では多数の外国語を知るのは武器だよ。教室での私語は厳禁。他の人に迷惑をかける。ひいては他人の学習権を侵害することになる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

筆記試験による評価。配点は、講義内容の基礎知識の確認が六割、講義内容と関連した論述が四割。

講義スケジュール

およそ次のような内容で授業を進めていく。(担当者の考えにより一部変更する場合がある。)

テーマ1 初修外国語を学習する意義や目的

外国語を学習する意義や目的

各初修外国語を学習する重要性や目的

異文化理解を深めると同時に、自国の文化への理解をも深める視点

外国語、とくに初修外国語を勉強する勉強法など

立命館大学における初修外国語履修システムや環境について

テーマ2 各初修外国語の言語的な特徴

それぞれの初修外国語の文字、発音、語彙、文法などの基本的な特徴。

発音の試しや挨拶言葉の発音練習。

それぞれの言語が使われている国や地域の人口、地理、自然環境などの特徴。

テーマ3 各初修外国語を話す国や地域の文化と社会

それぞれの言語を話す国や地域の歴史的・文化的・経済的・社会的な事情など。

話題となっている現代社会の現象。

歴史的、文化的、経済的、日本とのかかわりなど。

後期から始まる各初修外国語の授業運営。

試験について

テキスト

授業時プリント配布。

参考書

『外国語をどう学んだか』(講談社現代新書)。

『外国語上達法』(千野栄一、岩波書店)

『外国語学習の視点 多言語・多文化の学習をめざして』(横田勉、リーベル出版)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 長崎 孝、MALTE JASPERSEN、久津内 一雄、永井 英美、仲井 邦佳、梁 貞模

講義内容・テーマ

この授業ではドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの言語を話す国の文化について、それぞれ3回ずつ講義する。外国語特に初修外国語を学習する意義や目的、各言語の現状や特徴、それらの言語を話す国の、歴史、文化、社会問題、日本とのかかわりなどを学習する。この講義は国際化の観点から、異文化理解、多言語・多文化の共生、平和と共存などといったことの重要性を学生諸君に学ばせる。と同時にコース選択の参考にもなる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語を3回ずつインパクト的に講義するから、自分の選択する言語が決まっても、是非欠席せずに、他の言語をも聞いていただきたい。国際化の社会では多数の外国語を知るのは武器だよ。教室での私語は厳禁。他の人に迷惑をかける。ひいては他人の学習権を侵害することになる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

筆記試験による評価。配点は、講義内容の基礎知識の確認が六割、講義内容と関連した論述が四割。

講義スケジュール

およそ次のような内容で授業を進めていく。(担当者の考えにより一部変更する場合がある。)

テーマ1 初修外国語を学習する意義や目的

外国語を学習する意義や目的

各初修外国語を学習する重要性や目的

異文化理解を深めると同時に、自国の文化への理解をも深める視点

外国語、とくに初修外国語を勉強する勉強法など

立命館大学における初修外国語履修システムや環境について

テーマ2 各初修外国語の言語的な特徴

それぞれの初修外国語の文字、発音、語彙、文法などの基本的な特徴。

発音の試しや挨拶言葉の発音練習。

それぞれの言語が使われている国や地域の人口、地理、自然環境などの特徴。

テーマ3 各初修外国語を話す国や地域の文化と社会

それぞれの言語を話す国や地域の歴史的・文化的・経済的・社会的な事情など。

話題となっている現代社会の現象。

歴史的、文化的、経済的、日本とのかかわりなど。

後期から始まる各初修外国語の授業運営。

試験について

テキスト

授業時プリント配布。

参考書

『外国語をどう学んだか』(講談社現代新書)。

『外国語上達法』(千野栄一、岩波書店)

『外国語学習の視点 多言語・多文化の学習をめざして』(横田勉、リーベル出版)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 金 悠美

講義内容・テーマ

美あるいは芸術という、すぐれて感性的なものを、ただそのように感性に委ねるのではなく論理的に語ろう。その入門講座として当科目は構想される。

論述の主たる対象として選ばれるのは美術であり、それに、まずは様式(カタチ)の歴史の、ついで意味(ナカミ)の読解の、それぞれの観点からアプローチする。必須の課題となる中間レポートを経たあとの後半は、いわゆる制度論的な観点から、美術館、ジェンダー、あるいはサブカルチャー、...などをキーワードとしたテーマ別分析が試みられる。すべての回が終わったあと、受講者がこれまでとは違った視線で美に、芸術に接することを、担当者は念願している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

中間レポートはインターネットと電子メールを使って提出する可能性が高いので、10月末までには個人のメールアドレス(携帯電話は不可)を取得し、インターネットでの情報検索と電子メールにURLをリンクさせて送信する方法を各自習得しておくこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 試験に代わるレポートとして実施

定期試験の結果が主たる評価材料だが、中間レポート(この未提出者は後半の授業に出席しても単位認定はしない)や予告無しで当日実施される小レポート(点差はつけないが出席調査の意味を兼ねる)などの結果も加味して、総合的に判定される。また、相対評価ではなく絶対評価の方法がとられるが、経験上、定期試験受験者のうちA(およびA+)、B、Cがそれぞれ3割程度で、残りの1割程度(および未受験者)は不合格となるだろう見通しは、担当者間(全学で3人)で共有している。

講義スケジュール

01. イントロダクション
02. 様式論(1) 時代性
03. 様式論(2) 地域性
04. 様式論(3) 個人様式 贋作と鑑定
05. 意味論(1) イコノグラフィーからイコノロジーへ
06. 意味論(2) 象徴と感情表現
07. モダニズム論 純粋視覚性とメディウムへの還元
08. 中間レポート講評
09. 制度論(1) アヴァンギャルドと反芸術
10. 制度論(2) 美術館と美術市場
11. 視覚論(1) 視覚装置の発展
12. 視覚論(2) 視線の政治学
13. 視覚文化論(1) ヌードとポルノグラフィー
14. 視覚文化論(2) アートとオタク文化
15. 定期試験

テキスト

なし

参考書

太田喬夫編『芸術学を学ぶ人のために』世界思想社、1999年
 ジョン・A・ウォーカー / サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門』晃洋書房、2001年
 金悠美『美学と現代美術の距離』東信堂、2004年
 その他、授業中にも紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業用ホームページ <http://mypage.odn.ne.jp/home/artichoke>
 連絡事項や配布プリントを公開する

その他

当科目は、教養教育改革の趣旨に鑑みて、複数学部で開講される6つの同名授業の間で、一定の共通性をもたせるように配慮して構想された。その結果、「講義内容・テーマ」については同一の文面を掲出するに至ったが、すぐれて感性的な美

と芸術の問題を取り扱う授業ですべての教材や進行方法を共通化させることは不可能かつ無意味と判断し、テーマに沿った運用の細部は各担当者の裁量に委ねることとした。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 辻本 千鶴

講義内容・テーマ

文学作品は一個の自律した世界であるが、作者の思想・感性を反映したものである。そして作者は、彼の生きた時代と社会から制約も影響も受けている。本講義では、社会の中の文学という視点を重視する。明治から戦後までの文学作品から、テーマに応じた名作を選んで読解・鑑賞する。その作業を通じて、現代に生きる者が過去の文学作品を読む営為の、意義についても考えたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義形式で進行し、受講生に意見を求める機会は少ないと思われる。受け身に終始しないように、受講中のノート筆記、参考文献を読む等、地道な学習態度を期待する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
筆記試験80%、平常点<出席点>20%

講義スケジュール

第一回	概説
第二回～三回	明治の青春小説<夏目漱石「三四郎」・「それから」>
第四回～五回	明治の観念小説<泉鏡花「夜行巡査」・「外科室」>
第六回～七回	明治の女性文学<樋口一葉「大つごもり」・「十三夜」>
第八回～九回	白樺派の文学<志賀直哉と武者小路実篤>
第十回～十一回	大正期の女性文学<田村俊子と宮本百合子>
第十二回～十三回	戦争と文学<大岡昇平と梅崎春生>
第十四回～十五回	戦後の文学<安岡章太郎と小島信夫>

テキスト

使用しない。プリント配布。

参考書

全体としては『岩波講座 日本文学史』第十一巻～十四巻。テーマごとに講義中適宜紹介する。

全体としては『岩波講座 日本文学史』第十一巻～十四巻。テーマごとに講義中適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 兼重 努

講義内容・テーマ

文化人類学とは人類の文化・社会の多様性と普遍性に関する総合的学問である。本講義では、文化人類学の基礎を学ぶことを目的とする。重要なのは、文化人類学における文化の捉え方、視点や考え方を身につけることである。

講義では、まず文化人類学の考え方や研究方法、研究対象などの事項について解説し、異文化理解のための基礎的な枠組みを提供する。次に、文化人類学の主要な研究テーマの一部を具体的に紹介する。適宜、視聴覚教材を用いる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

学期末に課す課題レポートの評価を主体とし、授業において課す宿題の評価を加味して総合的に判定する。

講義スケジュール

- 第1回 文化・文化人類学とは何か？
- 第2回 文化人類学の視点
- 第3回 文化人類学の流れ
- 第4回 文化人類学の方法：フィールドワーク
- 第5回 生業(1)：狩猟採集民
- 第6回 生業(2)：牧畜民
- 第7回 文化人類学の研究対象=未開人・未開社会なのか？(1)
- 第8回 文化人類学の研究対象=未開人・未開社会なのか？(2)
- 第9回 民族誌とは何か？
- 第10回 民族誌を読む(1)前半
- 第11回 民族誌を読む(1)後半
- 第12回 民族誌を読む(2)前半
- 第13回 民族誌を読む(2)後半
- 第14回 文化人類学は役にたつのか？文化人類学の応用
- 第15回 まとめ

テキスト

テキストは用いない。毎回プリントを配布する。

参考書

参考書は授業中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 鈴木 清史

講義内容・テーマ

世界にはさまざまな民族が生活しており、かれらは固有の生活様式を有している。文化人類学では、こうした民族の個別研究を積み重ね、比較することによって人間とは何かを考えようとしている。本講義は文化人類学入門であり、この分野の基本的な考え方や概念を事例を用いて紹介する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

講義で取りあげる予定のテーマは以下の通りである(進行の仕方で若干の修正を行うこともある)。

- 1) 文化人類学とは何か
- 2) 人類の起源と進化
- 3) 環境と人間
- 4) 生業の諸相
- 5) 文化・社会そして個人
- 6) 社会組織 1
- 7) 社会組織 2
- 8) 世界観
- 9) 言語
- 10) 文化人類学の方法
- 11) 現代社会と文化人類学 - ために代えて -

理解を深めてもらうために、視聴覚教材も積極的に用いる予定である。

テキスト

参考書

とくに指定しない。下に最小限の参考文献をあげておく。ぜひ読んで欲しい。

祖父江孝男『増補文化人類学入門』中公 新書、江淵一公訳『現代文化人類学入門』講談社学術文庫、鈴木清史訳『人類学の歴史 人類学と人類学者』明石書店など

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

評価の仕方については受講生数などに応じて対応するつもりである。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 安達 房子

講義内容・テーマ

この科目は、「企業と社会」の関係を多面的な角度から論じていきます。
おもな獲得目標は、「企業と社会」に関する様々な諸問題への興味と関心を深めることです。
講義では、マネジメント論を基礎にしつつ、日本企業社会の特質について論じます。
その際、とくに失業や雇用問題、過労自殺などの原因を探るとともに、男女の共同参画、情報ネットワークが企業に及ぼす影響などの現代日本社会が抱える特徴的なトピックスを解説します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験。ただし、授業時間中のビデオ学習に伴うレポートなどを評価に加味します(20～30%程度)。

講義スケジュール

- 第1回 概要の説明
- 第2回 企業と社会の関係
(日本企業社会の特質の概要)
- 第3回～4回 企業と経営
(マネジメント論に関する基礎理論を知る)
- 第5回～6回 企業と雇用
(失業問題やフリーターの問題を考える)
- 第7回～8回 企業と人権
(働く女性の人権や過労自殺の問題を考える)
- 第9回～10回 企業と情報ネットワーク
(情報ネットワークが企業に及ぼす影響を考える)
- 第11回～12回 中小企業と地域社会
(主に下請企業やIT関連のベンチャー企業の特徴を踏まえ、地域活性化との関連を考える)
- 第13回 企業と社会的責任
(最近の企業の不祥事を取り上げ、企業の社会的責任を考える)
- 第14回 まとめ
- 第15回 閉講 (休講した場合は補講)

テキスト

レジュメ、資料を配布します。

参考書

渡辺峻『やさしく学ぶ経営学入門』八千代出版、2000年
その他、授業時に適宜紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

適宜紹介します。

その他

現代社会と法 S
現代社会と法 SG

12304

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 小田 美佐子

講義内容・テーマ

この講義は、法的思考(リーガル・マインド)とはどのようなもので、それが近代以降の社会でどのように発展・変遷し、われわれの市民生活にとってどのような意義を有するのかについて、実生活における人と法とのかかわりを手がかりに検討する。広く法学への関心を養いつつ、現代社会の様々な問題を法学の切り口で考える眼を養うことを目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

- 第1回 法とは何か
- 第2回 法学の特殊性
- 第3回 法学の論理の特徴
- 第4回 わが国の法の特徴
- 第5回 法の解釈
- 第6回 法の一般原則
- 第7回 権利
- 第8回 義務
- 第9回 契約
- 第10回 債務不履行
- 第11回 不法行為
- 第12回 企業社会と労働
- 第13回 結婚と家族
- 第14回 高齢社会と社会保障
- 第15回 まとめ

テキスト

小西國友『現代社会と法 - 人と法のかかわり - 』三省堂

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 赤澤 史朗

講義内容・テーマ

この講義は、現代日本政治の入門講義科目である。そのため本講義では、主として日本政治の基本的な仕組みと動態、さらに政治というものをいかに考えるかについて、基礎的な諸点を取り上げたい。それと同時に社会の諸領域と政治との関係について、比較的重視して論じてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

当たり前のことですが、出席して授業を聴きしっかりノートをとらなければ、ただ配布されたレジュメを見ても講義の内容は理解することは出来ません。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

- 第1回 はじめにー政治とは？
- 第2回 選挙
- 第3回 政党(1)
- 第4回 政党(2)
- 第5回 官僚
- 第6回 圧力団体と政治資金
- 第7回 地方自治
- 第8回 情報、マス・メディアと政治
- 第9回 教育と政治
- 第10回 女性と政治
- 第11回 宗教と政治
- 第12回 国際化と日本
- 第13回 日本のナショナリズム
- 第14回 まとめ

テキスト

テキストはない。レジュメと資料を配布することにした。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上
 担当教員 小松 史朗

講義内容・テーマ

本講では、現代企業の経営システム・経営法則の基本について、主に経営学・経済学の理論をベースとして概説する。講義内容は、コーポレートガバナンス、経営組織論、経営戦略論、人事労務管理論、生産管理論、財務管理論と広範に及ぶが、レジュメや資料を充実させることによって、受講者の理解を促進させる。また、講師は、現代企業における事例を豊富に取り入れながら分かり易く説明するよう努める。受講者には、講義を通して企業経営についての基礎知識を固めるのと共に、現代企業における経営の在り方についての独自の「観点」を養うことを期待する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講条件は特に設けない。講師は、初学者にも理解できるように講義することを心がける。ただし、講義中の私語、携帯電話の使用、飲食等、他の受講者の迷惑となる行為を取る者に対しては、厳しい態度で臨む。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
 主に定期テストの結果によって評価する。
 定期テストでは、あらかじめ指定した課題に基づいて論述回答して頂く。持ち込みは一切不可とする。

講義スケジュール

- 第1～2講
 - ・企業経営に関する基礎知識
 (企業とは何か、企業の種類、株式会社の仕組み、企業における資金調達など)
- 第3～4講
 - ・コーポレートガバナンスの概要
 (企業統治の諸形態、日本型メインバンクシステムの生成・特質、企業集中運動、戦略的提携、企業の社会的責任など)
- 第5～6講
 - ・経営戦略の概要
 (経営戦略とは？、経営理念・経営計画と経営戦略、アンゾフの経営戦略論、PLC理論、PPMなど)
- 第7～8講
 - ・経営組織の概要
 (「個人と組織」：アメリカ管理論史の概説(科学的管理法、人間関係論、バーナード理論など)
 (「戦略と組織」：経営組織の諸形態、チャンドラー理論、事業部制組織の特質と限界、SBU、マトリックス組織、プロジェクトチームなど)
- 第9～10講
 - ・日本の雇用慣行・人事労務管理の概要
 (産業技術革新・労働市場・労使関係から見た日本の経営雇用慣行・人事労務管理の特質とその生成過程、転換期における日本の雇用慣行・人事労務管理・労働市場)
 (年功賃金制から能力主義賃金管理へ、非典型雇用の拡大、専門職制、企業内教育訓練制度、労働法改正問題など)
- 第11～13講
 - ・生産管理・生産システムの概要
 (生産システムとは？、生産形態と生産管理、QC・TQC・TQM、サプライチェーン・マネジメント、購買管理の新しい流れなど)
 (トヨタ生産方式の仕組みと日本の特質)
- 第14講
 - ・財務管理の概要
 (財務管理とは？ 資金調達と財務戦略、貸借対照表・損益計算書の見方、損益分岐点分析など)

講義の進行状況により、上記の講義スケジュールに若干の変更の可能性はあることは予めご了承下さい。

テキスト

青木三十一『入門の入門 経営のしくみ(最新版)』日本実業出版社、2001年
 (衣笠キャンパス・生協書籍部に発注済み)

参考書

橋本輝彦[2003]『新版 現代日本の経営 その歴史的考察』文理閣
 武藤泰明『日経文庫 ビジュアル経営の基本(新版)』日本経済新聞社、2002年
 その他、講義時にトピックごとの参考文献リストを配布する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://member.nifty.ne.jp/mbon/j-management.htm> (宮坂純一「日本の経営を論じている文献一覧」)

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 大倉 三和

講義内容・テーマ

現代世界には、貧困や所得格差の深刻化、農業・食糧問題、環境問題、地域紛争の頻発など多様な問題群があり、どれも私たちの生活と深く関わっています。本講義では、現代国際関係の基本構造と、これら諸問題の形成、およびその解決に向けた取り組みをめぐる国際関係について、理解することを目的とします。

日本に暮らす私たちが、これらの諸問題にかかわってどのような位置関係にあるかについて、考察を深めて下さい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

厳密にテキストの内容通りに講義を進めるわけではないので、受講生は、テキストその他の参考文献・インターネットを使って自主的に学習をすすめ、講義内容についての理解を深めて下さい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

定期試験の結果を中心とし、平常点も加味して評価します。

講義中に4回ほどコメントを書いてもらうか、小テストを実施して、この結果をもとに平常点をはかります。

講義内容に関する小レポート(4000字未満)の作成・提出は自由です。最終講義日までに提出されたものについて、平常点として加算します。

講義スケジュール

以下の各テーマについて、レジュメに基づき講義します。3～7の講義は、2回に分けて行います。

- 1, グローバリゼーションと現代世界における諸問題
- 2, 現代国際関係の基礎構造
- 3, 20世紀の国際関係と日本
- 4, 貧困問題と開発援助
- 5, 世界の食料・農業問題
- 6, 市民運動・NGOの台頭と国家の変容
- 7, 兵器の拡散と紛争問題
- 8, 世界の資源・環境問題と人間の安全保障
- 9, 総括

テキスト

関下稔、永田秀樹、中川涼司編『クリティック国際関係学』東信堂。大学生協で購入できます。

参考書

高田和夫編『国際関係論とは何か：多様化する「場」と「主体」』法律文化社(1998年)

進藤栄一『現代国際関係学：歴史・思想・理論』有斐閣(2001年)

瀬川博義・河内信幸編著『現代国際関係の基礎と課題』建帛社(1999年)

木村英亮『21世紀の日本と世界：国際関係論入門』山川出版社(2002年)

すべて図書館にあります。生協書店をつうじて注文・入手も可能です。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

国際連合本部 <<http://www.un.org>>

国連広報センター <<http://www.unic.or.jp>>

国連開発計画(UNDP)東京事務所 <<http://www.undp.or.jp>> 外務省 <<http://www.mofa.go.jp>>

アジア太平洋資料センター <<http://www.parc-jp.org>> (世界の諸問題を市民の視点から捉え、新しい社会づくりにむけて提言するNGO)

その他

特になし。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 杉本 良雄

講義内容・テーマ

私たちの日常生活が世界経済との繋がりを深めている今日、経済をグローバルな視点から見るのがますます重要となってきた。本講義では、激動する現代世界経済を理解する上で重要な基礎概念である国際貿易、多国籍企業、対外援助、外国為替、国際収支、戦争、地球環境問題などを体系的、平易に解説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

TVや新聞、雑誌、インターネットなどを通じて、世界経済に関心を持ってほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験を基本とし、ビデオの感想文やレポートなどを加味して総合的に評価する。

講義スケジュール

- 第1回 グローバル時代
- 第2回 国際貿易
- 第3回 国際市場価格
- 第4回 WTO体制
- 第5回 多国籍企業
- 第6回 多国籍企業の影響
- 第7回 IT革命と世界経済
- 第8回 対外援助の本質
- 第9回 外国為替取引
- 第10回 国際通貨
- 第11回 国際収支
- 第12回 戦争・軍事
- 第13回 地球環境問題
- 第14回 地域統合
- 第15回 世界市民社会の構築

テキスト

使用しない。毎回レジユメを配布する。

参考書

松村文武・関下稔・藤原貞雄・田中素香編『現代世界経済をとらえる』Ver. 4, 東洋経済新報社, 2003年
ロバート・ギルピン著, 古城佳子訳『グローバル資本主義 - 危機が繁栄か - 』東洋経済新報社, 2001年
遠州尋美『グローバル時代をどう生きるか』法律文化社, 2003年
中川信義編著『国際産業論 - グローバル・インダストリ論序説 - 』ミネルヴァ書房, 1993年

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 井出 真也

講義内容・テーマ

テーマ「国際社会における法律問題」

国内社会のみならず、国際社会においても、様々な法律問題が存在する。本講義では、実際に国際社会において生じている多様な法律問題を紹介した上で、その法律問題がどのように検討・解決されているのかを概観する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞の国際欄等に積極的に目を通しておくと、本講義の理解がいっそう深まると思われる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

- 第1回 インTROダクシヨン
- 第2回 国際社会における法(1)
- 第3回 国際社会における法(2)
- 第4回 国際社会における紛争処理方法(1)
- 第5回 国際社会における紛争処理方法(2)
- 第6回 国際テロリズムと法(1)
- 第7回 国際テロリズムと法(2)
- 第8回 国際経済と法(1)
- 第9回 国際経済と法(2)
- 第10回 地球環境と法(1)
- 第11回 地球環境と法(2)
- 第12回 貿易と環境
- 第13回 日本と国際紛争(1)
- 第14回 日本と国際紛争(2)
- 第15回 まとめ(必要に応じて補講用)

テキスト

特に指定しない。必要に応じて、講義中に適宜指示します。

参考書

松井芳郎『国際法から世界を見る - 市民のための国際法入門 - 』(東信堂)、松井芳郎他著『国際法(第4版)』(有斐閣Sシリーズ)などが、本講義を理解する上で参考になると思われる。

授業の方法(大学院科目のみ)**参考になるWWWページ****その他**

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 中谷 猛

講義内容・テーマ

市民・市民社会・民主主義

現代世界の政治現象は多様なかたちで展開されている。その世界には複雑な価値の対立や利害のからむ言説が交錯する。もし政治の世界を理解しようとする、いろいろな接近方法があるだろう。この講義では上記のテーマを手がかりに歴史と思想の視角から政治とは何かを考えてみたい。政治の問題は政党の活動や議会のしくみという制度の面のみ収斂するものではない。制度を支える人間の営みとしての政治の視点が大きな意味をもつ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

政治学の学習には現実への関心のみならず、さまざまな知識、たとえば社会学や歴史学や経済学などが役立つ。講義はテキストを中心にこなすが、適宜関連する資料などを配布して理解をうながすようにしたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

期末におこなうペーパーテストが評価基準になる。ただし講義中での質疑応答などをこの基準に加味する場合がある。できるだけ質問したり、発言を求められる場合、積極的にこたえることが望ましい。

講義スケジュール

- 1 政治の世界とその枠組みの特徴
- 2 理念的市民像の形成
- 3 思想としてみた日本の政治と西欧の政治の比較
- 4 日本人の「お上」意識と公共性
- 5 国民国家と国民・市民
- 6 グローバル時代の市民とその運動
- 7 EUと移民問題
- 8 「豊かな社会」と政治意識の変容
- 9 デモクラシー政治の実態
- 10 エリートと大衆
- 11 情報化時代の政治とマスコミュニケーションの役割
- 12 市民のアイデンティティの形成
- 13 シティズンシップの問題
- 14 官僚政治と議会政治の行方
- 15 国際社会における日本政治の座標軸

テキスト

中谷他著『市民社会と市場のはざま』(晃洋書房)

参考書

中谷他編『概説西洋政治思想史』(ミネルヴァ書房)、ウェーバー、脇訳『職業としての政治』(岩波文庫)、ジラルデ、中谷他訳『現代世界とさまざまなナショナリズム』(晃洋書房)、千葉真『デモクラシー』(岩波書店)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

知的好奇心の旺盛な受講生の聴講に期待する。

日本経済概説 S

12562

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 松川 周二

講義内容・テーマ

- ・戦後の日本経済の発展を「われわれの生活」という視点も加えて説明する。
- ・後半は、現代の日本経済のさまざまな問題を取りあげ、やさしく説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- * 定期試験として実施

講義スケジュール

- 1 戦後の日本経済に復興
- 2 高度成長による豊かさの実現
- 3 オイルショックとスタグフレーション
- 4 現代日本の経済問題 概論
- 5 不況のデフレ・スパイラル
- 6 銀行の不良債権
- 7 財政赤字の拡大と国債累積問題
- 8 世界経済との協調

テキスト

なし。プリントを配布し、それに基づいて授業を進める。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 大江 一平

講義内容・テーマ

私たちの毎日の生活における利害や意見の調整を行うのが政治の役割である。さまざまな国民の利益や意見を調整・統合していく為に、国家には警察権、裁判権、刑罰権および徴税権といった強制力(国家権力)が与えられている。しかし、国家は恣意的に国家権力を行使してよいわけではない。近代以降、国家の最高法規であり、根本法である憲法に基づいて政治がなされなければならないという考え方(立憲主義)が採用された。本講義では、憲法とは何か、なぜ政治が憲法に基づいておこなわれなければならないか、そして、どのような制度が必要とされるのかを体系的に学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語・飲食は慎む事。六法は手持ちのものでいいが、できるだけ新しいものが望ましい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験によって評価する。試験の答案は必ず、講義内容にふれたものを要求する。

講義スケジュール

- 1.憲法総論
- 2.日本憲法史
- 3.平和主義
- 4.基本的人権総論
- 5.包括的基本権
- 6.精神的自由
- 7.経済的自由権
- 8.社会権
- 9.身体的自由権と手続き的権利
- 10.国務請求権と参政権
- 11.国民主権と天皇制
- 12.国会
- 13.内閣
- 14.裁判所
- 15.財政
- 16.地方自治

テキスト

参考書

川岸令和・君塚正臣・遠藤美奈・藤井樹也・高橋義人著「憲法」(2002年、青林書院)
芦部信喜著(高橋和之補訂)「憲法(第3版)」(2002年、岩波書店)
渋谷秀樹・赤坂正浩「憲法1・2」(2000年、有斐閣アルマ)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

v

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 池尾 靖志

講義内容・テーマ

「平和」という言葉は、使われる文脈によって、その意味する内容は異なってくる。例えば、私たちの考える「平和」と、ブッシュ大統領の考える「平和」は果たして同じといえるのだろうか。この講義では、平和学という学問領域が、これまで「平和」をどのように理解してきたのかを確認し、平和を実現するための様々な方策について検討を加える。その際に、社会構造にうずまく「権力」と「暴力」を見極めることが肝要となる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

・前期の「戦争の歴史と現在」をあわせて履修しておくこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
毎回、コメントカードを記入してもらい、平常点として加点する場合がある。

講義スケジュール

- 1) 平和学の課題
- 2) 権力は暴走する
- 3) 社会秩序を維持するための強制力
- 4) 「人道的介入」のまやかし
- 5) NGO(非政府組織)のパワー(1)
- 6) 「安全保障」概念の再検討
- 7) 構造的暴力とは
- 8) 地球環境問題を考える(1)
- 9) 地球環境問題を考える(2)
- 10) 環境と開発
- 11) グローバリゼーションの光と影
- 12) NGO(非政府組織)のパワー(2)
- 13) ジェンダーと平和
- 14) 「人間本位の」ガバナンス
- 15) 期末試験

テキスト

拙編「第2版 平和学をはじめ」晃洋書房、2004年10月(若干内容をアップデートさせ、PKOの部分など、若干、項目を追加したが、前期の「戦争の歴史と現在」を履修していた者は、旧版のものを持参のこと。)

参考書

担当者のホームページに随時掲載する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

担当者のホームページ <http://www.asahi-net.or.jp/~iz8y-iko/>

その他

特になし。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 田中 聡

講義内容・テーマ

エミシ社会論

日本古代史におけるエミシ(蝦夷)については、いっばんに「東北・北海道に住みしばしば反乱を起こした人々」と考えられている。彼らはかつて異人種・異民族とみられていたが、この一〇〇年の間に「日本人」の一種ととらえられるに至った。この講義では、古代エミシに対してこれまで何が仮託され、それが通説的な「日本史」像の形成に際してどう寄与したかを検討するとともに、最近の研究をふまえてエミシ社会の実像の一端を解明したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

取り上げるテーマは、現在における民族や国家の問題、特に歴史的身份をめぐり議論などと密接に関わっている。そうした問題に関心をもつ人の受講を希望する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

以下は現時点での構想であり、適宜変更を加える。

- 1 はじめに 問題の所在
- 2 エゾとアイヌの関係 - 幕末・明治前期の蝦夷像(研究史)
- 3 毛人と蝦夷の語源
- 4 倭人と毛人の関係
- 5 エミシの言語 - アイヌ語地名と方言(研究史)
- 6 東北・北海道の文字史料
- 7 エミシの形象 - 容貌と文学・マンガにみるイメージ(研究史)
- 8 唐を訪れた蝦夷
- 9 エミシの生業 - 不均等発展論(研究史)
- 10 東北古代の農耕と村落
- 11 北方交易の広がり
- 12 エミシと日本人の距離 - 疑似民族論(研究史)
- 13 反乱か戦争か
- 14 身分をめぐる対抗
- 15 おわりに エミシの虚像と実像

テキスト

授業時にプリントを配布。

参考書

工藤雅樹『東北考古学・古代史学』(吉川弘文館、1998)
他は授業中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 和泉 真澄

講義内容・テーマ

日本にとってアメリカ合衆国は、最も重要な「隣国」であり続けている。21世紀に入り、世界情勢は極めて流動的なものとなっているが、そのなかで合衆国の世界的影響力は良きにつけ悪きにつけ増大するばかりである。一方、合衆国内でも、エスニシティやグローバルエコノミーとの関連で、様々な新しい動きが出ている。この授業では、自然・人種関係・経済・文化などいくつもの角度からアメリカの歴史とその現代につながる意味を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教科書を読んできたことを前提に講義を行うので、指定の章を予習したうえで授業に望むこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

授業は講義形式であるが、講義は、教科書を予習してきたことを前提として、その内容のより詳しい説明や背景説明を行う。したがって教科書を予習するとともに毎回授業に持参すること。時折、出席チェックも兼ねて、小テストを行ったりや授業の感想を書いてもらう。以下、大まかなスケジュールを示す。〈 〉内は教科書の該当章である。

- 第1回 序論:アメリカ史の全体像〈序章〉
- 第2回 地図から見るアメリカ史〈第1章〉
- 第3回 農業ユートピアからクレジット王国へ:アメリカの経済的発展〈第2章〉
- 第4回 アメリカンドリームの神話と現実:労働と階級〈第3章〉
- 第5回 土地は誰のもの?:先住民の挑戦〈第4章〉
- 第6回 「白人」の創造:ヨーロッパ系移民たち〈第5章〉
- 第7回 奴隷船とヒップホップ:アフリカ系アメリカ人の歩み〈第6章〉
- 第8回 「国境」の問題性:ラティーノ・ヒスパニック〈第7章〉
- 第9回 「市民」と「外国人」:アジア系アメリカ人の体験〈第8章〉
- 第10回 アメリカ史におけるジェンダー〈第9章〉
- 第11回 「自由」の多様な解釈:政治思想の伝統〈第10章〉
- 第12回 政府の役割の変遷:アメリカ政治の表と裏〈第11章〉
- 第13回 多様性の(不)統一:国家統合と多文化主義〈第12章〉
- 第14回 アメリカ人はアメリカ教徒?:宗教と国民意識〈第13章〉
- 第15回 「ならず者」は誰?:アメリカの世界的拡大と米化への抵抗〈第15章〉

テキスト

有賀夏紀、油井大三郎編『アメリカの歴史:テーマで読む多文化社会の夢と現実』(有斐閣、2003)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 矢島 洋一

講義内容・テーマ

「イスラームでは～とされている」という説明は、多くの場合、一部のイスラームにしか通用しない。イスラームを正しく理解するためには、多様なイスラームを多様なまま理解することが必要である。本講義はそのような視点から毎回一つのテーマを取り上げて解説し、イスラームについての正確な知識を身に付けることを目標とする。あわせて、イスラーム世界の時事問題を理解するための基本的な視点についても触れる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

定期試験を主、日常点を従として評価する予定。

講義スケジュール

1. 序論
2. 間違いだらけのイスラーム用語
3. イスラームとは、何を信じ、何を行うことか
4. 神とは？
5. ムハンマドとは？
6. クルアーンとハディース
7. 宗派
8. 法
9. 特別な人々
10. 異教徒
11. 民族
12. パレスチナ問題とその背景
13. アフガニスタン問題とその背景
14. イラク問題とその背景
15. まとめ

テキスト

用いない。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 江口 信清

講義内容・テーマ

テーマ:地域としてのカリブ海社会の特徴を考える。

エリアスタディは、特定の地域を総合的に研究する試みである。本講義では、カリブ海地域を取り上げる。この地域は、ヨーロッパ列強の最初の本格的な海外植民地として開発されていった。この地域を多様な側面から考察することで、地域としての特徴を浮き彫りにすることが目標である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

できるだけ積極的に、主体的に講義に参加して欲しい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

定期試験を実施するが、日常の講義時にも小作文を数回課し、総合的に評価する予定である。

講義スケジュール

- 1 授業の進め方と「地域の概念」
- 2 カリブ海地域の自然環境
- 3 ヨーロッパ人はなぜカリブ海地域へ進出を始めたのか
- 4 先住民とヨーロッパ人の接触
- 5 プランテーションの開発と奴隷制
- 6 アフリカ人奴隷の生活世界
- 7 ヨーロッパ本国と新世界
- 8 なぜ、どのように奴隷が解放されたのか
- 9 多様な移民の流入と多文化社会の形成
- 10 農民社会の形成
- 11 ビデオ鑑賞『マルチニークの少年』
- 12 キューバ革命とカリブ海地域
- 13 観光開発の進行とカリブ族
- 14 カリブ海地域と貧困
- 15 まとめ

テキスト

特定のテキストは使用しない。

参考書

江口信清『カリブ海地域農民社会の研究』八千代出版(図書館にある)

大杉高司『無為のクレオール』岩波書店

その他、必要に応じて講義時に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

できるだけ視聴覚資料も使い、五感を使ってカリブ海地域を理解してもらう予定である。始業ベルの開始と同時に始めるので、遅刻をしないようにつとめて欲しい。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 池尾 靖志

講義内容・テーマ

「戦争」とは、本来、国益を追求する国家間において発生する、軍事力を用いた紛争を意味する。ところが、とりわけ、冷戦構造がドラスティックに変化する中で、国際の平和と安全を脅かすものとして、国家間による戦争に代わって、内戦の多発、テロとその報復などのように、国家と非国家的アクターとの関係、もしくは、非国家的アクター間による対立をも「戦争」として扱われるようになってきた。こうした「新しい戦争」と呼ばれる現象をも射程において、戦争の発生メカニズムについて検討したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

・後期に開講される、「平和と人間の安全保障」(産業社会・文学部開講)をあわせて履修することがのぞましい。

評価方法・基準

- ・定期試験として実施
- ・定期試験で評価するが、毎回の授業で記入してもらうコメントカードの成績を平常点として加味する場合がある。

講義スケジュール

* 予定は、国際情勢や、学生の理解度に応じて、随時変更します。

- 1) 「戦争」と国際関係
- 2) 国際関係のイメージ
- 3) 戦争の違法化に向けて
- 4) 集団安全保障と集団的自衛権
- 5) 冷戦システム(1):米ソによる核軍拡競争
- 6) 冷戦システム(2):キューバ危機の与えた影響
- 7) 冷戦システム(3):「恐怖の均衡」
- 8) 冷戦システム(4):泥沼化したベトナム戦争
- 9) 冷戦システム(5):ソ連のアフガン介入
- 10) 冷戦システムの瓦解:アメリカによる「新世界秩序」の模索
- 11) ポスト冷戦システム(1):恣意的に介入された「混沌圏」
- 12) ポスト冷戦システム(2):「戦争」の当事者は誰か?
- 13) ポスト冷戦システム(3):グローバル化した戦争経済
- 14) ポスト冷戦システム(4):「テロ」の衝撃
- 15) 定期試験

テキスト

拙編『平和学をはじめ』晃洋書房、2002年をベースに用いる。

参考書

- ・J. ナイ, Jr., 田中明彦, 村田晃嗣訳『国際紛争(原書第4版)』有斐閣、2003年
 - ・川崎哲『核拡散』岩波新書、2003年
- このほか、随時、講義中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

担当者のホームページ <http://www.asahi-net.or.jp/~iz8y-iko/>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 増井 寛也

講義内容・テーマ

1912年までの中国を英語圏ではImperial China(中華帝国)という。「帝国」には皇帝・官僚による専制支配/多民族国家という二重の含意があるが、この二つの要素は一党独裁の権威主義/漢族の少数民族支配というかたちでなお健在である。現代中国の抱える諸問題を「帝国」の発生に遡って歴史的に概観する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高校世界史履修レベルか、それと同等の知識が望ましい。

評価方法・基準

*試験に代わるレポートとして実施

*日常点評価

なにぶん2000年にわたる歴史を大づかみに扱うので、欠席が連続すれば当然授業内容の系統的把握が困難となるのはいうまでもない。したがって、平常の出席点を重視する方針であるが、その具体的なカウント方法については未定である。

講義スケジュール

1. 序論 「中華帝国」の遺産;「民主」と「民族」
2. 「封建」と「郡県」;秦
3. 儒学の官学化;漢
4. 門閥貴族;魏・晋から唐
5. 科挙官僚;宋
6. 征服王朝;遼・金・元
7. 専制国家の完成;明清時代の科挙・官僚制・郷紳
8. 多民族国家;中国本土/東北/モンゴル・東トルキスタン・チベット/朝鮮とヴェトナム
9. 清末の「近代化」;洋務・変法・立憲
10. 中華民国;北洋軍閥/革命派・孫文・蒋介石
11. 中華人民共和国

テキスト

大沢陽典 他編『アジアの歴史(増補版)』;法律文化社
その他、適宜レジュメ・資料を配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

日本の近現代と立命館 GA
特殊講義(日本の近現代と立命館) GA
ヴィジョン形成特殊講義(日本の近現代と立命) GA

13069

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2～8回生
担当教員 小関 素明、芦田 文夫、岡尾 恵市、松岡 正美、柳ヶ瀬 孝三

講義内容・テーマ

日本の近現代と立命館の百年

本学で学ぶ者にとって共通した「身近な場」である大学の歴史を通して、日本近現代史を学び、今日われわれが直面している近代化のひずみ、教育の危機などの問題を、身近な視点から再考する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 嚴 敬俊

講義内容・テーマ

朝鮮半島を中心に、東アジアの近未来を展望します。過去・現在・未来の歴史軸を縦軸に、そして、安全保障・経済協力・文化交流などのキーワードを横軸にして、東アジアの国際関係を多面的に捉えます。東アジアは、現在どう動いているのか、どこへ向かっているのかを、共に考えるような授業を展開します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

歴史観が問われる授業です。意見・反論を大歓迎します。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- レポートで評価します。レポートは二つです。
- 一つは、韓国・朝鮮、あるいは東アジアをめぐる論文、単行本などで、講義内容と関連のある著作を読んで、書評すること。
- 二つ目は、この授業を通して何がわかったのか、提案も含め、期末レポートを書くことです。
- 以上につき、規格はA4用紙にパソコンなどでタイピングすることです。字数などは自由です。

講義スケジュール

- 第1回 講義概要: どのような東アジアを構想するのか。
 - 第2回 古代からの交流史: 京都のなかの朝鮮文化
 - 第3回 東洋三国の開国・帝国主義への対応策比較
 - 第4回 朝鮮の民族主義
 - 第5回 朝鮮戦争とベトナム戦争
 - 第6回 韓国(大韓民国)と朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)の政治および経済体制
 - 第7回 韓国 - 朝鮮関係の歴史と現状
 - 第8回 スポットライト1 - 2000年の南北首脳会談
 - 第9回 韓国 - 朝鮮 - アメリカ関係の歴史と現状
 - 第10回 スポットライト2 - いわゆる「核問題」とは何か
 - 第11回 韓国 - 朝鮮 - 中国関係の歴史と現状
 - 第12回 韓国 - 朝鮮 - 日本関係の歴史と現状
 - 第13回 スポットライト3 - 拉致問題をどう見るか
 - 第14回 在外朝鮮人(日本・中国を中心に)
 - 第15回 まとめ
- 以上につき、変更の可能性もあります。

テキスト

講義案は、毎回、プリントを配布します。参考書として、以下を提示しておきます。

1. 金子勝・藤原帰一・山口二郎編『東アジアで生きよう！ - 経済構想・共生社会・歴史認識』岩波書店、2003。
2. アジェンダ・プロジェクト『アジェンダ: 未来への課題』2003年夏、創刊号。
「朝鮮半島と日本のいま」が特集され、私の論文も入っています。
3. 森嶋通夫『日本にできることは何か - 東アジア共同体を提案する』岩波書店、2001。

参考書

1. 金子勝・藤原帰一・山口二郎編『東アジアで生きよう！ - 経済構想・共生社会・歴史認識』岩波書店、2003。
2. アジェンダ・プロジェクト『アジェンダ: 未来への課題』2003年夏、創刊号。
「朝鮮半島と日本のいま」が特集され、私の論文も入っています。
3. 森嶋通夫『日本にできることは何か - 東アジア共同体を提案する』岩波書店、2001。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

ヨーロッパの歴史 S

12564

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 佐藤 専次

講義内容・テーマ

今日, EUの台頭はめざましいものがある。しかし統合にいたるヨーロッパの歴史には二つの世界大戦など苦難に満ちた歴史が横たわっている。ヨーロッパがいつ, どのようにして一つの統一した歴史世界をつくりあげたのか, そしてそれがどのようにして国民国家が拮抗する体制へと展開していったのか。これらの問題を中世から近代までの歴史を通して概観していきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

- 1 ローマ帝国の崩壊
- 2 イスラームと地中海世界
- 3 カールの戴冠
- 4 西欧キリスト教世界の膨張
- 5 信仰の分裂
- 6 主権国家の台頭

テキスト

使用せず。

参考書

授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

歴史観の形成 S

14996

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 1以上

担当教員 田中 聡

講義内容・テーマ

歴史学における「民族」 - 日本古代を例に
 「歴史」について思い浮かべるとき、われわれは「民族」や「国民」というまとまりを所与の前提とした時間の経過を当然のように想起する。こうした「歴史の物語」はいつから自然なものと感じられるようになったのか。それはどのように作られ、現在の歴史観にいかなる影響を及ぼしているのか。こういった物語から脱して歴史を叙述する術はあるのか。この講義では、「民族」をキーワードとして紀元前後から八世紀頃までの歴史をとらえ直すことで、これらの問題について考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

取り上げるテーマは、現在における民族や国家の問題、特に歴史のアイデンティティをめぐる議論などと密接に関わる。こうした問題に関心をもち、生産的な議論をする意欲のある人の受講を希望する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

- 1 はじめに 問題の所在
- 2 日本史の起源をめぐって 縄文文明論
- 3 日本史の起源をめぐって いつから有史か
- 4 倭人の実態 三世紀の東アジア
- 5 倭人の実態 邪馬台国をめぐって
- 6 王権の出現 もう一つの「天下」
- 7 王権の出現 東アジアの巨大墳墓
- 8 「民族」的統一 筑紫君磐井の戦争
- 9 「民族」的統一 渡来人の「帰化」
- 10 帝国の論理 任那の調をめぐって
- 11 帝国の論理 夷狄と諸蕃の設定
- 12 国民の成立 戸籍の作成と身分決定
- 13 国民の成立 「公」の理念
- 14 国民の成立 神話と儀式の共有
- 15 おわりに 再び「民族史」を問い直す

テキスト

授業時にプリントを配布。

参考書

姜尚中・森楽博『ナショナリズムの克服』（平凡社新書、2001）
 山尾幸久『筑紫君磐井の戦争』（新日本出版社、1999）
 他は授業中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

宇宙科学 S

15002

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 伊藤 裕

講義内容・テーマ

宇宙を階層的に構成する諸天体、および宇宙全体について、その姿と時間発展を概観する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期筆記試験を実施する。平常点を加味する可能性もある。

講義スケジュール

- 第 1回 はじめに & 地球
- 第 2回 月
- 第 3回 太陽系
- 第 4回 太陽面現象
- 第 5回 太陽のエネルギー源
- 第 6回 いろいろな恒星
- 第 7回 星間物質と星形成
- 第 8回 恒星の進化
- 第 9回 恒星の終末
- 第10回 私たちの銀河系
- 第11回 いろいろな銀河とその集団
- 第12回 宇宙の大規模構造 & 謎の暗黒物質
- 第13回 膨張する宇宙
- 第14回 宇宙の過去と未来
- 第15回 閉講

テキスト

なし

参考書

比田井昌英ら「宇宙のデータブック」東海大学出版会。加藤万里子「新版・100億年を翔ける宇宙」恒星社厚生閣。野本陽代「続 ハッブル望遠鏡が見た宇宙」岩波新書691。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

今日科学はよりマクロな宇宙空間へ、よりミクロなクォークへ、また生命の神秘へと発展し続けている。また、技術に応用されて日々の生活をますます便利にしている。その一方で死の病原体プリオンによるといわれるBSE、狂牛病やCJD(クロイツフェルト・ヤコブ病)問題、環境ホルモンや人工化学物質による汚染、ヒトゲノム解読やクローン人間など生命倫理に関わる問題、薬害エイズ、原子力発電所の事故など、科学技術に関わる社会問題がつつぎに起きている。それではわれわれ市民にとって科学技術とはそもそも何であるのか、科学者・技術者はいかにあるべきかなどの問題が、今日あらためて問い直されている。そこで本講では、上述のようないくつかの最近の典型的な科学技術問題を取り上げて、科学・技術の社会的ありようを検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ビデオ教材や教材提示装置を用いてできるだけビジュアルな授業を行う。また毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)などを教室で配布するがあくまで基本的部分に限るので、授業は毎回出席すること。なお、授業中に感想文、小レポートなどを実施することもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

成績評価は、教室内で提出する2回程度のレポートを中心に、その他感想文、小レポート等も加味して、平常点で行う。

講義スケジュール

- 第1週 脳とプリオン 狂牛病とCJD(クロイツフェルト・ヤコブ病)
- 第2週 世紀を越えて 豊かさの限界?人工化学物質の時代
- 第3週 環境ホルモンによる汚染を考える
- 第4週 環境ホルモン問題を考える コルポーン他『奪われし未来』を読む
- 第5週 「環境の世紀」の到来 カーソン『沈黙の春』を読む
- 第6週 ヒトゲノム解析 生命の世紀へ
- 第7週 ドリーからクローン人間へ? 「生命の世紀」はどこへ向かうか?
- 第8週 薬害エイズをめぐる薬害エイズと人権、生きること
- 第9週 医学と医学者、医の倫理 ヒポクラテスから薬害エイズまで
- 第10週 薬害エイズの社会論 どうしたら薬害は根絶できるか
- 第11週 チェルノブイリで何が起きたか
- 第12週 チェルノブイリの真実 原子力開発と産業社会
- 第13週 マンハッタン計画(その1) 原爆開発はいかにして始まったか
- 第14週 マンハッタン計画(その2) 原爆開発、製造と投下はいかにしてなされたか、科学者の罪と抵抗
- 第15週 市民と科学者・技術者、科学・技術と社会 まとめにかえて

テキスト

テキストに準じて、中村靖彦著『狂牛病 人類への警告』(岩波新書、2001年)、T.コルポーン他著『奪われし未来』(翔泳社、1997年)、R.カーソン『沈黙の春』(新潮文庫版、1962年)など。他は、適宜授業中に指示する。

参考書

随時授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

適宜授業中に指示する。

その他

必要な連絡、質問などは、原則として授業時、教室で受け付けます。授業終了時にどンドン私のところに来てください。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

今日科学はよりマクロな宇宙空間へ、よりミクロなクォークへ、また生命の神秘へと発展し続けている。また、技術に応用されて日々の生活をますます便利にしている。その一方で死の病原体プリオンによるといわれるBSE、狂牛病やCJD(クロイツフェルト・ヤコブ病)問題、環境ホルモンや人工化学物質による汚染、ヒトゲノム解読やクローン人間など生命倫理に関わる問題、薬害エイズ、原子力発電所の事故など、科学技術に関わる社会問題がつつぎに起きている。それではわれわれ市民にとって、科学技術とはそもそも何であるのか、科学者・技術者とはいかにあるべきかなどの問題が、今日あらためて問い直されている。そこで本講では、上述のようないくつかの最近の典型的な科学技術問題を取り上げて、科学・技術の社会的ありようを検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ビデオ教材や教材提示装置を用いてできるだけビジュアルな授業を行う。また毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)などを教室で配布するがあくまで基本的部分に限るので、授業は毎回出席すること。なお、授業中に感想文、小レポートなどを実施することもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

成績評価は、教室内で提出する2回程度のレポートを中心に、その他感想文、小レポート等も加味して、平常点で行う。

講義スケジュール

- 第1週 脳とプリオン、動物から人へ? 狂牛病とCJD(クロイツフェルト・ヤコブ病)
- 第2週 世紀を越えて 豊かさの限界? 人工化学物質の時代
- 第3週 環境ホルモンによる汚染を考える
- 第4週 環境ホルモン問題を考える コルボーン他『奪われし未来』を読む
- 第5週 「環境の世紀」の到来 カーソン『沈黙の春』を読む
- 第6週 ヒトゲノム解析 生命の世紀へ
- 第7週 ドリーからクローン人間へ? 「生命の世紀」はどこへ向かうか?
- 第8週 薬害エイズをめぐって 薬害エイズと人権、生きること
- 第9週 医学と医学者、医の倫理 ヒポクラテスから薬害エイズまで
- 第10週 薬害エイズの社会論 どうしたら薬害は根絶できるか
- 第11週 チェルノブイリで何が起きたか
- 第12週 チェルノブイリの真実 原子力開発と産業社会
- 第13週 マンハッタン計画(その1) 原爆開発はいかにして始まったか
- 第14週 マンハッタン計画(その2) 原爆開発、製造と投下はいかにしてなされたか、科学者の罪と抵抗
- 第15週 市民と科学者・技術者、科学・技術と社会 まとめにかえて

テキスト

テキストに準じて、中村靖彦著『狂牛病 人類への警告』(岩波新書、12001年)T.コルボーン他著『奪われし未来』(翔泳社、1997年)、R.カーソン『沈黙の春』(新潮文庫版、1962年)など。他は、適宜授業中に指示する。

参考書

随時授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

適宜授業中に指示する。

その他

必要な連絡、質問などは、原則として授業時、教室で受け付けます。授業終了時にどんでん私のところに来てください。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 近藤 啓介

講義内容・テーマ

世の中には「スプーン曲げ」「透視」「予知」「幽霊」など不思議な現象が多く存在します。あなたが不思議な現象に出会ったら、どのように考え、どのように行動しますか？

本講義では「スプーン曲げ」などの実演をしながら、不思議現象の謎を解明します。そして将来どのようなVariationの自然科学・技術に出会っても、怯えることも騙されることもなく、自分で考えて理解し解決するための、科学的な物事の見方・考え方を学びます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義では、結果ではなく自らが考え・解決する過程が重要です。授業に出席し自分で考える積極的な学生の受講を望みます。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

レポートの提出 (30%)と期末試験の成績 (70%)

講義スケジュール

- (1) ガイダンス スプーン曲げの実演
- (2) スプーン曲げの真実
- (3) 超能力者はマジシャンなのか？
- (4) ノストラダムスの大予言
- (5) 動物の超能力事件
- (6) 映画「リング」の貞子は実在した？
- (7) 超能力？マジックを覚えよう(1)
- (8) コックリさんは、低級霊の仕業？
- (9) UFOは宇宙人の乗り物か？
- (10) UFO写真・心霊写真の作り方
- (11) 血液型占いは、なぜやる
- (12) 超能力？マジックを覚えよう(2)
- (13) 気功を体験
- (14) 非在証明の難しさ
- (15) 宗教と科学・まとめ

テキスト

「超能力」を科学する、安斎育郎著、かもがわ出版

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

今日地球規模の環境問題が激化し、近代の大量生産・大量消費・大量廃棄型の産業・技術・社会システムじしんが問い直されている。人類は、周囲の環境を改変・破壊しつつどのようにして生産活動を拡大してきたのだろうか。近代的な産業・技術システムが、いつ、どのようにして生まれ、また技術は科学とどのように関わり合いながら発展してきたのだろうか、さらに科学を組織的に技術に応用しながら巨大な生産力を生み出してきた科学技術の現代的社会的ありよう(専門化した社会)はいつ、どのようにしてできあがってきたのだろうか、本講は、そうした問題を科学技術史的に考察することを目的とする。なお、こうした科学技術史のアプローチは、従来の科学史と技術史の通史のように、いわば科学知識の増加や技術水準、労働生産性の向上一辺倒ではなく、環境問題等との関連も重視しながら、できるかぎり社系の学生諸君の問題意識に応えるように工夫改善を試みたものである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)を配布する。ビデオ教材を用いることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

成績評価は、2回程度実施するレポート、およびその他感想文、ミニレポートなど日常点で行う。

講義スケジュール

- 第1週 いま歴史から学ぶこと イースター島の教訓
- 第2週 『緑の世界史』を読む ポジとネガ、人類の活動と環境
- 第3週 ギルガメッシュ叙事詩
- 第4週 石器づくりの歴史的進歩 古人類学にみる人間と技術
- 第5週 古代技術と科学 すきから5つの単一機械まで
- 第6週 『デ・レ・メタリカ』の世界 道具と機械、工場:社会的生産システムの起源
- 第7週 もののけ姫の世界 近代と非近代、人間と技術
- 第8週 現代文明と近代化への反省から
- 第9週 産業革命のイノベーション 紡錘、紡錘車からジェニー機、水力紡績機へ
- 第10週 イノベーションとファクトリー アークライトと機械体系、近代的工場制度
- 第11週 『技術・科学・歴史』を読む 転回点における西欧技術
- 第12週 『技術・科学・歴史』を読む 技術と科学
- 第13週 『科学の社会史』を読む 科学に基礎づけられた技術・応用科学と科学の組織化
- 第14週 『科学の社会史』を読む イギリス科学の衰退、専門化した社会
- 第15週 まとめ

テキスト

テキストに準じて、D.S.Lカードウェル『科学の社会史 イギリスにおける科学の組織化』(昭和堂、1986年)、および同『技術・科学・歴史 展開期における技術の諸原理』(河出書房、1982年)

参考書

C.ボンティング『緑の世界史』(朝日選書、1994年)、大沼正則『技術と労働』(岩波書店、1995年)、他は随時授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

とくになし。

その他

連絡などは授業の時教室で、質問歓迎です。その日の授業終了後に私のところにどんどん来てください。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

今日地球規模の環境問題が激化し、近代の大量生産・大量消費・大量廃棄型の産業・技術・社会システムじしんが問い直されている。人類は、周囲の環境を改変・破壊しつつどのようにして生産活動を拡大してきたのだろうか。近代的な産業・技術システムが、いつ、どのようにして生まれ、また技術は科学とどのように関わり合いながら発展してきたのだろうか、さらに科学を組織的に技術に応用しながら巨大な生産力を生み出してきた科学技術の現代的社会的ありよう(専門化した社会)は、いつ、どのようにしてできあがってきたのだろうか。本講は、そうした問題を科学技術史的に考察することを目的とする。なお、こうした科学技術史のアプローチは、従来の科学史、技術史の通史のように、いわば科学知識の増加や技術水準、労働生産性の向上一辺倒ではなく、環境問題等との関連も重視しながら、できるかぎり社系の学生諸君の問題意識に応えるように工夫改善を試みたものである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回講義レジュメ、講義資料(図版、文献)を配布する。ビデオ教材を用いることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

成績評価は、2回程度実施するレポート、およびその他感想文、ミニレポートなど日常点で行う。

講義スケジュール

- 第1週 いま歴史から学ぶこと イースター島の教訓
- 第2週 『緑の世界史』を読む ポジとネガ、人類の活動と環境
- 第3週 ギルガメッシュ叙事詩
- 第4週 石器づくりの歴史的進歩 古人類学にみる人間と技術
- 第5週 古代技術と科学 すきから5つの単一機械まで
- 第6週 『デ・レ・メタリカ』の世界 道具と機械、工場:社会的生産システムの起源
- 第7週 ものけ姫の世界 近代と非近代、人間と技術
- 第8週 現代文明と近代化への反省から
- 第9週 産業革命のイノベーション 紡錘、紡錘車からジェニー機、水力紡績機へ
- 第10週 イノベーションとファクトリー アークライトと機械体系、近代的工場制度
- 第11週 『技術・科学・歴史』を読む 転回点における西欧技術
- 第12週 『技術・科学・歴史』を読む 技術と科学
- 第13週 『科学の社会史』を読む 科学に基礎づけられた技術・応用科学と科学の組織化
- 第14週 『科学の社会史』を読む イギリス科学の衰退、専門化した社会
- 第15週 まとめ

テキスト

テキストに準じて、D.S.Lカードウェル『科学の社会史 イギリスにおける科学の組織化』(昭和堂、1986年)、および同『技術・科学・歴史 展開期における技術の諸原理』(河出書房、1982年)

参考書

C.ボンティング『緑の世界史』(朝日選書、1994年)、大沼正則『技術と労働』(岩波書店、1995年)、他は随時授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

とくになし。

その他

連絡などは授業の時教室で、質問歓迎です。その日の授業終了後に私のところにどんどん来てください。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

現代環境論

地球環境問題は人類の生存をも脅かす重大問題であり、社会や人間生活もこの問題と無関係ではありえない。私たちがその認識を深めることの重要性が増している。本講では、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染と酸性雨、有害物質汚染などの環境問題の現状とメカニズムについて学び、それらの解決の方策について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義はまじめに出席、受講すること。ときどき講義への感想や意見などを書く小レポートの提出を求める。また、エネルギー問題に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は6月最後の講義まで)。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

期末試験に平常点(小レポート)を加味して行う。自由研究・学習による自主レポートも受け付け、その優れたものについては、成績評価の参考にする。

講義スケジュール

1. はじめにー地球環境問題を学ぶ意義と目的
2. 地球環境の進化と構造
3. オゾン層破壊(1)大気圏の構造、オゾン層と紫外線、
4. オゾン層破壊(2)オゾン層破壊のメカニズム、影響と破壊防止の取り組み
5. 地球温暖化(1)温暖化のメカニズム、温暖化の進行と影響、
6. 地球の温暖化(2)温室効果ガスの排出動向、今後の気温上昇とその影響予測、
7. 地球の温暖化(3)温暖化防止の取り組み
8. 大気汚染と酸性雨(1)大気汚染と酸性雨のメカニズム、
9. 大気汚染と酸性雨(2)大気汚染と酸性雨の影響と対策
10. 放射能汚染(1)放射線と放射能、放射線の人体影響
11. 放射能汚染(2)原子力利用に伴う放射能汚染、
12. 化学物質汚染(1)ダイオキシン汚染とその影響、
13. 化学物質汚染(2)環境ホルモン汚染とその影響、
14. 戦争・軍事活動による環境破壊
15. 地球環境危機克服と「持続可能な社会」

テキスト

和田武「新・地球環境論」創元社

参考書

和田「環境問題を学ぶ人のために」世界思想社、石井ら「脱フロンへの道」学陽書房、気候ネットワーク「よくわかる地球温暖化問題」中央法規、和田・石井「このままだと20年後の大気はこうなる」カタログハウス、林ら「温暖化防止のためのエネルギー戦略」実教出版、谷山鉄郎「恐るべき酸性雨」合同出版、和田「地球環境問題入門」実教出版、朝日新聞社原発問題取材班「地球被爆」朝日新聞社、宮田秀明「よくわかるダイオキシン汚染」合同出版、北条祥子「よくわかる環境ホルモン汚染の話」合同出版、エーリッヒ他「核の冬」光文社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

環境省; <http://www.env.go.jp/>、IEA(International Energy Agency); <http://library.iea.org/>、厚生労働省; <http://www.mhlw.go.jp/>、環境省; <http://eco.goo.ne.jp/>、資源エネルギー庁; 気候ネットワーク; <http://www.jca.apc.org/kiconet/>、 など。

その他

環境問題に関して自主的に学んだ感想や、調査結果をまとめた自主レポートの提出は大いに歓迎する。随時受け付けるが、6月中提出が望ましい。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

地球環境問題は人類の生存をも脅かす重大問題であり、社会や人間生活もこの問題と無関係ではありえない。私たちがその認識を深めることの重要性が増している。本講では、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染と酸性雨、有害物質汚染などの環境問題の現状とメカニズムについて学び、それらの解決の方策について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義ははじめに出席、受講すること。ときどき講義への感想や意見などを書く小レポートの提出を求める。また、エネルギー問題に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は12月最後の講義まで)。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

期末試験に平常点(小レポート)を加味して行う。自由研究・学習による自主レポートも受け付け、その優れたものについては、成績評価の参考にする。

講義スケジュール

1. はじめにー地球環境問題を学ぶ意義と目的
2. 地球環境の進化と構造
3. オゾン層破壊(1)大気圏の構造、オゾン層と紫外線、
4. オゾン層破壊(2)オゾン層破壊のメカニズム、影響と破壊防止の取り組み
5. 地球温暖化(1)温暖化のメカニズム、温暖化の進行と影響、
6. 地球の温暖化(2)温室効果ガスの排出動向、今後の気温上昇とその影響予測、
7. 地球の温暖化(3)温暖化防止の取り組み
8. 大気汚染と酸性雨(1)大気汚染と酸性雨のメカニズム、
9. 大気汚染と酸性雨(2)大気汚染と酸性雨の影響と対策
10. 放射能汚染(1)放射線と放射能、放射線の人体影響
11. 放射能汚染(2)原子力利用に伴う放射能汚染、
12. 化学物質汚染(1)ダイオキシン汚染とその影響、
13. 化学物質汚染(2)環境ホルモン汚染とその影響、
14. 戦争・軍事活動による環境破壊
15. 地球環境危機克服と「持続可能な社会」

テキスト

和田武「新・地球環境論」創元社

参考書

和田「環境問題を学ぶ人のために」世界思想社、石井ら「脱フロンへの道」学陽書房、気候ネットワーク「よくわかる地球温暖化問題」中央法規、和田・石井「このままだと20年後の大気はこうなる」カタログハウス、林ら「温暖化防止のためのエネルギー戦略」実教出版、谷山鉄郎「恐るべき酸性雨」合同出版、和田「地球環境問題入門」実教出版、朝日新聞社原発問題取材班「地球被爆」朝日新聞社、宮田秀明「よくわかるダイオキシン汚染」合同出版、北条祥子「よくわかる環境ホルモン汚染の話」合同出版、エーリック他「核の冬」光文社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

環境省; <http://www.env.go.jp/>、IEA(International Energy Agency); <http://library.iea.org/>、厚生労働省; <http://www.mhlw.go.jp/>、環境go; <http://eco.goo.ne.jp/>、資源エネルギー庁; 気候ネットワーク; <http://www.jca.apc.org/kiconet/>、 など。

その他

環境問題に関して自主的に学んだ感想や、調査結果をまとめた自主レポートの提出は大いに歓迎する。随時受け付けるが、12月中提出が望ましい。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 伊東 宏

講義内容・テーマ

現代のわが国の健康問題を医学的、公衆衛生学的、社会的な観点から見つめ、個々人がその中でどのように健康づくりに取り組んだら良いかを、身近な生活の中の諸問題について具体的に考えていく。情報化社会の中で、健康問題に関する情報もテレビ、新聞などのメディアを通じて氾濫している。医学的見地から、確かな科学的データに基づくと考えられる情報にのみポイントを絞って提供し、人生で自己実現を行う上での基本的条件とも言える「健康づくり」の方法論について考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施

評価方法はテストによる。テストに加え、オンラインでのディスカッションに積極的に参加した者には、評価を加算する。

講義スケジュール

- 第1回 健康とはなにか
- 第2回 統計データからみるわが国の健康問題について
- 第3回 生活習慣病1「癌」
- 第4回 生活習慣病2「心血管病その1」
- 第5回 生活習慣病3「心血管病その2」
- 第6回 食事と健康1
- 第7回 食事と健康2
- 第8回 たばこと健康1
- 第9回 たばこと健康2
- 第10回 お酒と健康
- 第11回 運動と健康・睡眠と健康
- 第12回 女子学生の健康
- 第13回 化学物質と健康
- 第14回 物理環境と健康
- 第15回 ストレスと健康

テキスト

レジュメを用いる。

参考書

1. 学生と健康 国立大学等保健管理施設協議会編 南江堂 (1996)1,800
2. 厚生省の指標・臨時増刊「国民衛生の動向」厚生統計協会(毎年8/31発行)2,000

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.kenkounippon21.gr.jp/> 「健康日本21」のホームページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 伊東 宏

講義内容・テーマ

現代のわが国の健康問題を医学的、公衆衛生学的、社会的な観点から見つめ、個々人がその中でどのように健康づくりに取り組んだら良いかを、身近な生活の中の諸問題について具体的に考えていく。情報化社会の中で、健康問題に関する情報もテレビ、新聞などのメディアを通じて氾濫している。医学的見地から、確かな科学的データに基づくと考えられる情報にのみポイントを絞って提供し、人生で自己実現を行う上での基本的条件とも言える「健康づくり」の方法論について考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施

評価方法はテストによる。テストに加え、オンラインでのディスカッションに積極的に参加した者には、評価を加算する。

講義スケジュール

- 第1回 健康とはなにか
- 第2回 統計データからみるわが国の健康問題について
- 第3回 生活習慣病1「癌」
- 第4回 生活習慣病2「心血管病その1」
- 第5回 生活習慣病3「心血管病その2」
- 第6回 食事と健康1
- 第7回 食事と健康2
- 第8回 たばこと健康1
- 第9回 たばこと健康2
- 第10回 お酒と健康
- 第11回 運動と健康・睡眠と健康
- 第12回 女子学生の健康
- 第13回 化学物質と健康
- 第14回 物理環境と健康
- 第15回 ストレスと健康

テキスト

レジュメを用いる。

参考書

1. 学生と健康 国立大学等保健管理施設協議会編 南江堂 (1996)1,800
2. 厚生省の指標・臨時増刊「国民衛生の動向」厚生統計協会(毎年8/31発行)2,000

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.kenkounippon21.gr.jp/> 「健康日本21」のホームページ

その他

現代の科学技術 S
現代の科学技術 GA

12415

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 苅屋 公明

講義内容・テーマ

本講義では、技術と人間、および人間の構成する社会との関係を理解しやすい「計測科学」をテーマとする。
「計測科学」は情報を獲得し、知識を得て、その知識を人のため、社会のために役立たせる一連の行為を学問の体系にオーソライズする科学であり、各領域に共通な基礎科学である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

現代の社会およびこれからの社会は技術に担われた社会である。
この講義を通じて技術の社会への作用の仕方を学ぶことは、皆さんの将来の生活や仕事にプラスになる所が大である。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
試験に代わるレポート

皆さんの日常生活、社会生活、社会活動が、どのように情報を得て、それを解析した知識によって成り立っているかを理解することが評価基準となる。

講義スケジュール

第 1 回	計測科学の学問上の位置付け
第 2～3 回	計測と社会の関係
第 4 回	情報と知識、そして情報と知識を得る方法
第 5 回	計測の三つの仕事と三つの使命
第 6～7 回	計測の基本
第 8 回	計測の体系化と計測のシステム
第 9～10 回	静的な計測と動的な計測
第11 回	センサと信号(シグナル)
第12～13 回	信号(シグナル)の解析と知識の把握(獲得)および利用
第14～15 回	より確かな、より賢い計測を求めて

担当者は国際計測連合 (IMEKO) で重要な役割を担っています。その活動も含めて、このスケジュールを調整する場合があります。授業中の連絡に注意して下さい。

テキスト

「計測科学 - 計測の社会的役割」 - - - 苅屋公明 著、産業図書(株)
生協、および一般書店

参考書

1. 「計測の科学と工学」 - - - 苅屋公明、前田親良 著、産業図書(株)
2. 「計る、測る、量る」 - - - 高田誠二 著、BLUE BACKS

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

教科書は本学の講義用に書いたものであるが、現在では大学の基礎科目の教科書として一般化した。
受講に当たって必ず用意すること。講義は教科書に従って行う。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 足立 薫

講義内容・テーマ

私たち人間が生物としてどのような特徴をもち、同種や他種の生物との間にどのような関係を結びつつ生きているのかを考える。進化の過程で、人間のさまざまな特徴がどのように獲得されてきたのかを、明らかにすることが目標である。とくに人類に近縁である霊長類の行動や生態への理解から、人類進化を解明する方法を紹介する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

生物学の知識は特に必要としないが、講義で示されるトピックをもとに、「人間とは何か」について深く考えることが求められる。小テスト、講義に関する注意事項の伝達、課題の連絡などにWebCTを使用する。各自でアクセスできるようにしておくこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験を評価の中心とする。試験は論述形式、持込自由で行う。期間中に小テストを数回と、小レポートを実施し、評価に加味する。小テスト:20%、小レポート:30%、定期テスト:50%。

講義スケジュール

- 1 ガイダンス
- 2 霊長類とは何か
- 3 類人猿とは何か
- 4 進化論とは何か
- 5 人類の起源
- 6 動物行動学から行動生態学へ
- 7 人間の生物学
- 8 採食行動の進化
- 9 繁殖と性
- 10 群れ形成と混群
- 11 母性と父性の生物学
- 12 家族の起源
- 13 互酬性と協力行動
- 14 道具使用と文化

以上のような内容を予定しているが、講義の進展状況によってスケジュールを調整する。

テキスト

用いない。

参考書

『人間性はどこから来たか サル学からのアプローチ』(西田利貞 京大出版会)

『人間性の起源と進化』(西田正規・北村光二・山極寿一編 昭和堂)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

京都大学理学部人類進化論研究室 <http://jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学霊長類研究所 <http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 依田 憲

講義内容・テーマ

生物の形態や行動は、生存や繁殖のために非常にうまくできている。そうした生物の適応性がどのようにして生じたのか、その仕組みを理解することが本講義のテーマである。現時点ではその仕組みは、ダーウィンの提唱した概念でほぼ説明可能であると考えることが主流となっている。本講義ではその基本となる進化論を説明したうえで、生物のふるまいがその視点からどのように統一的に解釈できるかを学習していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

生物の基礎知識は必要ないが、論理的な思考力と、好奇心は必要。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

- 1: 進化という概念とその仕組み
ダーウィンの考えたこと
- 2: 最適戦略
何をどう食うかの意思決定
- 3: 進化的に安定な戦略
闘争・雌雄の戦略・性比など

テキスト

使用しない。

参考書

授業で紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業で紹介する。

その他

スポーツのサイエンス S

12567

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 井上 恵子

講義内容・テーマ

身体活動に関する科学的理論を基礎として、生涯にわたって自己の健康管理が行われるよう、その理論と実践法を学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施
筆記試験の結果を重視するが、提出物等も加味して評価する。

講義スケジュール

- 1.健康と体力
- 2.スポーツと筋機能
 - ・筋の構造と組成
 - ・筋力トレーニング
 - ・運動・スポーツと筋肉痛
- 3.スポーツ活動とエネルギー
 - ・運動・スポーツのエネルギー源
 - ・運動・スポーツとエネルギー代謝
- 4.全身持久力トレーニング
- 5.身体組成
- 6.子どもとスポーツ
- 7.高齢者とスポーツ
- 8.不活動が身体に及ぼす影響
- 9.スポーツと寿命
- 10.現代人のライフスタイル
- 11.運動習慣を生活に取り入れよう

テキスト

使用しない

参考書

授業時に適宜紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

生物の多様性 S

15001

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 佐藤 路子

講義内容・テーマ

地球上には海洋、河川、森林、高山、砂漠など様々な環境が存在し、それぞれに適応した様々な生物が生息している。そして、同じ環境に生息している生物同士であっても、生活を営む方法はそれぞれ違っている。本講義では様々な生物やその営みを紹介し、なぜたくさんの生物が存在しているのか、どうやって様々な生活の営みが作り上げられてきたのか、その多様性はどのように維持されているのか、を主に環境と生物の関係・生物間関係に着目して解説する。また近年注目されている生物多様性の重要性と保全についても議論する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

一回の講義は前半と後半に分かれています。前半では生物多様性を理解するために必要な概念や理論を具体例を通じて学習します。後半では生物多様性に大きな影響を及ぼす外来種、絶滅に瀕している種、保全運動が行われている種などの中から、毎回1種類の話題の生き物を取り上げて、その特徴や生活ぶりを紹介し、その生物が現在直面している問題について解説します。
理解を深めるために「自然と進化」を合わせて受講されることをおすすめします。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
日常点を加味するために小レポートを課することがあります。

講義スケジュール

以下の順序に従って授業を進める予定です。
1. 授業の概要、受講のルール、試験および評価基準について
2. 生物多様性の概念と階層性
3. 種多様性と種の形成
4. 環境と生物の関係・生物間関係
5. 生物多様性の重要性と現状
6. 人間の活動と保全

テキスト

事前に購入する必要のある教科書はありません。毎回プリントやビデオで解説します。

参考書

講義にて適宜紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義にて適宜紹介します。

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 松原 洋子

講義内容・テーマ

近年の生命科学、先端医療、生物工学の急速な進展は、人間の生殖・生活・死の諸相と人間を含む生物の定義を大きく揺るがせつつある。この授業では、生命科学史・科学技術社会論(STS)・バイオエシックスに依拠しながら、生命科学/技術と社会の境界で生じる諸問題を検討する。近現代生物学の歴史、人体実験、倫理委員会制度、遺伝医療、生殖医療、移植医療、再生医療、生物特許、生物兵器、優生学、生命の質、環境倫理、バイオメトリクス認証などを扱う予定である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

理系科目が苦手な人でもたぶん大丈夫。授業は講義形式で行う。視聴覚教材も適宜利用する。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- * 日常点評価

講義スケジュール

1. ガイダンス 社会の中の生命科学/技術と倫理
2. 生命科学の近現代史(1): 博物学から近代生物学へ
3. 生命科学の近現代史(2): 分子生物学と生物医学の発展
4. 生物医学の規制(1): 人体実験と被験者保護
5. 生物医学の規制(2): 倫理委員会制度とインフォームド・コンセント
6. 生物医学の規制(3): 「ドナー」をめぐる諸問題
7. 遺伝子技術と社会(1): 遺伝医療と優生学
8. 遺伝子技術と社会(2): 遺伝子特許と遺伝子組換え生物(GMO)
9. 遺伝子技術と社会(3): 生物兵器 戦争とバイオテロリズム
10. 生殖技術の展開 不妊治療から再生医療まで
11. QOL(生命の質/生活の質)と医療
12. 環境倫理: 自然の権利・動物の福祉
13. バイオメトリクスと社会
14. 授業のまとめ
15. 閉講

テキスト

テキストは特に指定しない。授業中に配布するレジュメ、資料、参考文献リストを利用する。

参考書

グレゴリー・E・ベンス 2000 『医療倫理』みすず書房
 香川知晶 2000 『生命倫理の成立』勁草書房
 島次郎 2001 『先端医療のルール』講談社現代新書
 市野川容孝 編 2002 『生命倫理とは何か』平凡社
 廣野喜幸・市野川容孝・林真理編 2002 『生命科学の近現代史』勁草書房
 林真理 2002 『操作される生命』NTT出版
 小林傳司編 2002 『公共のための科学技術』玉川大学出版部
 いずれも立命館大学図書館所蔵。その他の文献も授業中適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 桂 郁雄

講義内容・テーマ

地球変動学

地球表層で生起しているさまざまな変動についてプレートテクトニクスを基礎として理解することを目指す。はじめに地球についての全体像を解説する。その後、プレート同士の相互運動により、プレート境界周辺で集中的にさまざまな変動が起きることを学ぶ。

とくに日本列島とその周辺は、世界的に見てもプレート境界で起こる諸現象、すなわち変動がとくに集中しているところである。そこで日本列島の形成と現在生起している変動の特徴についても学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高校地学の知識は要しない。数学・物理・化学等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

論述試験による。学んだ知識を基礎として応用できるかどうかの評価対象である。

講義スケジュール

1. はじめに - 地球システムについて
2. 地球と太陽系の誕生と進化
3. 地球のかたちと重力場
4. 地震波でわかってきた地球の内部構造
5. 地球の構成物質 - 元素・鉱物・岩石
6. 地震と火山の発生するところ
7. プレーートの概念と球面を動くプレートの運動
8. プレート運動の推定 - 岩石・地層に記された昔の地球磁場の記録
9. プレート境界に働く力 - 地震の発生メカニズム
10. プレート境界で起こる変動 - とくに火山活動について
11. プレート運動のエネルギー源
12. 日本列島の形成
13. 日本列島のテクトニクス
14. テクトニクスに起因する自然災害
15. まとめ

各回のおおむねのテーマである。テーマの重さや理解度によって進度を調整する。

テキスト

指定しない。

重要な参考書

西脇二一・他共著「大学教養地球科学(改訂版)」(三和書房, 本体2000円)

参考書

- 杉村新・他編「図説地球科学」(岩波書店, 1988)
 河野長「地球科学入門 - プレートテクトニクス」(岩波書店, 1986)
 杉村新「グローバルテクトニクス」(東京大学出版会, 1987)
 上田誠也「プレートテクトニクス」(岩波書店, 1989)
 瀬野徹三「プレートテクトニクスの基礎」(朝倉書店, 1995)
 安藤雅孝・吉井敏尅「地震 - 理科年表読本」(丸善, 1993)
 藤田和夫「変動する日本列島」(岩波新書, 1985)
 松田時彦「活断層」(岩波新書, 1995)
 平朝彦「日本列島の誕生」(岩波新書, 1990)
 Kenneth J. Hsü, 高柳洋吉訳「地球科学に革命を起こした船 - グローマーチャレンジャー号」(東海大学出版会, 1999)
 土木学会関西支部編「地盤の科学 地面の下をのぞいてみると・・・」(講談社ブルーバックス, 1995)
 池田安隆・他「活断層とは何か」(東京大学出版会, 1996)
 寒川旭「地震考古学 遺跡が語る地震の歴史」(中公新書, 1992)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

シミュレーション S

14988

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 平井 孝治

講義内容・テーマ

シミュレーションとは、実験ができない事象に関して机上(多くはパソコン)で模擬するものである。これによって、事実や現状を把握・認識し、事態や将来を予測し、施策立案に資する知見を入手するものである。この授業では、専攻する学問分野のいずれにも応用できるシミュレーションの考え方と手法を授業する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

表計算ソフト「Excel」を用いるので、パソコンの基本操作に習熟しておくこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験実習課題40点、60点、

講義スケジュール

第1講 シミュレーションと最適解
第2～4講 決定シミュレーション「年金問題、積立型と扶養型」
第5～7講 LP(線形計画法)「収益の最大化と費用の最小化」
第8～10講 統計シミュレーション「重回帰と決定係数」
第11～13講 確率シミュレーション「最適発注量と在庫管理」
第14講 試験問題の公表と解説

テキスト

プリント配布

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 吉田 要

講義内容・テーマ

車のCMを見ていて、車のホイールが、進行方向とは逆に回転しているのを見たことはないだろうか。これは、アナログからデジタルに変換する過程で起こる、情報の欠落によるのであるが、おわかりだろうか。

また、人間の未来は、多くの可能性を秘めており、不確定であるが故に、可能性を過大に評価していないだろうか。我々人類が得ることのできる知識の限界や、量をはかり、提示することはできるのであるか。

コンピュータを利用した技術は、日進月歩の進展を見せており、人工知能や人工生命あるいはロボットなど、情報に関わる技術は、映画「2001年宇宙の旅」や「マトリックス」のように、人類を脅かすものとなっていくのだろうか。コンピュータの能力は人間の能力に匹敵するものなのだろうか。このような答えの一端をこの授業で明らかにし、情報化の進んでいく方向を見極める目を養うことを目的とする

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

積み上げ式なので、授業を遅れたり休んだりすると理解しにくい。また、問題には積極的にチャレンジして欲しい。数学的な知識は特に要しない。授業を毎回まじめに聞くことが重要。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

基本的には最終テストにて行うが、問題を出し、正解が出ると加点をするので、平常点も加味される。

講義スケジュール

授業の流れ(スケジュール・内容等の計画)

大まかには以下の項目の流れで扱っていくが、幾分変更することもある。

1. 情報の概念と種類
2. 歴史的背景と科学的背景
3. 情報の表現 人類の限界、そこから先は神様
4. 符号化と複合化1
5. 符号化と複合化2 電子認証 傍聴システム
6. 情報量 量と質
7. コンパクト符号 情報の表現2
8. オートマンの原理 認識と表現
9. オートマンの能力 言語の階層性、自己増殖、自己組織化
10. チューリングマシンの原理
11. チューリングマシンと人間の認識能力の比較
12. 人工生命 セルオートマン
13. 未来社会 情報化社会 情報公開とプライバシー保護
14. トピック

テキスト

教科書を原則として利用する。

吉田要「情報学概論・prologプログラミング」八千代出版 生協書籍部

参考書

随時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 白井 健二

講義内容・テーマ

情報技術全盛の時代を迎えて、あらゆる専門の人々にとって、情報技術の基礎を学ぶことが必須であるが、それと同時に、徹底した情報化が社会に何をもたらすかについてもっと関心を払う必要がある。

本講義では、情報技術の基礎を幅広く学ぶとともに、ますます発展していく情報化社会の限らない可能性について考え、あわせて情報セキュリティ、情報倫理、知的所有権など情報モラルの必要性や情報に対する責任について学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特になし。

評価方法・基準

*試験に代わるレポートとして実施
レポート試験で評価します。

講義スケジュール

- 第 1回 情報化社会
- 第 2回 コミュニケーション技術と情報化社会
- 第 3回 マルチメディアの基礎技術
- 第 4回 コンピュータと情報システム
- 第 5回 コンピュータ・ソフトウェア
- 第 6回 情報システムの変遷
- 第 7回 予備日
- 第 8回 企業組織と情報
- 第 9回 意思決定と情報
- 第10回 モデル化とシミュレーション
- 第11回 社会構造の変化とネットワークセキュリティ
- 第12回 情報倫理と知的所有権
- 第13回 バーチャル企業
- 第14回 e Business の展開
- 第15回 予備日

全体を通して、出来る限り産業界における情報技術の動向についてお話ししたいと考えております。

テキスト

特に指定しない。

参考書

- 1) マルチメディア情報学の基礎 長尾 真 他著(岩波書店)
- 2) システム工学 田村坦之 編著 (オーム社)
- 3) 分散処理 白鳥則郎・滝沢 誠 共著(丸善)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

出来るだけ受講者には有益な講義をしたいと考えております。

情報の数理 GA

本文無し

授業開講期間単位数配当回生担当教員講義内容・テーマ受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

数理の世界 GA

本文無し

授業開講期間単位数配当回生担当教員講義内容・テーマ受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 今村 悟

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス: 授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開: ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ: ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 金井 淳二

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 今村 悟

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 今村 悟

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 浜崎 博

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 長谷川 豪志

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 長谷川 豪志

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 浜崎 博

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 今村 悟

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 太郎

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 茂

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 茂

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 太郎

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポート

もしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 鴫田 佳津子

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 牧田 佳子

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 茂

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 稲岡 純史

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 茂

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 稲岡 純史

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 鴫田 佳津子

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 中西 康人

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

(バドミントン)

[第1講]

ガイダンス(授業のねらいや進め方等についての説明)。

[第2講～第5講]

グループ編成。各種ストローク、ショット、サービス等の技能練習。

[第6講～第8講]

シングルのルールを理解しゲームを行う。

[第9講～第10講]

ダブルスのルールを理解しゲームを行う。

[第10講～第15講]

ダブルスによる総当たりリーグ戦。

但し、上記の授業展開は受講者の習熟状況等により変更される場合がある。

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 平野 嘉彦

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 稲岡 純史

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 中西 康人

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポート

もしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

(バドミントン)

[第1講]

ガイダンス(授業のねらいや進め方等についての説明)。

[第2講～第5講]

グループ編成。各種ストローク、ショット、サービス等の技能練習。

[第6講～第8講]

シングルのルールを理解しゲームを行う。

[第9講～第10講]

ダブルスのルールを理解しゲームを行う。

[第10講～第15講]

ダブルスによる総当たりリーグ戦。

但し、上記の授業展開は受講者の習熟状況等により変更される場合がある。

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 平野 嘉彦

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行います。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とします。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ

VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価

[第11講～第15講]

まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 今村 悟

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 金井 淳二

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 今村 悟

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 今村 悟

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 浜崎 博

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 長谷川 豪志

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 長谷川 豪志

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 浜崎 博

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 今村 悟

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 太郎

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表明示で必ずご確認ください。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 茂

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 茂

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 太郎

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認ください。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人々の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 鴫田 佳津子

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 牧田 佳子

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 茂

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 稲岡 純史

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 藤田 茂

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 稲岡 純史

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 鴫田 佳津子

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 中西 康人

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

(バドミントン)

[第1講]

ガイダンス(授業のねらいや進め方等についての説明)。

[第2講～第5講]

グループ編成。各種ストローク、ショット、サービス等の技能練習。

[第6講～第8講]

シングルのルールを理解しゲームを行う。

[第9講～第10講]

ダブルスのルールを理解しゲームを行う。

[第10講～第15講]

ダブルスによる総当たりリーグ戦。

但し、上記の授業展開は受講者の習熟状況等により変更される場合がある。

第1講時にもガイダンス終了後に実技を行うため、実技に適した服装および体育館シューズの用意を忘れないように。

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 平野 嘉彦

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 稲岡 純史

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 中西 康人

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

(バドミントン)

[第1講]

ガイダンス(授業のねらいや進め方等についての説明)。

[第2講～第5講]

グループ編成。各種ストローク、ショット、サービス等の技能練習。

[第6講～第8講]

シングルのルールを理解しゲームを行う。

[第9講～第10講]

ダブルスのルールを理解しゲームを行う。

[第10講～第15講]

ダブルスによる総当たりリーグ戦。

但し、上記の授業展開は受講者の習熟状況等により変更される場合がある。

第1講時にもガイダンス終了後に実技を行うため、実技に適した服装および体育館シューズの用意を忘れないように。

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 平野 嘉彦

講義内容・テーマ

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準は変更される可能性があります。定期試験時の発表掲示で必ずご確認下さい。平常点を重視し、レポートもしくは試験、あるいはそれらの併用等によって評価を行う。原則として開講日数の3分の2以上の出席を評価の対象とする。

講義スケジュール

[第1講]

ガイダンス:授業のねらいや進め方

[第2講～第4講]

導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する

[第5講～第10講]

展開:ゲームや試合などを通して、チームや個人人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ

[第11講～第15講]

まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ

テキスト

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書

授業中必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用方法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第一回講義の際に、1回生全員を対象とする情報スキル判定のためのアンケートを実施し、その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。

なお、両クラスの学修内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

- 01 全体講義：IDとパスワードの配布、科目内容説明、情報倫理、実習に当たっての諸注意
- 02 Windowsの操作(1)：ログイン、基本的な操作、ドライブ、フォルダの概念、ログアウト
- 03 Windowsの操作(2)：フロッピー、CD-RW、メモリーカードの使い方
- 04 文字入力の方法：タイピング練習ソフトの使い方など
- 05 WWW及び電子メールの仕組み：URL、メールアドレス、学外メールの概念
- 06 WebMailの操作(1)：簡単な送受信
- 07 WebMailの操作(2)：削除、フォルダによる分類、ファイルの添付
- 08 コースツール関連(1)：ログオン、コースの利用
- 09 コースツール関連(2)：電子掲示板の利用
- 10 コースツール関連(3)：小テストの使い方
- 11 学術情報関連(1)：RUNNERSの使い方
- 12 学術情報関連(2)：コアデータベースの使い方、インターネットからの情報検索
- 13 ワープロ(Word2002)(1)：入力、印刷、保存
- 14 ワープロ(Word2002)(2)：文書の作成、文書の編集
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1

担当教員 生田 正幸、坂田 謙司、中井 美樹、長澤 克重、上出 浩

講義内容・テーマ

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習し、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシー における学修を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。

文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初級クラスと中級クラスの学修内容は一部異なり、中級クラスはより高度な内容となっている。クラス所属については、前期に所属したクラスの継続を基本とするが、受講生の申し出により初級クラスと中級クラス間の所属クラス変更を時期を定めて認めることもある。

評価方法・基準

* 日常点評価

2回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。

初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

講義スケジュール

【初級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文字の入力、文書の作成、文字の編集
- 02 ワープロ(Word2002)(2):表と罫線
- 03 ワープロ(Word2002)(3):表現力ある文章の作成、まとめ
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、Excelの基本操作、データ入力方法
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、表示方法、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の基礎、表検索、並べ替えなど
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):ウィザードを使用したプレゼンテーションの作成
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):プレゼンテーションをサポートする機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順
- 15 試験

【中級】

- 01 ワープロ(Word2002)(1):復習、文書の作成、文書の編集、表現力のアップなど
- 02 ワープロ(Word2002)(2):文書作成サポート機能など
- 03 ワープロ(Word2002)(3):文例の利用など
- 04 表計算(Excel2002)(1):Excelの基礎知識、データ入力、表の作成
- 05 表計算(Excel2002)(2):表の作成、表の編集、印刷、保存
- 06 表計算(Excel2002)(3):罫線の設定、計算式(加減乗除)の使用法
- 07 表計算(Excel2002)(4):グラフの作成
- 08 表計算(Excel2002)(5):関数の使用、WordとExcelのデータ連携
- 09 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(1):PowerPointの基礎知識、基本操作、入力方法
- 10 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(2):プレゼンテーションの作成と編集
- 11 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(3):プレゼンテーションの編集、図・オブジェクトの挿入
- 12 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(4):図形の作成と編集
- 13 プレゼンソフト(PowerPoint2002)(5):スライドのデザイン設定、サポート機能
- 14 ホームページの基礎:HTMLの紹介、作成方法の紹介、設置の手順紹介
- 15 試験

テキスト

『Word2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Excel2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『PowerPoint2002テキスト』(富士通ラーニングメディア)

『Rainbow Guide』(総合情報センター)

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じて授業中に紹介する。

その他

- ・フロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす

イタリアの言語と文化・入門 LA
特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) GA
ヴィジョン形成特殊講義 LE

12967

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1～3回生
担当教員 ANNA RUGGERI

講義内容・テーマ

イタリアの文化を理解するためには、キリスト教を知る必要がある。なぜなら、国の宗教として国民の考え方、習慣と伝統の中に生きており、そして町の建築や美術の作品の中にも多く見られるからである。この授業の目的はキリスト教の根源からこの宗教の発展と変化、そしてそのイタリア文化との関連を分析・紹介することである。その中で、特にイタリアの歴史におけるローマカトリック教会の役割は非常に重要であったので、それについて考察しながら、イタリアの文学や美術におけるその影響を紹介したい。同時に、イタリアの宗教家の中でアッシジのサン・フランチェスコやサン・ベネデットのようなイタリアの宗教者とそれらの思想について論じたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

イタリアの文化と比較文化学に対して興味を持つ学生が望ましい。しかし、この授業は「イタリアの言語と文化・基礎」「イタリアの言語とコミュニケーション・基礎」を受講している学生のための入門講義である。従って、受講者は上記の科目を受講していることが好ましい。この授業は将来イタリアの文化を研究する者に役立つような情報、知識を与えることを目的としている。観光情報的なものを期待している人にはやや難しいかもしれないので、注意して下さい。

評価方法・基準

*試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

イタリアの文化におけるキリスト教の影響とその重要性について説明を行う。特に歴史、文学、美術という分野におけるキリスト教の発展を分析してから、具体的にダンテの『神曲』、ミケランジェロやラファエッロの作品を様々な教材によって紹介する。さらに、アッシジのサン・フランチェスコやサン・ベネデットのようなイタリアの宗教者と彼らの思想について論じる。さらに現代のイタリア人の宗教観についても考察しながら、学生の意見と感想も求める。

テキスト

授業内において配布するプリント等。

参考書

教室でそのつど参考書を指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

イタリアの言語と文化・入門 LB
特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) GB
ヴィジョン形成特殊講義 LF

15401

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1~3回生

担当教員 ANNA RUGGERI

講義内容・テーマ

イタリアの文化を理解するためには、キリスト教を知る必要がある。なぜなら、国の宗教として国民の考え方、習慣と伝統の中に生きており、そして町の建築や美術の作品の中にも多く見られるからである。この授業の目的はキリスト教の根源からこの宗教の発展と変化、そしてそのイタリア文化との関連を分析・紹介することである。その中で、特にイタリアの歴史におけるローマカトリック教会の役割は非常に重要であったので、それについて考察しながら、イタリアの文学や美術におけるその影響を紹介したい。同時に、イタリアの宗教家の中でアッシジのサン・フランチェスコやサン・ベネデットのようなイタリアの宗教者とそれらの思想について論じたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

イタリアの文化と比較文化学に対して興味を持つ学生が望ましい。しかし、この授業は「イタリアの言語と文化・基礎」「イタリアの言語とコミュニケーション・基礎」を受講している学生のための入門講義である。従って、受講者は上記の科目を受講していることが好ましい。この授業は将来イタリアの文化を研究する者に役立つような情報、知識を与えることを目的としている。観光情報的なものを期待している人にはやや難しいかもしれないので、注意して下さい。

評価方法・基準

*試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

イタリアの文化におけるキリスト教の影響とその重要性について説明を行う。特に歴史、文学、美術という分野におけるキリスト教の発展を分析してから、具体的にダンテの『神曲』、ミケランジェロやラファエッロの作品を様々な教材によって紹介する。さらに、アッシジのサン・フランチェスコやサン・ベネデットのようなイタリアの宗教者と彼らの思想について論じる。さらに現代のイタリア人の宗教観についても考察しながら、学生の意見と感想も求める。

テキスト

授業内において配布するプリント等。

参考書

教室でそのつど参考書を指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

イタリアの言語と文化・基礎 LA
特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) GA
ヴィジョン形成特殊講義 LC

13867

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 1~3回生

担当教員 ANNA RUGGERI

講義内容・テーマ

正確にイタリア語を話すためには文法を理解する必要がある。この授業の目的は基礎的なイタリア語の文法を学ぶことにある。正しい文法の基礎を身につけることによってより自然に会話することが可能になる。従って、文法の説明と同時に、これが実践のイタリア語の会話においてどのように表現されてくるのか、そして様々な文章の中でどのように変化して用いられるのか、ということについて説明を行う。授業においては説明だけではなく、学生と共に練習問題をすることも考えている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。
出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意してください。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

様々なイタリア語の文章と会話のパターンを紹介し、それを分析しながら、文法の基礎の説明を行う。さらに、練習問題の解答も行う授業は次のような内容を扱うことになる。

「アルファベット、アクセント、発音」・「名詞と形容詞(単数形と複数形)」・「定冠詞と不定冠詞」・「否定文と疑問文」・「前置詞とその定冠詞との結合」・「指示形容詞と指示名詞」・「動詞の直説法現在形(規則と不規則)」・「副詞」・「所有形容詞」・「再起動詞と相互再起動詞」・「補助動詞」・「優等と劣等と同等比較」・「相対最上級と絶対最上級」・「直説法近過去と半過去」・「ジェルンディオ」・「直接と間接補語人代名詞」・「大名小辞ciとne」・「非人称のsiと動詞の活用」・「未来形」・「命令形」・「関係代名詞cheとcui」・「受身態」・「条件法」・「接続法」・「遠過去」。

しかし、授業の順番とそのスピードは学生の進歩によって決められる。

テキスト

教室で指示する。さらに、授業内において配布するプリント等。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

イタリアの言語と文化・基礎 LB
特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) GB
ヴィジョン形成特殊講義 LD

13908

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 1~3回生

担当教員 ANNA RUGGERI

講義内容・テーマ

正確にイタリア語を話すためには文法を理解する必要がある。この授業の目的は基礎的なイタリア語の文法を学ぶことにある。正しい文法の基礎を身につけることによってより自然に会話することが可能になる。従って、文法の説明と同時に、これが実践のイタリア語の会話においてどのように表現されてくるのか、そして様々な文章の中でどのように変化して用いられるのか、ということについて説明を行う。授業においては説明だけではなく、学生と共に練習問題をする事も考えている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。
出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意してください。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

最初に自己紹介、様々な尋ね方やものの呼称のような基本会話を学び、後に段階的によりレベルの高い言い方を勉強する。そして、日常生活の中で使用される基本的な文法などを含む文章を身につける。日常生活において、自分の意見が率直に表現出来、相手の会話の意図を聞き取れるようになるための授業を行う。さらに、実際にイタリア語で会話する場合に多用される身ぶりの表現とその意味、そして一般的なことわざなどを学ぶ。また、言葉を覚えるために役立つゲームも利用する授業も行う。

具体的には、「発音の説明」、「挨拶の仕方」、「数字の数え方」、「自己紹介」、「時間の読み方」、「注文すること」、「情報を求めること」、「情報を伝えること」、「買い物すること」、「自分の意見および様々な出来事を表わすこと」、「日常的な習慣について話すこと」、「気持ちと感情を伝えること」、「所有を表わすこと」などを説明する授業を行う。

しかし、順番は学生の進歩のスピードによって決められる。

テキスト

教室で指示する。さらに、授業内において配布するプリント等。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

イタリアの言語とコミュニケーション・基礎 LA
特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) GA
ヴィジョン形成特殊講義 LA

13902

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 1~3回生
担当教員 ANNA RUGGERI

講義内容・テーマ

イタリアは文化的にも芸術的にも非常に優れた国である。イタリア語を学ぶことによってそれらをより深く知ることが出来るようになる。この授業の内容と目的はイタリア語の基本的な会話を学ぶことにある。また実際にイタリア語で会話することにより、習っている文法を実践的に使用し理解することにもなる。さらに、イタリア文化についての話および日本文化との比較なども行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している 学生は、この授業を受講しないようにして下さい。

正しいイタリア語の発音と多数の新しい言葉を覚えるために、イタリア人講師の会話を聞く、そしてそれを真似することが重要であるので、出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意して下さい。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

最初に自己紹介、様々な尋ね方やものの呼称のような基本会話を学び、後に段階的に よりレベルの高い言い方を勉強する。そして、日常生活の中で使用される基本的な文法などを含む文章を身につける。日常生活において、自分の意見が率直に表現出来、相手の会話の意図を聴き取れるようになるための授業を行う。さらに、実際にイタリア語で会話する場合に多用される身ぶりの表現とその意味、そして一般的なことわざなどを学ぶ。また、言葉を覚えるために役立つゲームも利用する授業も行う。

具体的には、「発音の説明」、「挨拶の仕方」、「数字の数え方」、「自己紹介」、「時間の読み方」、「注文すること」、「情報を求めること」、「情報を伝えること」、「買い物をする事」、「自分の意見および様々な出来事を表わすこと」、「日常的な習慣について話すこと」、「気持ちと感情を伝えること」、「所有を表わすこと」などを説明する授業を行う。

しかし、順番は学生の進歩のスピードによって決められる。

テキスト

教室で指示する。さらに、授業内において配布するプリント等。

参考書

教室で指示する。さらに、授業内において配布するプリント等。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

イタリアの言語とコミュニケーション・基礎 LB
特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) GB
ヴィジョン形成特殊講義 LB

14095

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 1~3回生

担当教員 ANNA RUGGERI

講義内容・テーマ

イタリアは文化的にも芸術的にも非常に優れた国である。イタリア語を学ぶことによってそれらをより深く知ることが出来るようになる。この授業の内容と目的はイタリア語の基本的な会話を学ぶことにある。また実際にイタリア語で会話することにより、習っている文法を実践的に使用し理解することにもなる。さらに、イタリア文化についての話および日本文化との比較なども行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している 学生は、この授業を受講しないようにして下さい。

正しいイタリア語の発音と多数の新しい言葉を覚えるために、イタリア人講師の会話を聞く、そしてそれを真似することが重要であるので、出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意してください。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

最初に自己紹介、様々な尋ね方やものの呼称のような基本会話を学び、後に段階的に よりレベルの高い言い方を勉強する。そして、日常生活の中で使用される基本的な文法などを含む文章を身につける。日常生活において、自分の意見が率直に表現出来、相手の会話の意図を聴き取れるようになるための授業を行う。さらに、実際にイタリア語で会話する場合に多用される身ぶりの表現とその意味、そして一般的なことわざなどを学ぶ。また、言葉を覚えるために役立つゲームも利用する授業も行う。

具体的には、「発音の説明」、「挨拶の仕方」、「数字の数え方」、「自己紹介」、「時間の読み方」、「注文すること」、「情報を求めること」、「情報を伝えること」、「買い物をする事」、「自分の意見および様々な出来事を表わすこと」、「日常的な習慣について話すこと」、「気持ちと感情を伝えること」、「所有を表わすこと」などを説明する授業を行う。

しかし、順番は学生の進歩のスピードによって決められる。

テキスト

教室で指示する。さらに、授業内において配布するプリント等。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

イタリアの言語とコミュニケーション応用 LA
特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用) GA
ヴィジョン形成特殊講義 LH

14028

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 2~3回生

担当教員 SERGIO PELA

講義内容・テーマ

The purpose of this course, mainly based on conversation, is to improve and develop the students' ability in understanding, speaking and reading the Italian language and thus to acquire some knowledge of Italian culture and way of life.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

Grading will be based on attendance, participation and preparation.

講義スケジュール

During the course various subjects as books, music, films, youth, the contemporary world and aspects of Italy will be examined and discussed with the support of newspaper articles, extracts from Italian authors and material supplied by teacher according to the student's knowledge of Italian and for the purpose of improving it.

テキスト

Photocopies will be supplied by teacher.

参考書

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

イタリアの言語とコミュニケーション応用 LB
特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用)GB
ヴィジョン形成特殊講義 LI

14034

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 2～3回生

担当教員 SERGIO PELA

講義内容・テーマ

The purpose of this course, mainly based on conversation, is to improve and develop the students' ability in understanding, speaking and reading the Italian language and thus to acquire some knowledge of Italian culture and way of life.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

Grading will be based on attendance, participation and preparation.

講義スケジュール

During the course various subjects as books, music, films, youth, the contemporary world and aspects of Italy will be examined and discussed with the support of newspaper articles, extracts from Italian authors and material supplied by teacher according to the student's knowledge of Italian and for the purpose of improving it.

テキスト

参考書

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

イタリアの言語とコミュニケーション応用 LA
特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用)GB
ヴィジョン形成特殊講義 LK

14292

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3回生のみ

担当教員 SERGIO PELA

講義内容・テーマ

The purpose of this course, mainly based on reading passages supplied by teacher, conversation and practice through little compositions and exercises to be done during each lesson and at home, is to develop the student's ability in understanding, speaking and writing the Italian language and thus to increase their knowledge of Italian culture and way of life.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

Grading will be based on attendance, participation and preparation.

講義スケジュール

During the course various subjects as books, music, films, youth, the contemporary world and aspects of Italy will be examined and discussed with the support of newspaper articles, extracts from Italian authors and material supplied by teacher according to the student's knowledge of Italian and for the purpose of improving it.

テキスト

Photocopies will be supplied by teacher.

参考書

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary.

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

イタリア文化講読 L
特殊講義(イタリア文化講読) GA
ヴィジョン形成特殊講義 LG

13872

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 2~3回生

担当教員 ANNA RUGGERI

講義内容・テーマ

イタリア語文献を講読する。様々な文献と文学的な作品を読みながら、各文章の意識と文法の解釈を行う。そして、イタリアの文化と日本の文化における相違点が現れてくる時に、これについても比較文化的な説明する。この授業の目的はイタリアの文献を読みながら、イタリア語における言語力と読解力をつけることである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

イタリアの文学とその文献に関して興味を持つ学生が望ましい。学生の積極的な参加および出席が求められる。さらに、授業を準備することが必要であるので、注意して下さい。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

イタリアの様々な文化を代表するような文献を継続的に読む予定である。内容は初回の授業で学生と相談して決める。この授業は学生諸君の自発性を尊重しながら行う。目標はイタリア語の文献を正確に読む読解力をつけることである。毎回学生に授業の準備そして自分の意識が求められる。

テキスト

教室で指示する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

イタリア文化講読 L
特殊講義(イタリア文化講読) GA
ヴィジョン形成特殊講義 LJ

14291

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 3回生のみ
担当教員 ANNA RUGGERI

講義内容・テーマ

イタリア語文献を講読する。様々な文献と文学的な作品を読みながら、各文章の意識と文法の解釈を行う。そして、イタリアの文化と日本の文化における相違点が現れてくる時に、これについても比較文化的な説明する。この授業の目的はイタリアの文献を読みながら、イタリア語における言語力と読解力をつけることである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

イタリアの文学とその文献に関して興味を持つ学生が望ましい。学生の積極的な参加および出席が求められる。さらに、授業を準備することが必要であるので、注意して下さい。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

イタリアの様々な文化を代表するような文献を継続的に読む予定である。内容は初回の授業で学生と相談して決める。この授業は学生諸君の自発性を尊重しながら行う。目標はイタリア語の文献を正確に読む読解力をつけることである。毎回学生に授業の準備そして自分の意識が求められる。

テキスト

教室で指示する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 加藤 敏明

講義内容・テーマ

本講義は、2003年度から実施された全学インターンシップ・プログラムの事後授業に位置付けられる講義です。ビジネス・インターンシップは今や、地球規模で取り組まれる実践的教育プログラムです。より実践的能力が身につくよう設計された本講義では、世界的な経営コンサルタント企業マッキンゼー・アンド・カンパニーの手法を中心に、論理的思考法を体系的に学習し、課題解決型の企画立案能力の養成を目指します。なお、一部の講義はリクルートワークス研究所の木島洋嗣主任研究員と共同で、グループワークをもとに新しい試みとして授業展開を図ります。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

・事前登録科目
・履修したインターンシップをさらに発展的に展開する講義です。既にインターンシップ実習を経験している学生、または前期にインターンシップ実習に行く計画のある学生を対象とした科目です。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
* 日常点評価
講義時間内で評価につながる「問題解決型の企画立案」を行います(70%)。日常点評価は、出席状況を主に勘案します(30%)。

講義スケジュール

- 第1回 「導入:求められる人材像」
- 第2回 「論理的思考法と人材」
- 第3回 「組織マネジメントと人材」
- 第4回 「経営マネジメントと人材」
- 第5回 「企画立案の基礎」
- 第6回 「課題解決型グループワーク」
- 第7回 「課題解決型グループワーク」
- 第8回 「課題解決型グループワーク」
- 第9回 「中間発表」
- 第10回 「課題解決型グループワーク」
- 第11回 「課題解決型グループワーク」
- 第12回 「企画立案発表」
- 第13回 「企画立案発表」
- 第14回 「企画立案発表」
- 第15回 「総括:組織と個人」

テキスト

特に指定しません。

参考書

講義の中で、適宜紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義の中で、適宜紹介します。

その他

キャリアに深く関わる授業ですので、出席をはじめ受講態度は重視します。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 加藤 敏明

講義内容・テーマ

本講義は、2003年度から実施された全学インターンシップ・プログラムの事前授業に位置付けられる講義です。ビジネス・インターンシップは今や、地球規模で取り組まれる実践的教育プログラムです。インターンシップと連携することで、学生生活をキャリアデザインできる能力の育成、企画立案能力の養成、プレゼンテーション能力の向上を目指し、結果、インターンシップ履修前に必要な基本的素養を修得します。また、企画立案能力に関しては学外からゲストスピーカーを招くほか、講義終了時には、来るべきインターンシップに向けて「実習計画書」を実際に作成します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

・事前登録科目

・3回生夏季に集中するインターンシップに向けて基本的な素養を修得する授業です。立命館大学全学インターンシップ・プログラム以外でもインターンシップの履修を考えている学生の受講を強く勧めます。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

講義時間内で評価につながる各種シートを作成します(70%)。日常点評価は、出席状況を主に勘案します(30%)。

講義スケジュール

- 第1回 「導入：高等教育と産業社会」
- 第2回 「CO-OP教育の歴史的展開と今日的課題」
- 第3回 「日本企業における採用システム変革とインターンシップ」
- 第4回 「人材論の今」
- 第5回 「人材と企業」
- 第6回 「プレゼンテーション能力と企業社会」
- 第7回 「プレゼンテーションと自己」
- 第8回 「ライフプランを考える」
- 第9回 「キャリアプランを考える」
- 第10回 「プレゼンテーションの実践」(ゲストスピーカーを招いて)
- 第11回 「プレゼンテーションシートの作成」
- 第12回 「企画立案とビジネス社会」
- 第13回 「発明、発見の舞台裏」
- 第14回 「編集者に学ぶ企画立案能力養成法」(ゲストスピーカーを招いて)
- 第15回 「総括：インターンシップ実習計画書の作成」

テキスト

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義の中で、適宜紹介します。

その他

キャリアに深く関わる授業ですので、出席をはじめ受講態度は重視します。

キャリア形成論 G
キャリア形成論 LD

15887

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3回生

担当教員 加藤 敏明

講義内容・テーマ

日本経済の基本構造、産業構造といったマクロの視点に立った社会観の涵養から、境界線の揺れ動く業界、国際化、情報化の激流の下で変身を遂げつつある個々の企業の実像を見抜く力の養成を目指す講義です。特に、企業(会社)の基本的な仕組みである「財務指標」をはじめ、成長性や社会性、経営管理システム、第三者評価などを用い組織を検証する学習を通じて、特定企業(会社)を客観的に解析できる総合的な力が身につきます。15回の講義は、各分野の第一線で活躍する学内外の専門家13名(うち、学部講師5名)がそれぞれの専攻領域を大いに展開する予定です。なお、全体のコーディネイトを加藤(全学インターシップ教学委員会)が担当します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

秋に本格化する就職活動に直結する内容です。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

期末に全体を総括するレポート試験を行います。(30%)

日常点評価は、出席状況及び各講師が随時行う小レポート課題により総合的に行います。(70%)

講義スケジュール

第1回 「導入」(加藤)

第2回 「変わる日本の産業構造」(篠田武司産業社会学部教授)

第3回 「新しい業界研究の視点」(千野信浩「週刊ダイヤモンド」記者)

第4回 「産業別に見る雇用動向分析」(加藤)

第5回 「企業活動の社会的役割」(服部利幸政策科学部助教授)

第6回 「コーポレートガバナンスをめぐる」(仲田正機経営学部教授)

第7回 「法学分析による株式会社の仕組み」(竹

テキスト

特に指定しません。

参考書

特に指定しません。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義の中で、適宜紹介します。

その他

全体を通して、現代日本の企業(会社)が分かる仕組みです。出席とノートはしっかりと。

特殊講義(キャリア形成論) GA
 キャリア形成論 LA
 ヴィジョン形成特殊講義(キャリア形成論) GA

15822

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1～8回生
 担当教員 春日井 敏之

講義内容・テーマ

思春期・青年期から成人期にかけての発達課題を様々な角度から検討し、自己への認識を深めながら、変容する社会を生きる為の指針の確立を図っていく。その中からよりよいキャリア形成(大学生活や進路選択のあり方)を追及していく。具体的には、

変容する社会と自己実現のテーマを、特に人文科学の諸領域を素材にして考えていく。

自らの成長、人格発達を社会につながる学びに高めていく道筋をデザインしていく。

個人にとって幸福なキャリアとは何かを、授業を通じた相互交流の中で考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

学生の中には、自己形成と人間関係、大学で学ぶ意味、自己実現と進路選択といった課題に対して、まじめに悩み戸惑いを抱えながら大学生活をスタートさせている者も少なくない。3回生での進路選択を自律的に考えていく為に、1回生でのキャリア形成論(自己との対話 - 社会につながる学びを求めて)を開講した。教育、文学、歴史、哲学など人文科学の領域を素材にして8名の講師陣が、4回生の協力も得ながら開講した。相互交流、ディスカッションを取り入れた授業を考えている。自分の将来、社会で生きることや働くことの意味、目標を考えながら学んでほしいと期待している。

評価方法・基準

- * 日常点評価
- * 出席と授業中に課す小論文を加味して評価する。

講義スケジュール

- 1・2講 青年期の発達課題と大学生活(文学部 春日井敏之)
- 3・4講 変革期の人物像を通して生き方を考える(文学部 山崎有恒)
- 5・6講 文学に見る人間像を通して自己の生き方を考える(文学部 瀧本和成)
- 7講 人格形成・モラル(文学部 北尾宏之)
- 8・9講 国際化・多文化社会に生きる(文学部 江川ひかり)
- 10講 21世紀の経済社会(工業社会から知識社会へ)(産業社会学部 篠田武司)
- 11講 キャリアをデザインする(東京ガス都市生活研究所長 西山昭彦)
- 12講 公開授業「働くことと自己実現」(サントリー不易流行研究所長 佐藤由美子)
- 13・14講 就職が内定した在学生によるパネルディスカッションとグループワーク(文学部 春日井敏之)
- 15講 授業のまとめ(文学部 春日井敏之)

テキスト

特に指定はしない。
 必要に応じて、授業者より適宜紹介する。

参考書

必要に応じて、授業者より適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

特殊講義(キャリア形成論) GA
ビジョン形成特殊講義(キャリア形成論) G3
キャリア形成論 LC

15818

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2回生

担当教員 遠藤 保子

講義内容・テーマ

グローバル化と情報化が進展し、競争が激化するなかで、日本の社会は大きな転換を迫られている。構造改革の進行、雇用の流動化・多様化、成果・実績主義など、これからの社会は、「会社任せ」の人生ではなく、キャリア・プランを明確にし、学生時代から自分の能力を磨いていくキャリアの「自己責任」を求めている。本講義は、諸君がキャリアを積みつつ人生を主体的に実現していくために、こうした実社会への理解を深め、どのように知力を高め、自らの価値観に基づく人生を設計していくのかを考察する機会になる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

2回生時の受講が望ましい。またゲスト・スピーカーを中心とする講義となる。毎回、講義に続いて質疑を行うので、受講者は常に発言する用意をすることが望まれる。そのうち1,2回は、受講生による希望に基づくゲストスピーカーの招聘を検討する。シラバスに沿ってレジュメや資料を配布して講義を行うので、毎回の受講が必須となる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

基本的に試験によって評価するが、講義途中で2回のレポートを課す(1、諸君が働くことと学ぶこと 2、日本社会の雇用システムと問題点。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

特殊講義(キャリア探偵団) S
キャリア形成論 LB

14922

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 リム・ボン

講義内容・テーマ

さまざまな業種・職種の内容理解を通じて、自己の個性や職業適性について考え、将来を考えた大学での学びのモチベーションづくりや自律的な進路選択の一助とする。また、フィールドワークを伴う実践型の授業とし、論理力、分析力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を鍛える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- (1) 企業現場の人々とのディスカッション、OB訪問等を実施します。
- (2) OB訪問の内容をビデオで撮影し、これを編集したものを提出していただきます。
ビデオカメラは大学から貸与するが、編集については学生自身が責任を持って対応してください。
ビデオ編集機能付のパソコンを持つことを推奨します。

評価方法・基準

- * 日常点評価
出席点 + 課題作品提出。成績評価はPとします。

講義スケジュール

講義スケジュール(詳細については第1回授業時に提示します)

- | | |
|------|----------------|
| 第1週 | 仕事と個人の能力開発(講義) |
| 第2週 | 仕事の学校 |
| 第3週 | 仕事の学校 |
| 第4週 | 仕事の学校 |
| 第5週 | 仕事の学校 |
| 第6週 | 仕事の学校 |
| 第7週 | フィールドワーク |
| 第8週 | フィールドワーク |
| 第9週 | フィールドワーク |
| 第10週 | フィールドワーク |
| 第11週 | プレゼンテーション |
| 第12週 | プレゼンテーション |
| 第13週 | プレゼンテーション |
| 第14週 | プレゼンテーション |
| 第15週 | プレゼンテーション |

テキスト

必要に応じて資料を提供します。

参考書

特になし。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特になし。

その他

本科目の配当回生は1回生のみです。

日本の文学 GA

13083

授業開講期間 前期単位数 2配当回生 2～8回生担当教員 上田 博講義内容・テーマ

石川啄木の全体像に迫る

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業で扱う本や作品を、ていねいに、心をこめて読んで来てもらいたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

テキストによって、以下のように講義をすすめる。

序 章 石川啄木をどのように呼ぶか
第一章 啄木の出現した場所
第二章 存在の故郷を求めて
第三章 自己という現象
第四章 高橋彦太郎のその後
終 章 小さな検温器を見つめて

テキスト三一「知と発見」シリーズ5「石川啄木」 上田博 三一書房
教室で取り扱う参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ「明治文芸講演会」<http://emerianenko.hp.infoseek.co.jp/takubox01.htm>その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 大西 一嘉

講義内容・テーマ

防災科学とは「知る」「見つける」という発見の科学と、「構想する」「造る」という創造の科学の共同作業の成果であるべきで、自然、生物、社会といった結びつきの中で生活環境や地域の安全の問題に取り組んでいかねばならない。そこで本講義では、安全の哲学、災害の構造、安全対策の視点といった安全論または防災の基本的考え方について論じる。地震をはじめ様々な災害の特徴を、都市という被災対象に着目しつつ概観する。さらに、防災対策の立案手法、災害科学研究の視点と課題について講述し、防災計画手法および安全で安心できる地域社会実現のための基本的な考え方の習得を目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に求める知識やスキルはないが、地球環境科学と関連する地学や地理学等について、中学理科程度の内容に一定の理解を有することが望まれる。板書事項や講述内容も含めてノートに書き取れるだけの「聞く力」、授業で関心を持った点を幅広く復習し発展させられる「学ぶ心」、それらの成果を独自の講義ノートとしてまとめていく「続ける力」が重要と考えている。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

日常課題、講義ノートの提出、小レポートによる。三者の比重は講義ノートがもっとも重視され評価点の大半を占める。

日常課題については、出席状況を把握し、講義内容に関連した知識レベルや、講義をどれだけ注意深く聞いて理解できたかをみる。

講義ノートは前述の通り日常的な関連学習の成果をみるものであるから、板書のみならず各自の自主学習成果を含む。

小レポートについては、図書館やインターネットなどの情報資源を偏りなく使いこなし、参考文献一覧として整理されているかどうか、及び既知の知識体系と自分の意見が明確に区分して書き分けられていることを重視する。なお、小レポートは講義ノート学習の一部として提出を求める予定である。

講義スケジュール

災害原論

- (1) 安全、防災の考え方
- (2) 災害論、災害の構造
- (3) 災害法制度
- (4) 緊急時の人間行動
- (5) 災害情報と調査

災害各論

- (1) 風土と災害、水害
- (2) 地震、津波
- (3) 火災
- (4) 阪神大震災の教訓
- (5) 日常事故、その他の災害

防災対策

- (1) 地域防災計画と防災拠点づくり
- (2) 都市防災対策
- (3) 家庭での防災対策
- (4) 安全安心のまちづくり

災害科学研究とワークショップ

(上記は講義で扱う項目を整理したものであるが、必ずしもこの順序で講義を進めるとは限らない。様々な災害が国内外で起こっているため、社会の動きに即応して内容を大きく組み替える事もあり得る)

テキスト

特に指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

参考書

- 高橋浩一郎(1977)「災害論」(東京堂出版)
 藤井陽一郎、村上處直(1978)「地震と都市防災」(新日本新書)
 安部北夫、秋元律郎編(1982)「都市災害の科学」(有斐閣)

- 今井実、長谷川義明、榑崎泰道編(1983)「都市防災」(ぎょうせい)
都市防災研究会(1996)「地震防災と安全都市」(鹿島出版会)
松澤俊雄編(1998)「大都市の社会基盤整備」(東京大学出版会)
阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク編(1998)「震災復興が教えるまちづくりの将来」(学芸出版社)
(は書店で購入可、その他については絶版のため入手が困難)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

多くの情報がWEB上に掲載されているが、信頼できるサイトばかりではないので情報を峻別する力を養う事。WEB情報だけに頼らず、本を読んだり、災害経験者や専門家の話を積極的に聞く、TVや新聞雑誌の特集を注意してみるなど、様々な媒体から情報を得るように努力して欲しい。検索に当たったのキーワード例を以下に挙げておく。
(例)地震、洪水、都市大火、地震火災、自然災害、防災、都市安全、震災復興

その他

該当なし

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 山口 道利

講義内容・テーマ

現代社会において、パーソナル・コンピュータ(パソコン)はどの階層の人にとっても不可欠な道具になっている。
パソコンの操作に、より習熟することを目的とし、各学生自身が自主的に学習をする。
実習ソフトはMicrosoft社のApplication SoftwareであるOfficeを用いる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

配布されたレジュメを中心に各自学習をする。
質問、疑問があるときは、その時間の授業内容に関係の有無に関わらず、教員、TAに随時、積極的に相談をすること。
毎授業には、フロッピー・ディスク(3.5インチ、2HD)を持参すること。

評価方法・基準

* 日常点評価
毎授業時に出席を取る。各アプリケーション終了時に課題を与える。
期間中に3～4課題のレポートを提出して貰い、その内容と、出席点で評価する。

講義スケジュール

授業内容は下記の通り。括弧内の回数はおおよその授業回数である。

- 1) PowerPointを用いてプレゼンテーション(4回)
スライドの作成
プレゼンテーションを中心に分析やレポートの構成を考える
- 2) EXCELによる表の作成と表計算(5回)
表の作成と各種グラフの作成、関数の使い方
リストの構造と並べ替え、フィルター機能、情報検索
VBAの基礎
- 3) WORDを用いての文章作成(5回)
文章作成と保存・印刷、文章内に写真やグラフを配置、
文章を見やすく、美しくデザインをする

テキスト

期間中に学ばなければならないことの必要最小限のレジュメは配布する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

市民社会の形成と成熟 GA

15611

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 中谷 猛

講義内容・テーマ

(比較してみた西欧市民社会と日本の市民社会)

新聞やテレビを見ていると、「市民」や「市民社会」ということばが「企業社会」や「消費社会」と共によく使われている。では「市民社会」とは何かと問われるとなかなか答えにくい。欧米の市民社会の成り立ちや「市民」という言葉を明らかにする中で、私たちの社会に生じているさまざまな問題について理論的に整理し、また「市民社会」と「市場」社会とのつながりについても追究してみよう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会科学の分野では日常につかうことばが学問の世界でも用いられるので、その意味・内容をできるだけ正確に知ることが重要となる。資料などを配布し、板書を中心にテキストの中身を説明するつもりであるが、現実の諸問題に強い関心を抱く受講生の聴講に期待したい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

期末のペーパーテストを基準に評価するが、講義の中での質疑応答や積極的発言を評価に加味する場合がある。

講義スケジュール

- 第一講 「市民」とは誰のことか、日常生活から考えてみよう。
- 第二講 ヨーロッパ市民像の源流
- 第三講 ルソーの市民像と共和国の問題
- 第四講 ヨーロッパ市民社会の歴史と理論
- 第五講 市民社会論の展開とその批判者たち
- 第六講 アダム・スミスの文明論と市場論のインパクト
- 第七講 日本の市民社会の成立と問題性 「お上」意識とは
- 第八講 大衆社会の到来と大衆の問題
- 第九講 「豊かな社会」と私たち
- 第十講 消費社会の「神話」とは何か
- 第十一講 市民社会とアイデンティティの危機
- 第十二講 市場の経済論理
- 第十三講 市場と政治 規制緩和の行方
- 第十四講 グローバル化の中の市民社会
- 第十五講 まとめ

テキスト

中谷他著『市民社会と市場のはざま』(晃洋書房)を用いて講義する。

参考書

エーレンベルク、吉田訳『市民社会論』(青木書店)、坂本義和『相対化の時代』(岩波書店)、宮島喬編『現代ヨーロッパ社会論』(人文書院)、ジラルデ、中谷他訳『現代世界とさまざまなナシヨナリズム』(晃洋書房)、橋本俊昭『日本の経済格差』(岩波新書)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

市民社会論はテーマとしておもしろいもので、持続的な聴講と問題関心を持つと理解は深まるにちがいない。大学で何を学ぶかがよく分からない人に刺激をあたえられたらよいと思っている。

特殊講義(茶道文化史) GA、ヴィジョン形成特殊講義(茶道文化史) GA、特殊講義(基礎) (茶道文化史) GA	20280
--	-------

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 1~8回生

担当教員 千 玄室、筒井 紘一

講義内容・テーマ

茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ、礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。それは茶の湯の本質と全く違った見方と言える。茶道に礼儀作法の要素が全くないとは言わないが、その本質は日本を代表する総合的な文化体系であると言えよう。その総合性とは、哲学的な要素などを含む点にある。

茶が日本に伝来して以来100年以上も経過しているが、伝来した当初から文化性を備えていたわけではない。本講では、照葉樹文化を代表する嗜好飲料である茶を通して、その文化性の特色を探るとともに、わが国に飲料として伝来した茶が、日本独自の文化性を備えた茶道へと変遷していく過程を明らかにしていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

夏期集中講義期間内(9月6日~9月18日)内の6日間で開講する(授業期間・詳細については6月頃に学部掲示板にて連絡します)

上記の夏期集中講義期間内での開講を追及するが、開講期間の最終決定が6月頃になるため、「茶道文化史」受講希望者は他の夏期集中講義の受講を認めないものとする。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法・基準

* 筆記試験:最終講義日試験で実施

* 日常点:加味する

講義と実技への参加態度および試験により評価

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 福岡 政行

講義内容・テーマ

"今"の日本政治のメカニズムを分析し、その実像を描出してゆく。現場主義(フィールドワーク)を研究の中心的視座に置き、現状分析の中から問題を明らかにしてゆく。政治学は時として(古典的な表現)マスターサイエンスと呼ばれるが、実在する状況から出発しなければ意味がない。若い学生にとって、政治・マスメディア・日々のニュースに興味を持てるような方向を考えている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事前登録科目

政治は、あらゆる隣接領域と関連している。政治経済であり、政治心理学であり、あるべき論としての政治哲学でもある。今年は特に、政治と経済・政治的なリーダーシップと世論、国際社会の中の日本、NGOボランティアも主要テーマとする。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 試験に代わるレポートとして実施

* 筆記試験: 定期試験として実施

* 日常点: 加味する

大学は"自主的研究"の場であると考えているので、出席はとらない。定期テストと中間での小レポート(1,000字)の2日で評価する。もちろん、大学での評価・成績は社会に出て何の意味も持たない。自分で何を感じるか、その場を提供することに主眼を置く。

講義スケジュール

- 第1講 政治(学)への序章
- 第2講 総理大臣のリーダーシップと限界
- 第3講 日本の政党の危機的状況
- 第4講 日本の選挙と有権者
- 第5講 日本官僚制 官から民へは可能か
- 第6講 予算を組めない日本の財政と経済
- 第7講 地方分権・市町村合併・行政改革
- 第8講 ゲストスピーカー "政治の現場から"
- 第9講 メディアクラシー & テレビワイドショー政治
- 第10講 ゲストスピーカー(メディアの現場から)
- 第11講 日本とアメリカ 外部環境?
- 第12講 日本とアジア 外部環境?
- 第13講 NGO・NPOボランティア
- 第14講 ゲストスピーカー NPOボランティアの現場からの報告
- 第15講 政治学を学んで、これからどうする!

テキスト

インターネットの検索というお手軽な文章化や、わかったようなレポートは創造力と想像力をディスターブするので、テキストは基本的に用いない。

参考書

追って指示するが独自の判断

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

個々人で判断。暇ならいろいろ見る。

その他

やる気のある学生だけ受講して下さい。私語・メールは禁止・退場。

授業開講期間

単位数 2

配当回生 1回生

担当教員 藤岡 惇

講義内容・テーマ

戦後50周年企画の一環として1995年度に開設された国際平和交流セミナーは、以降9年間継続して実施されている本学の教学理念に根ざす正課である。事前・事後研修と研修旅行を通しながら、「国際交流」という側面に焦点を当て、本学の教学理念「平和と民主主義」の教育的実践を図るプログラムである。

2004年度は2003年度に引き続き、「広島・長崎プログラム」を開講する。ワシントンにあるアメリカン大学と本学が共同して企画・実施するものである(今回で7回目)。アメリカン大学を窓口に関米の大学および米国の水爆実験の舞台となったマーシャル諸島大学からの学生とともに実施する。本プログラムでは、新世紀の平和創造の道を探求するために、京都での事前学習(6~7月)を踏まえ、夏期休暇期間中に広島・長崎において調査と討論の企画を主体的に学生が運営するものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

募集人数:12名

受講登録制限外科目

4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催。

評価方法・基準

*試験に代わるレポートとして実施

レポートと日常点により評価

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 鈴木 常勝

講義内容・テーマ

アジアは広く、文化も多様である。言語面においても、発音、文字、文法は様々な特徴を持っている。本講義は、アジア人ゲスト、留学生、アジア研究者を交えて、各地域の言語文化の異同を、発音・会話指導、生活紹介などにより学ぶ。「アジア人の日本観、日本人のアジア観」の交流、国家意識、歴史認識のギャップの大きさ、ゲストとの質疑応答などにより、実感的にアジアに出会い、受講生が持つ問題意識を深めるものとする。受講生からアジアのゲストに対して「日本文化紹介」を義務づける。「日本の何を紹介すれば交流が深まるのか」に答えることが、受講生の課題となる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

6日間の講義のうち、4日以上を受講を単位認定の前提条件とします。出席点検も厳格にします。遅刻、早退、居眠り、おしゃべり、携帯使用などは、評価減点あるいは退学要請となります。出席可能かどうか考慮のうえ、受講届けを出してください。

積極的な質疑応答、アジア文化への好奇心、探究心は大歓迎です。その意味で、にぎやかな講義内容をめざして、講師、ゲストは努力します。留学生の積極的な受講を歓迎します。ぜひ、あなたの文化を日本や他国の人々につたえてください。本講義はそのための機会も設定します。

講義スケジュール

毎日、ゲストと対象地域が変わります。ゲストによっては日程の都合もあるので、講義初日に全体スケジュールをお知らせします。

テキスト

参考書

「大路(タールー) 朝鮮人の上海電影皇帝」鈴木常勝 新泉社
1930年代の上海でトップスターになった金焰は、ソウル出身の朝鮮人だった。彼をめぐる、朝鮮、中国、日本の東アジア現代史と上海映画史を追跡する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2~8回生

担当教員 廣居 健

講義内容・テーマ

「食による前近代中国の文化史」

「アジア」では漠としすぎますので、敢えて「東アジア」に絞り込みます。而して、その「東アジア」の社会も文化も「中国」の影響を無視しては理解できません。従って、本講座は中国を軸に据え展開します。又た、「社会」も「文化」も一朝一夕になるものではありません。従って、歴史的視点からこれに挑みます。更に、かかる認識の下、様々な局面を有つ文化的諸活動の軌跡の中から、特に「食」に纏わる事柄を中心的素材に採り上げ、これに分析、検討を加えること通して、該地域の社会と文化に対する研鑽を深める為の一助としたいと考えています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特にありません。

唯だ、所謂“大学受験程度”の素養は前提として(高等学校レベルの内容は理解できているものとして)進めます。

但し、逆に専門的知見に属する部分については、少々回り道でも、適宜、補います。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

* レポート: 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点: 加味します。

最終的には定期試験に代わるレポートにより、講義中に示す要件を満たせば合格とします。

又た、通常の日程内で2、3回程度の小レポート(随意)を実施し、その評価を“持点”としつつ、

両者を併せて総合的に評価する予定です。

(詳細は第一回目に解説し、相談したいと考えています。)

講義スケジュール

詳細は顔ぶれを見て決定するが、概ね、以下のとおりとする予定です。

第一講 ガイダンス

: (概論): 「文化」とは

第二講 「中国」とは

: (総論): 「食文化(史)論概説」

「身近な文化論」及び講評

第四講 : (補論): 「前近代中国史一般概論」

第五講 : (前論): 「文化(史)論概説」

「学説史」~「食文化(史)一般論」

第六講 ~「中国食文化史論」

第七講 : (各論): 「前近代中国の食文化(史)上の諸問題」

~「飯」、「菜」、「醬」、「酒」等

第十一講

第十二講: 予備日:

第十三講: (特論): 「前近代中国の食文化(史)にまつわる諸問題」

~「方法」、「技術」、「機会」、「場面」その他

第十四講

第十五講: (総括): まとめ、質疑応答等

なお、「東アジア」の一例として、受講生諸氏の身近な事柄を足掛かりとしたいので、

適宜、「小レポート(随意)」のかたちで、適宜、協力を仰ぎたいと考えている。

(さしあたり、第一講を予定している。)

テキスト

適当なものがないので、特に指定しません。(講義は専ら口述により、必要に応じてレジュメを配布する。)

参考書

やはり質、量共に、適当且つ廉価なものがないので特に記ませんが、必要に応じて講義中に紹介はします。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特にありません。

誤解を恐れずに敢えて言えば、玉石混交は致し方無いとはいえ、“石”が多すぎるからです。
寧ろ、濫用を慎むべく、注意を喚起しておきたいと思います。
(斯く言う真意は講義中でも、あらためて示します。)

その他

本講座は所謂「グルメ」でも「旅行記」でもなく、一般教養的講座たるところの「文化論」ですから、文字どおり、受講生諸氏の教養の充実に期待します。又た、能動的取り組みも求めたいと考えていますので、積極的参加も期待します。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 高橋 哲郎

講義内容・テーマ

[近代科学技術史を中心に科学技術の本質とそれらの関係を考える]

科学とは何かを考えるのに、その歴史的な生い立ちの中から学ぶほど効果的なものはない。本講義では科学や技術の本質と関係、その方法、科学・技術や社会との関係、科学発展における科学者の役割、科学的自然観の形成の過程等について、近代科学の成立以降の科学史の中から、重要なトピックスを取り上げながら考える。また最後に、日本における科学技術発展の特質と今後の課題についても考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
理解度・オリジナリティを中心に評価

講義スケジュール

1. 科学の始まりと停滞
2. 地動説の復活と近代科学の誕生
3. 近代科学の父:ガリレオ・ガリレイ
4. 古典物理学の成立と展開 万有引力と光
5. 17世紀科学革命の展開
6. 近代科学の成立 科学的元素説と原子・分子論
7. 熱学の展開とエネルギー保存則の成立
8. 電磁気学の形成と確立
9. 博物学から進化論へ
10. 細胞と細菌 微生物学と近代医学の展開
11. 有機化学の展開と化学物質の合成
12. 電気技術の社会的展開と電気文明の開花
13. X線と放射能の発見、量子物理学の確立
14. 生命科学の新たな展開
15. 日本の近代化と科学技術

テキスト

毎回、講義レジュメを配布する。
教科書は使用しない。

参考書

高橋哲郎著 『科学史教育入門』 新生出版
その他 講義の中で適宜関係文献を紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 塩田 哲也

講義内容・テーマ

『化学の目で見た自然と文明の浄化』：化学は自然環境の浄化と文明環境の繁栄に貢献して来た。近年になり大量生産・大量消費の結果、自然環境にも文明環境にも弊害をもたらすようになった。しかし環境破壊を修復するのも化学の役割である。化学の功罪を自然環境・文明環境別に解説した21世紀の環境問題は即実行の時代に突入している。テキスト2冊を併用して解説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

知識の習得に止まらず、身近な環境浄化を実践し、さらに啓蒙的役割を果たすことを到達目標にする。質問があれば、出席カードの裏面に記入し、講義の終了時に提出すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

環境浄化の実践意欲も評価の対象とする。遅刻や早退するときは、その場で出席カードの裏に理由を書いて提出すること。出席日数も重視する。

講義スケジュール

スケジュールは多少ずれることがあります。

テキスト1 『化学の目で見た自然と文明の浄化』

第1回(4月5日) 講義概要・進め方・注意事項の説明 第1章 はじめに p1~2 第2章 環境について p3, 4, 12~15

第2回(4月12日) 第3章 環境破壊の現状 p16~26, 28~30, 32

第3回(4月19日) 第3章 (つづき) p34~35 第4章 人類文明の繁栄を問い直す p36~40 第5章 化学について p41

第6章 自然環境に対する化学の貢献 p51, 52 第7章 人為環境に対する化学の貢

献(省略)

第4回(4月26日) 第8章 大量生産による環境問題と保全 p71~73, 75~82

第5回(5月10日) 第9章 大量消費による環境問題と保全 p83~96, 99~100

第6回(5月17日) 第9章 (つづき) p102, 103, 105, 109~113 第10章 化学が果たす自然環境の保全 p115~117

第7回(5月24日) 第10章 (つづき) p119~126, 129~133, 135, 145, 153, 156

第8回(5月31日) 第11章 環境に関する用語の解説 p158~163 第12章 むすび p164, 165

テキスト1の小テスト

第9回(6月7日) 『環境ホルモン』、『水俣病』のビデオ放映

テキスト2 『地球環境非常宣言』

第10回(6月14日) 第1章 はじめに p1~4 第2章 危機的環境破壊を主張する3つの論拠 p5~6

第3章 住民が環境に及ぼす負荷 p7~11 第4章 環境家族の活動対照とその取り組み

方 p17, 18

第11回(6月21日) 第5章 自然環境の浄化を考える p19~23 第6章 文明環境の浄化を考える p24, 25 第7章 身体的内環境における危機管理 p32~43

第12回(6月28日) 第8章 人間の精神的内環境の浄化を考える(省略) 第9章 20世紀からの負の遺産 p50~66

第13回(7月5日) 第10章 21世紀の環境問題を考える p67~72 第11章 人類滅亡の回避のための提言 p73~75

第12章~第14章, 第16章(省略) 第15章 自己評価チェックシート p81~86

第14回(7月12日) 第17章 むすび p89~91

第15回(7月19日) 総復習

テキスト

テキスト1 『科学の目で見た自然と文明の浄化』、塩田哲也・産業技術研究所(生協書籍部販売)

テキスト2 『地球環境非常宣言』、塩田哲也・産業技術研究所発行(生協書籍部販売)

参考書

(1) 『環境と地平線』、塩田哲也著 文理閣

(2) 『生産・消費・後始末の化学』、塩田哲也著 産業技術研究所

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

OHCで図表を指し示しながら、分かり易く説明する。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 三浦 正行

講義内容・テーマ

いわゆる「地球サミット」とそれ以降の環境問題が示したように、今日の健康問題は、グローバルな視点から課題を明らかにすることが求められている。とくに、今日問われているのは、地球環境のもとでの「生態系」と人間の生活との関係の有様である。ここでは、日常生活でのごく身近な環境との関わり、地球規模での環境との関わりの中で、健康づくりを考えることの意義を明らかにしていく。そして、時間的視野と空間的視野の拡大といった点から健康問題と環境問題との関係を見出していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

講義中に行うテストとレポートによって評価する。その基準は、講義内容の把握、重要語句の理解、独創的な発想とする。

講義スケジュール

1. 「人間－生態系」としての地球環境を考える
2. 環境変動による健康への影響を考える・地球温暖化・酸性雨・海洋汚染・熱帯林破壊など
3. 都市環境と健康への影響・ゴミ・廃棄物・ストレスなど
4. 「化学汚染」と健康障害・「環境ホルモン」など人間生活の中で生み出される化学物質の影響を考える
5. 食生活の変容にみる健康への影響・食料生産と環境破壊・食物連鎖の中での化学物質の影響
6. 健康づくりのライフスタイルを考える・「人間的自然」の見つめ直し・持続可能な開発、共生の問題を考える

テキスト

参考書

三浦正行「地球の時代の健康を考える」文理閣、米本昌平「地球環境問題とは何か」岩波新書、栗原 康「共生の生態学」岩波新書、その他講義中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 山本 基

講義内容・テーマ

人が生活する限り、周囲の環境に対して何らかの働きかけをしています。あまりに環境だけを重視すると、人間生活が窮屈になります。また、人間生活の利便性・快適性だけを求めていくと、環境破壊をもたらします。私たちは自然環境と人間生活の関係をどのように考えればよいのでしょうか。この講義では、具体的な事例を通して、自然と人の関わりを考えます。

なお、後期の「環境と倫理」では、環境問題をめぐる人と人の関わりをテーマにします。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は、以下の受講生に向けています。

知識を得るだけでなく、世の中を少しでも良くしたいと思う人。

抽象論ではなく、身近な問題として環境問題を考えたいと思う人。

聴くだけでなく、自ら講義に参加したいと思う人。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験に関する評価を基本とします。

ただし、講義中に行うインタビュー、アンケート、意見発表、ディスカッションなどへの参加度合も加味します。

講義スケジュール

一連の流れの中で、毎回テーマを変えて講義を行います。なお、さらに内容を深めて学びたい方には情報を提供します。

1. 環境と文化で学ぶこと (文化とは / 環境と水戸黄門)
2. 自然観の話 (自然の色 / 自然と人間についての西洋と日本)
3. 森の話 (トトロとナウシカ / 森の民と砂漠の民 / 企業の森)
4. ダムの話 (緑のダムと人工のダム / 山を守る、生活を守る)
5. 川の話 (川の水質を調べる / BODとCOD / 安らぎと畏敬)
6. 水の話 (利き水 / 水の民話・伝説 / 井戸水と水道水)
7. 鳥の話 (自然の宝庫・屋久島 / ごみの島・豊島)
8. 牛の話 (BSEが教えること / 牛の本望)
9. 道の話 (四国遍路みち / 紀伊山地の霊場と参詣道)
10. 車の話 (自動車と社会的費用 / ディーゼル車規制 / 燃料電池車)
11. ごみの話 (規制と意識 / リサイクルとごみ減らし)
12. みんなで考える (テーマを設定してグループディスカッション)
13. 意見発表(その1) (受講生が日頃の生活に基づき意見発表)
14. 意見発表(その2) (受講生が日頃の生活に基づき意見発表)
15. 自然とともに生きる (「知る」「考える」「行動する」のスパイラル的思考)

テキスト

現実の世の中の動きが教科書だと考えていますので、テキストは使いません。毎回、手づくりの資料を提供します。

参考書

毎回の講義で、参考図書等に関する情報を提供します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

後期の「環境と倫理」では環境問題をめぐる人と人の関わりを考えますので、合わせて受講されることを望みます。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 山本 基

講義内容・テーマ

人間生活と環境の調和がとれたより良い社会の実現に向けて、社会を構成する私たちはどうあるべきなのでしょう。具体的な事例を通して、市民、行政、企業、マスコミ、研究者などの対応ぶりを学び、私たちの生き方を皆さんと一緒に考えます。

前期の「環境と文化」では自然と人の関わりを扱いますが、この「環境と倫理」では環境問題をめぐる人と人の関わりをテーマにします。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は、以下の受講生に向けています。

知識を得るだけでなく、世の中を少しでも良くしたいと思う人。

抽象論ではなく、身近な問題として環境問題を考えたいと思う人。

聴くだけでなく、自ら講義に参加したいと思う人。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験に関する評価を基本とします。

ただし、講義中に行うインタビュー、アンケート、意見発表、ディスカッションなどへの参加度合も加味します。

講義スケジュール

一連の流れの中で、毎回テーマを変えて講義を行います。なお、さらに内容を深めて学びたい方には情報を提供します。

- | | |
|---------------|-----------------------------|
| 1. 環境と倫理で学ぶこと | (基本的な考え方 / 倫理とは) |
| 2. 商品の安全性 | (企業 / 消費者 / 行政) |
| 3. 遺伝子組み換え | (安全性の確認 / 表示 / 日本とアメリカ) |
| 4. ダイオキシン問題 | (所沢野菜騒動 / 対策の出口と入口) |
| 5. RDF事故 | (ごみ固形燃料事故から学ぶこと) |
| 6. エネルギー問題 | (原子力発電 / 新エネルギー) |
| 7. アジアで考えたこと | (ベトナム / 韓国 / 日本) |
| 8. 薬害エイズ | (厚生省 / 製薬会社 / 医者) |
| 9. 薬害再び | (繰り返される薬害 / 消される薬害) |
| 10. 水俣病 | (企業 / 行政 / 研究者 / マスコミ / 住民) |
| 11. 水俣の再生 | (対立からは何も生まれない / 環境モデル都市) |
| 12. みんなで考える | (テーマを設定してグループディスカッション) |
| 13. 意見発表(その1) | (受講生が日頃の生活に基づき意見発表) |
| 14. 意見発表(その2) | (受講生が日頃の生活に基づき意見発表) |
| 15. 人を人と思うこと | (環境問題の根っこは) |

テキスト

現実の世の中の動きが教科書だと考えていますので、テキストは使いません。毎回、手づくりの資料を提供します。

参考書

毎回の講義で、参考図書等に関する情報を提供します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

前期の「環境と文化」では自然と人の関わりを考えますので、合わせて受講されることを望みます。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 安達 房子

講義内容・テーマ

この科目は、「企業と社会」の関係を多面的な角度から論じていきます。
おもな獲得目標は、「企業と社会」に関する様々な諸問題への興味と関心を深めることです。
講義では、マネジメント論を基礎にしつつ、日本企業社会の特質について論じます。
その際、とくに失業や雇用問題、過労自殺などの原因を探るとともに、男女の共同参画、情報ネットワークが企業に及ぼす影響などの現代日本社会が抱える特徴的なトピックスを解説します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験。ただし、授業時間中のビデオ学習に伴うレポートなどを評価に加味します(20～30%程度)。

講義スケジュール

- 第1回 概要の説明
- 第2回 企業と社会の関係
(日本企業社会の特質の概要)
- 第3回～4回 企業と経営
(マネジメント論に関する基礎理論を知る)
- 第5回～6回 企業と雇用
(失業問題やフリーターの問題を考える)
- 第7回～8回 企業と人権
(働く女性の人権や過労自殺の問題を考える)
- 第9回～10回 企業と情報ネットワーク
(情報ネットワークが企業に及ぼす影響を考える)
- 第11回～12回 中小企業と地域社会
(主に下請企業やIT関連のベンチャー企業の特徴を踏まえ、地域活性化との関連を考える)
- 第13回 企業と社会的責任
(最近の企業の不祥事を取り上げ、企業の社会的責任を考える)
- 第14回 まとめ
- 第15回 閉講 (休講した場合は補講)

テキスト

レジュメ、資料を配布します。

参考書

渡辺峻『やさしく学ぶ経営学入門』八千代出版、2000年
その他、授業時に適宜紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

適宜紹介します。

その他

現代人とヘルスケア N

11254

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1～8回生

担当教員 上 英俊

講義内容・テーマ

現代人の生活環境について、「健康」という視点から考える。
特に、日常生活に関わる健康問題に重点を置く。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点評価
講義に対する姿勢(出席・小テストなど)、レポート、試験により総合的に評価。

講義スケジュール

- 1.健康とは？
- 2.肥満と健康
- 3.ウエイトコントロール
- 4.生活習慣病(1)
- 5.生活習慣病(2)
- 6.食生活と健康
- 7.身体活動と健康
- 8.現代社会と心の病
- 9.たばこ・薬物
- 10.アルコール
- 11.自律神経傷害と健康
- 12.リラックス
- 13.ストレス解消法
- 14.まとめ
- 15.試験

テキスト

使用しない

参考書

新聞を読んで健康を考える 梶山方忠 著 文理閣

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 馬場 優

講義内容・テーマ

本講義は、バルカン半島の近現代史を通じて国際社会における諸概念を理解することを目的とする。バルカンのようなマイナーなテーマでどうして理解することができるのか、と思うかもしれない。しかし、例えば19世紀のバルカン半島については「ネーション」が形成されていく過程を見ることができる。また、冷戦終了後の1990年代の旧ユーゴスラビアの内戦は、現在の国際社会が抱える諸問題(例えば、国家の解体、ナショナリズム、民族紛争、人道的介入、PKO)を考える良い材料となるであろう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高校の時の世界史の知識が必要である。それを講義の出発地点とするつもりでいる。もし高校で勉強しなかった講義参加者は、高校の世界史の教科書を読み返しておくことを勧める。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験期間中に試験を行う。感想などを紙に書いて講義の終わりに提出してもらうこともある。それを評価に上乘せする。

講義スケジュール

- 第1回 バルカンとは？
- 第2回 「大国」とバルカン(1): オスマン支配からの独立(19世紀)
- 第3回 「大国」とバルカン(2): ボスニア併合(1908年)とバルカン戦争(1912～1913)
- 第4回 第1次世界大戦とバルカン: 「帝国」の解体と民族自決
- 第5回 戦間期のバルカン: ファシズムの脅威
- 第6回 第2次世界大戦とバルカン
- 第7回 冷戦とバルカン(1)
- 第8回 冷戦とバルカン(2)
- 第9回 冷戦の終焉と社会主義体制の崩壊
- 第10回 分裂する国家: 1980年以降の(旧)ユーゴスラビアの事例
- 第11回 クロアチア人とセルビア人: クロアチア内戦と国際社会
- 第12回 クロアチア人、セルビア人、ムスリム人: ボスニア内戦と国際社会
- 第13回 セルビア人とアルバニア人: コソボ紛争と国際社会
- 第14回 EUの東方拡大とバルカン

テキスト

柴宜弘『図説 バルカンの歴史』(河出書房新社、2001年)、定価1800円

参考書

柴宜弘『世界史リブレット45 バルカンの民族主義』(山川出版社、1996年)、定価750円

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生

担当教員 佐藤 敬二、吉田 容子、杉本 孝子

講義内容・テーマ

女性に対する暴力・家族・労働という三つの領域について、女性がかかえる法的な諸問題を具体的な事例を通じて明らかにし、男女平等、個人の尊厳という憲法の理念が実現されない社会的背景を分析するとともに、その実現に必要な法的諸制度の構築につき検討することが本講義の目的です。女性の権利の視点から検討することによって、そもそも、権利というものの構造や権利実現の在り方全体について見直してみたいと思います。

講義は、「女性に対する暴力」の項を吉田容子(弁護士)、「家族」の項を杉本孝子(弁護士)、「労働」の項を佐藤敬二(本学教員)がそれぞれ担当します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

事情によって講義を欠席した場合には、その回について自らの責任で勉強しておくことは常識です。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

定期試験は、「女性に対する暴力」、「家族」、「労働」の分野から各1問、計3問を出題し、そのうちから2問を選択して解答する形式とします。

講義スケジュール

第01回:「女性と法:現状、平等概念など」

第02回:「女性に対する暴力 1:ドメスティックバイオレンス」・*本質、実態、法的対処方法

第03回:「…2:売買春」……*売買春とは何か、人権の守り方

第04回:「…3:セクシュアルハラスメント」・*何か、責任と対策

第05回:「家族1:実情」……*一人の法律実務家からみた家族・夫婦の現状、意識、背景・将来

第06回:「…2:婚姻、内縁」……*氏・別姓の意味・戸籍制度、内縁・婚外子

第07回:「…3:離婚(その1)」・*離婚の実情、離婚原因、5年別居の民法改正案

第08回:「…4:離婚(その2)」・*親権・面接・養育費、財産分与・慰謝料

第09回:「労働1:採用差別」……*雇用機会均等法はどのような内容なのか

第10回:「…2:昇進差別」……*裁判によって昇進差別の是正はできるのか

第11回:「…3:配置転換」……*家庭責任を負う労働者

第12回:「…4:パートタイマー」・*雇用形態自体の差異による格差と是正手段

第13回:「…5:育児」……*子育ての仕事の両立のために

第14回:「まとめ:権利を考え直す」

講義はレジュメにそって行います。レジュメならびに資料は講義当日に配布します。レジュメは講義を受講するための資料ですから、講義中以外でレジュメを配布することはありえません。欠席したものは、欠席した回について自己責任で勉強すること。

テキスト

日本弁護士連合会『問われる女性の人権』(こうち書房、1996年)

参考書

金城清子『法女性学のすすめ 第4版』(有斐閣、1997年)

日本弁護士連合会『国際化時代の女性の人権』(明石書店、1997年)

池内靖子他編『21世紀のジェンダー論 第2版』(晃洋書房、2004年)

参考文献は、各回の講義の中で提示しますので、当該講義テーマに関心がある人は、それらの参考文献を読んで考えてみてください

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

昨年の講義レジュメは佐藤のウェブ・ページ(<http://www.ritsumeai.ac.jp/~satokei/>)においてありますので参考にしてください。

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 上條 榮治

講義内容・テーマ

科学技術の進歩のおかげで、私達は効率的で豊かな生活を手にいれた。他方では、大量消費に伴う資源や化石燃料の枯渇、地球環境問題という物質文明の負の側面が顕在化してきた。この資源・エネルギーと地球環境問題は密接不可分の関係にあり、単に日本のみでなく地球規模での思考が必要になってきた。今、人類は「経済発展」「資源・エネルギー」「地球環境」の三者間でのトリレンマの状況に直面している。

21世紀においても経済社会の持続的な発展と快適な生活を支えるためには、地球環境に優しいエネルギーの安定かつ効率的な供給と循環型社会システムへの移行が不可欠である。

本講義では、人類の持続的な発展を念頭に、現代社会が直面するエネルギー危機の本質を考え、循環型社会の構築、自然エネルギー利用、省エネルギーの推進と再生可能な新エネルギーに関する技術開発の重要性を論じながら、人類が生き残る可能性を探る。

本講義の目的は、地球の有限性からくる諸問題は科学技術だけでは解決できないことに思いをいたし、持続的な未来を実現するために社会システムがどうあるべきかを、学生一人ひとりが考えることにある。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テキストやプリントを中心に授業する。授業には必ずテキストを持参すること。

自然科学の基礎知識をある程度有する理工系の学生を対象に講義を進めるが、環境問題や人類の未来に興味を持っていることが望ましい。講義中の質問や問題提議は大いに歓迎する。授業中の私語と携帯電話使用は堅く禁ずる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

日常点(出席状況・小レポート提出など)とセメスター末の定期試験によって評価する。

授業中に求める小レポートは、授業内容に関する意見や感想、質問などである。

配点は、前者が40%、後者が60%程度。

また、積極的な授業への参加(自主的なレポートの提出など)は、加算点として、成績に加味する。

講義スケジュール

- 第 1回 資源・エネルギー、地球環境問題、経済発展(ガイダンス)
- 第 2回 資源とエネルギーを巡る世界情勢
- 第 3回 資源の枯渇とリサイクル、ライフサイクルアセスメント(LCA)
- 第 4回 化石燃料の燃焼と地球環境
- 第 5回 エネルギーの基礎知識、水力発電、火力発電、
- 第 6回 原子力発電と原子燃料の現状
- 第 7回 放射性廃棄物および原子燃料サイクル
- 第 8回 深夜電力の貯蔵と省エネルギー
- 第 9回 新エネルギー(太陽光発電、風力発電、燃料電池)
- 第10回 新エネルギー(メタンハイドライド、水素エネルギー)
- 第11回 再生可能なエネルギー利用の現状
- 第12回 バイオマスエネルギーと食料問題
- 第13回 地球の限界と人類の持続性
- 第14回 資源・エネルギー・地球環境保全を巡る国際協力
- 第15回 定期試験に替わる(閉講) ただし、休講があった場合には補講します

テキスト

「資源・エネルギー工学要論」(世良 力著、東京化学同人、2,400円)

立命館大学生協書籍部で購入可能

参考書

「21世紀社会の選択」((財)省エネルギーセンター)(エネルギー・資源学会編)

「地球温暖化を防ぐ」(岩波新書529)(佐和隆光著、岩波書店)

「地球持続の技術」(岩波新書647)(小宮山宏著、岩波書店)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

最新の資源・エネルギーに関する統計数値は経済産業省、資源エネルギー庁のHP(<http://www.enecho.meti.go.jp/>)が便利です

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 大矢 紀昭

講義内容・テーマ

病気は全て体質(遺伝因子)と外因(生活環境)の総合にて発症する。現在日本人の約60%が死亡する悪性新生物、虚血性心疾患、脳卒中にても例外ではない。これらの疾患は生活習慣病といわれる肥満、高脂血症、糖尿病、タバコ、高血圧などを予防することにより予防可能である。病気の原因を勉強して、毎日の食事、運動、休養を考え、health promotionを獲得し、何歳になっても寝たきりや痴呆にならない生活を考えたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

感染症の予防、タバコや酒の過剰摂取について、また地球環境、生活環境についても一度考えてほしい。

評価方法・基準

*試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

1. 疫学とは: Epidemiology is the study of the distribution and determinant of disease frequency in man.
2. 疫学の研究方法
3. 感染症の予防: 新興と再興感染症の感染経路
4. 感染症の予防: 予防接種
5. 先天性代謝異常症・内分泌異常症の新生児マス・スクリーニング(1回目)
6. 先天性代謝異常症・内分泌異常症の新生児マス・スクリーニング(2回目)
7. 生活習慣病(1): 肥満
8. 生活習慣病(2): 高脂血症
9. 生活習慣病(3): 高血圧、脳卒中
10. 生活習慣病(4): 寝たきり、痴呆の予防、骨粗しょう症
11. 生活習慣病(5): 糖尿病
12. タバコとアルコール
13. がんと放射線障害
14. 自然環境と健康
15. 全体のスライドレビュー

テキスト

プリントを渡します。

参考書

系統看護学講座、専門基礎8: 公衆衛生 星 旦二他編集 医学書院

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 三浦 正行

講義内容・テーマ

「テクノストレス」に代表される反人間的ともいえる健康被害状況が広がっている。それは、生理的、心理・精神的両面にわたる「人間的自然」の破壊状況でもある。労働の場は勿論のこと、日常生活における「管理」されすぎた状況の中での健康問題を理解し、健康づくりの方策を追求するために、人間のからだを「人間的自然」として「丸ごと」把握していく。そして、巧妙なからだの構造と機能を知り、「こころとからだ」の相関から現れてくる健康問題を探っていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

レポートの提出、講義中の質問への回答状況、講義期間中のテストを総合して評価する。その基準は、キーワードの理解とその内容要把握、オリジナルな発想とする。

講義スケジュール

第一回から第三回

健康問題の特質を考える・「人間的自然」を考える

第四回から第六回

「からだの知恵」を考える・脳と神経の働きの基礎を考える

第七回から第十回

人間とストレスとの関係を探る・「テクノストレス」の実態に迫る・「過労死・過労自殺」を考える

第十一回から第十四回

からだに現れる「こころの病気」を考える・健康づくりの「総合戦略」を考える

第十五回

まとめ

テキスト

参考書

三浦正行「地球の時代の健康を考える」文理閣、その他は講義中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 齋藤 憲一郎

講義内容・テーマ

テーマ:人の世界のとらえ方

人の心を「知情意」と考えるならば、ここでは「知」(=認知)の問題に絞って、「人が世界をどのようにとらえるか」を考えたい。本講義では、認知心理学の知見をもとにして、まず知覚の問題を中心にして「人の世界のとらえ方」について考察する。次に記憶の問題を中心にして「人の世界のとらえ方」のとらえ直しを試み、認知心理学の新たな可能性、方向性について展望する

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講上の注意: 私語は他者への迷惑行為である。そのような行為を行う者には、退場を求める。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価は、講義期間内に提出を求めるレポートと授業時間内に書いてもらう小レポートによる(期末試験、期末レポート試験は行わない)。3回に2回くらいの割で提出を求めるので、その程度の出席は必要になる。評価は、細かい知識よりも自分の言葉で論理的に自分の考えをまとめられているかどうか重点をおいて行う。

講義スケジュール

1. 認知心理学とは
 - 1-1. 認知心理学の歴史的発展
 - 1-2. 研究領域と研究方法

2. 知覚(視覚)について - 人の世界のとらえ方 -
 - 2-1. 錯視実験
 - 2-2. 視覚についての仮説検討

3. 記憶について - 人にとっての記憶とは -
 - 3-1. 従来の記憶理論
 - 3-2. 人にとっての記憶とは
 - 3-3. 新たな記憶理論の展望から認知心理学の展望へ

テキスト

使用しない。適宜、レジユメを配布する。

参考書

適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 金井 淳二

講義内容・テーマ

冷戦体制が大きく変化してきている今日、政治・経済のあらゆる面で「市場原理」が強調されるような変化が生じている。そんな中で、スポーツを商品として捉え、その「消費的」価値を高めることにスポーツの社会的意味を見いだそうとする動きがある。その動向に視点をあて、スポーツの本質を探求しながら矛盾点を明らかにし、できあがった「商品」の単純な「消費者」にさせられないように、主体的「創造者」として現代のスポーツにどうかかわっていかを考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

スポーツの理解にとっては、各自のプレイ経験から得られるスポーツ実感が重要である。その意味で、「スポーツ方法論」の受講を奨励したい。また、課外活動でのスポーツ経験なども自覚的に関連づけて理解を深めていって欲しい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

基本的には、定期試験の記述内容で評価する。可能ならば、適宜授業中に小テストを行い、その内容も加味する。評価に際しては、基本的な専門的用語を理解しているか否かを重視する。

講義スケジュール

次の大きな二つの領域で、各小項目それぞれ約1～3回の授業時間を充てる。

- () 戦後社会の変化とスポーツの展開
 - 現代におけるスポーツを考える視点
 - 体育・スポーツの戦後改革
 - オリンピック主義スポーツの台頭
 - 高度成長期の政治・経済と国民スポーツ
 - 余暇社会論の中のスポーツ展開
 - 戦後スポーツの基本矛盾
- () 近代から現代へのスポーツの発展と課題
 - スポーツはどのように文化になったか
 - 近代スポーツ成立の基礎条件
 - 優勝劣敗主義とフェアプレイ
 - 近代スポーツはなぜ「近代」か
 - オリンピックとアマチュアリズム
 - プロスポーツの現状と未来
 - 国民のスポーツ権をめざして

テキスト

特別なテキストは使用しないが、芝田徳造他編『(新版)現代・スポーツ・健康』(文理閣)をテキストに準じて利用する。

参考書

参考書は授業の中で随時紹介していく。とりあえず、伊藤高弘他編『スポーツの自由と現代(上・下)』(青木書店)、および大修館書店刊の「スポーツ文化シリーズ」を紹介しておきたい。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業時に適宜配布するレジメをもとにして、講義形式で展開する。レジメは当該授業時以外には配布しないので注意のこと。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 上 英俊

講義内容・テーマ

動きのメカニズムに関する基礎知識を理解し、「効率のよい運動の実践」へと発展させる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点評価

講義に対する姿勢(出席・小テストなど)、レポート、試験により総合的に評価。

講義スケジュール

- 1.体力とは
- 2.神経 筋の構造と機能
- 3.筋線維組成
- 4.筋肉とエネルギー
- 5.筋疲労のメカニズム
- 6.筋力トレーニング
- 7.持久力トレーニング
- 8.体重とパフォーマンス
- 9.ウエイトコントロール
- 10.疲労回復法
- 11.栄養(1)
- 12.運動と健康
- 13.現代人のための運動処方
- 14.まとめ
- 15.試験

テキスト参考書

スポーツ生理学 森谷敏夫・根本勇 著 朝倉書店

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 松村 博行

講義内容・テーマ

「アメリカがくしゃみをすれば日本は風邪をひく」という比喻もあるように、日本経済はアメリカをはじめとする諸外国の経済と深く結びついている。そのような事実を知らない学生諸君はまずいないだろうが、しかし具体的に何がどのように結びついているのか、その鮮明なイメージを持つ人はそう多くないかもしれない。

本講義では、グローバル化時代の日本経済が、世界、特にアメリカと東アジア諸国の経済とどのように結びついているのか、戦後の歩みにも目を配りながら、その今日の姿を俯瞰するものである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講に際しては、講義進行の妨げとなる行為(私語・メール交換等)は厳に謹んでもらいたい。注意が聞き入れられない場合、退室を要求することもある。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

期末テスト(80%) + コメントカード(20%)

開講中、5回のコメントカード提出を求める。このコメントカードは出席点として扱うのではなく、どれだけ当該講義の内容を理解し、そして自分の関心にひきつけて考えたのかを確認するものである。したがって、ただ提出すれば点が与えられるものではないことを認識されたい。

講義スケジュール

1. イントロダクション: 数字で見る世界の中の日本経済
2. 国際経済を見る目 : 貿易と海外投資に関する理論の基礎
3. 国際経済を見る目 : 自由貿易体制を支える制度
4. 日本経済の歩み : 戦後復興と朝鮮特需
5. 日本経済の歩み : 高度経済成長
6. 日本経済の歩み : 70年代の2つの「ショック」
7. 日本経済の歩み : 「プラザ合意」と海外直接投資の増加
8. 日本経済の歩み : 日米貿易摩擦の発生
9. グローバル化時代の日本経済 : 経済のグローバル化とIT革命
10. グローバル化時代の日本経済 : 90年代の対米直接投資
11. グローバル化時代の日本経済 : 対外直接投資と産業空洞化
12. グローバル化時代の日本経済 : 東アジアの奇跡とアジア通貨危機
13. グローバル化時代の日本経済 : 「技術立国」を目指す日本の取り組み
14. まとめ

テキスト

特に指定しない

参考書

三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社
小浜裕久・渡辺真知子[1996]『戦後日本経済の50年』日本評論社
日本経済新聞社編『Q&A日本経済100の常識』

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生

担当教員 STEVE L. MONTOYA

講義内容・テーマ

We will work on listening and speaking skills, using current events and social interactions. All students must participate in each class.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

You must have a basic knowledge of English, and apply that knowledge to the coursework.

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

You will be graded in two areas: tests and reports (50%) and class attendance and participation (50%); all students must attend class. Each class you miss will result in losing ten points each for attendance and participation each time you miss; after five misses, you fail the class. You cannot start classes in the middle of the semester; if you miss the first three or four classes, you will not be allowed in my classroom. You must also not be late. If you are more than ten minutes late, you will not be allowed in my classroom. Some students want to come thirty minutes or one hour late; that is unacceptable; you must be in class within ten minutes of the bell ringing, or you cannot enter.

講義スケジュール

We will meet once a week; each class will include listening and speaking; we will also watch video clips that relate to the topic we are studying.

テキスト

The text can be found in the campus bookstore; "Hear It! Say It!" by Kinseido

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

総合英語 NB

12262

授業開講期間 前期単位数 1配当回生担当教員 LACHLAN JACKSON講義内容・テーマ

This course aims to develop communicative competence in English. Although this is a four skills course, emphasis will be placed on the enhancement of speaking and listening proficiency. The core text will be supplemented with material from a range of media. The instructor has designed the lessons to be both practical and fun. A willingness to participate and try new things is essential for this course.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点評価

Grades will be based on participation, homework, quizzes, and a final test. Students will be notified well in advance of the grading criteria, weighting and deadline of all set tasks.

講義スケジュール

A detailed weekly schedule will be provided to students in the first class.

テキスト

Headway (Pre-Intermediate), Oxford University Press

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2～8回生

担当教員 川上 文子

講義内容・テーマ

発音練習を重視した教科書を用いる。全十二章を半期で終わる予定である。一章は五部に分かれている。第一部は単語の発音練習。第二部と第三部は文の発音練習。第四部は二頁に渡る文章を聞き、かつ読む。この部分は教科書の著者のアメリカ人自身が書いた随想である。第五部は聞き取り問題となっている。予習も復習も要求しない。その場限りの授業なのでその分集中して勉強していただければ幸いである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会人学生および夜間主コース学生のみ

受講に必要な知識は何も要らない。受講条件としては、教科書が無いと授業に参加できないので、忘れた場合は人から借りて複写物を準備しておくことが望ましい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

出席を重く見る。併せて期末試験と、時折要求する予定の課題を提出したか、それに授業に積極的、に望む態度など、総合的に判断して不公平の無い評価が出来ればと望んでいる。

講義スケジュール

第一回。自己紹介、作文など。和英辞書が必要。

第二回。教科書の第一章。鴨獺と銃規制。

第三回。第二章。免税と経済。

第四回。第三章。カリフォルニアの健康熱。

第五回。第四章。ジョージアの貧乏白人。

第六回。第五章。私の初めての仕事。

第七回。第六章。私の好きな食べ物。

第八回。作文をする。和英辞書が必要。

第九回。第七章。インターネットの結婚相談所。

第十回。第八章。おばあちゃんは戦争反対。

第十一回。第九章。母の病気。

第十二回。第十章。万引きだ。

第十三回。第十一章。音楽と私。

第十四回。第十二章。主夫。

第十五回。試験。

テキスト

ENGLISH EXPERT - From Sound to Meaning(シャドウイングによる英語完全制覇)。依田良、キャラクター・リチャード共著。開文社。千八百円。生協にて購入のこと。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 1

配当回生 2～8回生

担当教員 佐々木 敏二

講義内容・テーマ

今年度は成美堂から刊行された「民族から見たアメリカ社会」Ethnic Minorities in the U.S.A.をテキストとして使用する。前期の分では、日系人、ユダヤ系、中国系、アメリカ先住民、ドイツ系、韓国系、などの約。10の少数民族を扱う。英語の文章を読むばかりでなく、その中身をよく理解するように努力してほしい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会人学生および夜間主コース学生のみ

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

レポートに対する評価を高く見ている。テキストの中のいくつかの課題に対してレポートを課す予定である。

講義スケジュール

各課の本文を1回ないし2回で読み、設問を1回ぐらいでやる予定。すべての少数民族をやるとは限らないので、教室でみんなの意見を聞いて、諸君の興味のある民族を主として扱いことにする。

テキスト

Ethnic Minorities in the U.S.A.「民族から見たアメリカ社会」(成美堂、1800円)生協の教科書販売部で購入のこと。k

参考書

日系アメリカ人に関する図書をぜひとも読んでほしい。この関係の図書は図書館にかなりそろえてある。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生

担当教員 STEVE L. MONTOYA

講義内容・テーマ

We will work on listening and speaking skills, using current social ideas. All students must participate in each class.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

You must have a basic knowledge of English, and apply that knowledge to the coursework.

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

You will be graded in two areas: tests and reports (50%) and class attendance and participation (50%); all students must attend class; each class you miss will result in losing ten points each for attendance and participation each time you miss; after five misses, you fail the class. You cannot miss the first three or four classes and then start coming to class. If you are not here for the first few classes, you cannot attend my class. You must also be here within ten minutes of the bell ringing. You will not be allowed in the classroom if you are more than ten minutes late. Some students walk in thirty minutes or one hour late; this causes too many problems. Be on time!

講義スケジュール

We will meet once a week; each class will include listening and speaking; we will also watch video clips that relate to the topic we are studying.

テキスト

You can find the text in the campus bookstore; "Hear It! Say It!" by Kinseido

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

総合英語 NB

14607

授業開講期間 後期単位数 1配当回生担当教員 LACHLAN JACKSON講義内容・テーマ

This course aims to develop communicative competence in English. Although this is a four skills course, emphasis will be placed on the enhancement of speaking and listening proficiency. The core text will be supplemented with material from a range of media. The instructor has designed the lessons to be both practical and fun. A willingness to participate and try new things is essential for this course.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点評価

Grades will be based on participation, homework, quizzes, and the final test. Students will be notified well in advance of the grading criteria, weighting and deadline of all set tasks.

講義スケジュール

A detailed weekly schedule will be provided to students in the first class.

テキスト

Headway (Pre-Intermediate), Oxford University Press

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 1

配当回生 2～8回生

担当教員 川上 文子

講義内容・テーマ

発音練習を重視した教科書を用いる。全十二章を半期で終わる予定である。一章は五部に分かれている。第一部は単語の発音練習。第二部と第三部は文の発音練習。第四部は二頁に渡る文章を聞き、かつ読む。この部分は教科書の著者のアメリカ人自身が書いた随想である。第五部は聞き取り問題となっている。予習も復習も要求しない。その場限りの授業なので、その分集中して勉強していただければ幸いである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会人学生および夜間主コース学生のみ

受講に必要な知識は何も要らない。受講条件としては、教科書が無いと授業に参加できないので、忘れた場合は人から借りて複写物を準備しておくことが望ましい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

出席を重く見る。併せて期末試験と、時折要求する予定の課題を提出したか、それに授業に積極的に臨む態度など、総合的に判断して不公平の無い評価ができればと望んでいる。

講義スケジュール

第一回。自己紹介、作文など。和英辞書が必要。

第二回。教科書の第一章。鴨獺と銃規制。

第三回。第二章。免税と経済。

第四回。第三章。カリフォルニアの健康熱。

第五回。第四章。ジョージアの貧乏白人。

第六回。第五章。私の初めての仕事。

第七回。第六章。私の好きな食べ物。

第八回。作文をする。和英辞書が必要。

第九回。第七章。インターネットの結婚相談所。

第十回。第八章。おばあちゃんは戦争反対。

第十一回。第九章。母の病気。

第十二回。第十章。万引きだ。

第十三回。第十一章。音楽と私。

第十四回。第十二章。主夫。

第十五回。試験。

テキスト

ENGLISH EXPERT-From Sound to Meaning(シャドウイングによる英語完全制覇)。依田良、リチャード・キャラクター共著。開文社。千八百円。生協にて購入のこと。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

総合英語 NB

11259

授業開講期間 後期単位数 1配当回生 2～8回生担当教員 佐々木 敏二講義内容・テーマ

今年度は後期も、前期同様に、成美堂の「民族から見たアメリカ社会」Ethnic Minorities in the U.S.A.を使用する。そのテーマは日系人(戦争花嫁)という存在、メキシコ系、キューバ系、アラブ系、インドネシア系、バルカン系、などを扱っているものである。その全部を使用すかどうかは、教室で諸君と損段して興味のあるものから使う予定である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会人学生および夜間主コース学生のみ

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価

講義スケジュールテキスト

成美堂「民族から見たアメリカ社会」1800円、生協の教科書販売部で購入のこと。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 1

配当回生 1以上

担当教員 OLIVER DAMMACCO

講義内容・テーマ

This is a basic communicative skills course, which focuses primarily on listening and speaking through the introduction of theme-based content.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Students are expected to participate in the various tasks introduced, in order to develop their communicative abilities.

評価方法・基準

* 日常点評価

Grading will be based on attendance, classroom tasks and overall communicative development. A more detailed breakdown will given in class. Students are reminded that they must attend 10 of the 15 classes in order to avoid an F, as stipulated by the University.

講義スケジュール

Lesson 1-2 People: Introducing yourself and others. Family information. Famous people.

Lesson 3-4 People: Describing someone. Feelings & personalities.

Lesson 5-6 Places: Describing a town. Describing your home.

Lesson 7-8 People & places: Talking about lifestyle. Work. Food

Lesson 9-10 Time: Talking about travel experiences. Describing experiences.

Lesson 11-13 Time: Plans and ambitions

テキスト

No text is required. Students will be given hand-outs based on Themes.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

This course is subject to change, according the rate of progress and other variable factors.

総合英語 N

20250

授業開講期間 夏集中

単位数 1

配当回生 1以上

担当教員 ANDREW DOWLING

講義内容・テーマ

The main goal of this course is to increase communicative ability by focusing on the use of IDIOMS. The idioms will be studied in the context of true stories in the textbook listed below, and the students will practice the use of these idioms through textbook exercises, creating their own dialogs, short stories, and skits.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Due to the nature of this course, active participation will be expected of each student.

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

	Class 1(6th Period)	Class 2 (7th Period)
MON	Introduction	Perform, Unit 1 (HW: short story)
TUES	Quiz, Perform, Unit 2 (create dialog)	Perform, Unit 3 (HW: short story)
WED	Quiz, Perform, Unit 4 (create dialog)	Perform, Unit 5 (HW: short story)
THURS	Quiz, Perform, Unit 6 (create dialog)	Perform, Unit 7 (HW: short story)
FRI	Quiz, Perform, Unit 8 (create dialog)	Perform, Unit 9 (HW: short story)

	Class 1 (4th Period)	Class 2 (5th Period)
SAT	Prepare skits outside of classroom	Quiz, Perform, Unit 10

Class 3 (6th Period)
Skits, Music

NOTE: This schedule may change and additional material or activities may be included. It is the student's responsibility to make note of any changes.

テキスト

Can You Believe It? Book 2 (Oxford Press)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 松原 始

講義内容・テーマ

地球の歴史は45億年、生命の歴史は約40億年に及び、その間、地球環境は変動を繰り返して来たが、生物は絶えることなく現在まで生存している。生命がどのように生まれ、現在に至ったか？地球と進化の歴史を概観し、40億年の壮大さを実感してほしい

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特にスキルや知識は必要ありません。
参考のため、アンケート等を実施する場合があります。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

地球の成立
原始大気
生命の発生
化学合成と光合成
酸素呼吸と無気呼吸
細胞共生
生態系の構造
カンブリア大爆発
ニッチの拡大と生物間相互作用
大陸移動とプレートテクトニクス
陸上へ
植物の進化
恐竜
大絶滅
大陸と島の生物
人間のしたこと

テキスト

特定のテキストは指定しません。必要に応じてプリントを配付します。

参考書

・松井孝典『地球・46億年の孤独』（徳間書店）
・リチャード・フォーティ『生命40億年全史』（草思社）
・伊藤嘉章ほか『動物生態学』（蒼樹書房）など

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

適当なキーワードを考えて検索してみてください

その他

土のはなし N

11187

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 福本 武明

講義内容・テーマ

昨年の3月、奈良県川上村白屋で、近くを流れる吉野川に建設されたダムに貯水を開始したところ、4月になってダムの近くの家や畠に亀裂が入るという事故が発生した。調査の結果、ここは中央構造線の上に位置し、しかもこの部落は崖堆という土の上にあり、従って貯水とともに周辺の地下水が上昇し、土の強度が減り、土が滑りだしたものと判明した。本講義ではこのような土の問題点について論ずる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日頃、マスコミなどで報じられる土に関する情報に鋭敏になってほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

講義スケジュール

- 第一回 基礎編 土の種類
- 第二回 土の構造
- 第三回 土の性質
- 第四回 土の強さ
- 第五回 土の調査法
- 第六回 応用編 ビサの斜塔
- 第七回 砂の液状化
- 第八回 杭のネガティブ フリクション
- 第九回 斜面崩壊(その1)
- 第十回 斜面崩壊(その2)
- 第十一回 基礎構造物
- 第十二回 トンネル
- 第十三回 軟弱地盤
- 第十四回 土の締め固め
- 第十五回 阪神大震災による土構造物の被害

テキスト

毎回、テキストを配布する。

参考書

池谷浩:土石流災害(岩波新書)、松田時彦:活断層(岩波新書)など。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

講義の進めていく中で、講義内容などを変更することもありうる。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 畑中 和夫

講義内容・テーマ

日本国憲法の全体像を、平和主義、国民主義、基本的人権尊重主義という憲法三原則の視点からとらえ理解することを目標にする。法学部以外の受講者が多いことや、毎年むつかしいという学生諸君の評価を念頭において、誰にでもわかり、誰でも理解できる憲法講義であるよう努めたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

誰にでもわかる講義といっても、吉本興業のようにはいかないので、あらかじめお断りしておく。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 筆記試験・定期試験として実施

評価の基準は、国家公務員 種・地方公務員上級試験と同程度である。

講義スケジュール

- 1 国際社会と日本の憲法 平和主義原則と安保・国連
- 2 人権保障の歴史的展開と基礎構造
- 3 思想・良心、信教の自由
- 4 表現の自由と「知る権利」・プライバシー
- 5 経済的自由 営業の自由と財産権の制限
- 6 生存権、権利としての社会保障
- 7 勤労の権利と労働基本権
- 8 国民主義と天皇制
- 9 政治参加の権利
- 10 国家の組織と権力分立
- 11 国会 国権の最高機関の意味
- 12 議院内閣制と首相公選制
- 13 法の支配と司法権の独立
- 14 地方自治の保障と「地方分権」
- 15 憲法保障と憲法裁判(違憲法令審査制)

テキスト

山下健次・畑中和夫編『ベーシック憲法入門[第二版]』(法律文化社)

参考書

多数につき、講義中に適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

法律相談に利用しないこと

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生

担当教員 森下 徹

講義内容・テーマ

今、世界と日本は「戦時下」にあると見てよい。アメリカは、戦後の国際秩序とグローバルな反戦・非戦の声を無視し、イラク侵略戦争を開始した。アメリカに追随する日本は、平和憲法を無視し、戦後初めて戦地に自衛隊を派兵した。世界平和のために、われわれに何が出来るのか、また何をなすべきなのか。本講義では、戦後日本の平和運動や平和論を振り返り、歴史の中から21世紀の世界と日本の平和への道を探りたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義最終日の土曜日には、平和ミュージアムの見学を予定している。そのため、土曜日は、講義開始時間を繰り上げ14:30ころから始める予定である。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

はじめに 平和学とは アンケート調査
「戦時下」の世界と日本
戦争は国際法違反 憲法第9条と国連憲章
民衆はだまされていたのか 東京裁判と日本の戦争責任
対米追随の原点 講和条約と安保条約
全面講和を求めて 戦後平和運動の出発
ゴジラはなぜ作られたのか 平和の文化を築く
生きていてよかった ビキニ事件50年(VTR)
「ならず者国家」アメリカ!? 9・11テロ・アフガン報復戦争・イラク戦争
Peaceful Tomorrows(VTR)
平和ミュージアム見学 14:30～16:30
戦争をしない国から戦争をする国へ イラク特措法・有事法制・憲法改正
おわりに 21世紀の平和を築く

テキスト

なし。資料をプリントで配布する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 与原 裕介

講義内容・テーマ

米国が世界有数の大国である要因の1つに、米国の先端技術の水準が他国を凌いでいることが挙げられる。この講義では、20世紀前半の鉄鋼・石油化学から、現在のインターネットまで、米国のハイテク産業が発展した歴史をたどりながら、米国政府の政策が果たした役割や、アメリカ社会の特色を探る。世界の経済活動のルールがつけられるとき、米国の考え方が強く反映されている。米国の歴史経験を知り、米国の考え方をすることは今後の世界を考えるうえで有意義であろう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

米国の先端技術を勉強することがこの講義の目的ではない。米国の政治経済や社会を知るための切り口として先端技術を取り上げた。受講生が先端技術に興味関心や知識がなくても、十分に理解できる内容の講義になっているので、ご安心を。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験: 85%

日常点評価: 15% (授業のたびに簡単な感想・質問を書いた用紙を提出)

講義スケジュール

- 第1回 米国のハイテク産業の現状と歴史
- 第2回 建国当初の経済戦略 ハミルトンとジェファソン
- 第3回 米国の工業化 フォーディズムと標準化
- 第4回 巨大独占企業と競争ルール 金びか時代
- 第5回 世界恐慌と経済介入政策 ニューディール政策
- 第6回 第2次世界大戦と軍事技術開発 マンハッタン計画
- 第7回 冷戦とハイテク産業 スプートニク・ショック
- 第8回 米国と軍需産業 - 軍産複合体
- 第9回 ベトナム敗戦と科学不信 カウンターカルチャー
- 第10回 米国の競争力低下 - 産業政策論争
- 第11回 情報通信産業と企業家精神 シリコンバレー
- 第12回 米国政府とインターネット - アメリカの技術政策
- 第13回 標準化と知的所有権 グローバル・スタンダード
- 第14回 米国の情報通信産業で働く外国人労働者
- 第15回 まとめ

テキスト

特になし

参考書

- J. ホイジンガ (橋本富郎訳) 『アメリカ文化論』世界思想社、1989年
- 宮田由紀夫 『アメリカの産業政策』八千代出版、2001年
- 鈴木透 『実験国家アメリカの履歴書』慶應義塾大学出版会、2003年

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業中に紹介する。

その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 飛鳥井 雅友、永都 軍三

講義内容・テーマ

ドイツとフランスを中心に、ヨーロッパの歴史と文化を概観する。
6日間の講義を二人の教員で担当し、前半は永都がフランスに関して、
後半は飛鳥井がドイツに関して、それぞれの観点から講義を
行う。具体的な内容は講義スケジュールを参照のこと。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に前提とすべき知識や技能は要求しないが、貪欲な知識欲と思考意欲をもって講義にのぞんでいただきたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
* 試験に代わるレポートとして実施
講義への出席状況、ならびに試験・レポートによる。
各担当教員それぞれの指示にしたがうこと。
ただし、最終的な成績は両担当教員の協議の上で決定する。

講義スケジュール

前半(フランス)(永都軍三)

第1回:フランスの言語状況

第2回:フランス語の特徴

第3回:フランス語の特徴

第4回:フランスの思想文化

第5回:美術と庭園

第6回:音楽(シャンソンを中心に)

後半(ドイツ)(飛鳥井雅友)

「ベルリンと文学」をテーマとする。

ドイツの首都ベルリンを舞台とした文学作品をたどりながら、

ドイツを中心としたヨーロッパの歴史、ヨーロッパ文学の歴史をたどる。

第1回:ヨーロッパとドイツ。ベルリンの歴史(1)

第2回:ベルリンの歴史(2)

第3回:ロマン派の作家たちの描くベルリン

第4回:ヴィルヘルム・ラーベ「雀横丁年代記」

第5回:テオドル・フォンターネのベルリン社交小説

第6回:ドイツ表現主義の詩人たち

第7回:ドイツ文学史における森鷗外「舞姫」

テキスト

参考書

授業中に適宜、指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 田崎 英明

講義内容・テーマ

近年のヨーロッパ系の思想家たちに見られるキリスト教、とくにカトリックへの回帰ないし再評価の現象(たとえば、スロヴェニアの哲学者スラヴォイ・ジジエクやフランスの哲学者アラン・バディウ、あるいは、イタリアの哲学者、マッシモ・カッチャーリやジョルジョ・アガンベンなど)について考えてみたい。ヨーロッパが自己のアイデンティティを形成するのに大きな意味をもったキリスト教とイスラームとの関係や、さらに、現代における社会主義・マルクス主義とキリスト教との関係についても触れたい。また、参考として、ヨーロッパの映画(パゾリーニなど)も採りあげる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

- 1.キリスト教の基礎概念の概観
- 2.現代ヨーロッパ知識人の「キリスト教回帰」?
 - ・ジジエクのキリスト教再評価の論理
 - ・現代イタリア(左翼)知識人におけるキリスト教的要素
 - ・現代フランス知識人にとってのキリスト教
- 3.現代ヨーロッパ文化におけるキリスト教に対するアンビヴァレンツ
 - ・ピエル・パオロ・パゾリーニ(イタリアの映画監督)

テキスト参考書

竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社選書メチエ

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他